Kitakyushu Action!

動かせ、未来。北九州市

北九州市・新ビジョン
北九州市基本構想・基本計画

目　次

北九州市基本構想

北九州市が目指す都市像　2

目指す都市像に込めた思い　3

第１章　北九州市のこれまでの挑戦　４～６

１　北九州市の歩みと個性　4

２　北九州市が体現してきた「一歩先の価値観」　6

第２章　目指す都市像の実現に向けた３つの重点戦略　７～10

１　「成長と幸福の好循環」の実現へ　7

２　３つの重点戦略　９～10

（１）「稼げるまち」の実現　9

（２）「彩りあるまち」の実現　9

（３）「安らぐまち」の実現　10

北九州市基本計画

第１章　計画の策定にあたって　13～15

１　計画の構成　13

２　計画の期間　13

３　計画の進行管理・見直し　13

４　計画の推進体制　14

５　計画と地方版総合戦略の関係　14

６　市政変革による基盤づくり　15

第２章　「稼げるまち」の実現
～人も企業も潜在力を開花できるまち～　16

第３章　「彩りあるまち」の実現
～輝く個性と楽しさがあふれるまち～　20

第４章　「安らぐまち」の実現
～誰もがつながるアットホームなまち～　23

第５章　人口増に向けた道筋　25

第６章　主要な成果指標　27

第７章　７つの個性が輝くまちづくり　30～44

１　門 司 区　31

２　小倉北区　33

３　小倉南区　35

４　若 松 区　37

５　八幡東区　39

６　八幡西区　41

７　戸 畑 区　43

データ集

1　「人口」関連　46
2　「稼げるまち」関連　55
3　「彩りあるまち」関連　65
4　「安らぐまち」関連　72
5　「財政」関連　78
6　「ウェルビーイング」関連　82

付属資料

1　策定経過　84
2　策定体制　85
3　北九州市新ビジョン検討会議　86
4　有識者インタビュー　88
5　北九州市アドバイザー意見交換会　90
6　市民参加の取組み　91
7　用語解説　95

北九州市基本構想

北九州市が目指す都市像

つながりと情熱と技術で、

「一歩先の価値観」を体現する

グローバル挑戦都市・北九州市

ひとの数だけ、スポットライトがある。
だれもが主人公になって、イキイキと
自分の人生をもっと好きになって進んでいく。

一人ひとりに宿る力を、
もっと支え、挑戦を後押しできる都市へ。
積み重ねてきた歴史を、
脈々と継承し、新しい価値を生みだせる未来へ。

多様な個性がまざりあい、つながりあうからこそ
生みだされる価値は、日本のみならず世界へと大きく広がり、
だれもが豊かで安らげる未来をつくっていく。

つながりと情熱と技術で、
「一歩先の価値観」を体現するグローバル挑戦都市へ。
さあ、愛さずにはいられない未来を、北九州市から。

目指す都市像に込めた思い

「北九州市が目指す都市像」については、多くの市民、有識者などからの意見を踏まえ、次の思いで取りまとめています。

【つながりと情熱と技術】

北九州市は、市民一人ひとりがその持てる力を最大限に発揮し、未来へ歩みを進める上で、これからも大切にすべき北九州市の強みや誇りを、これまでのまちの歴史や都市の DNA（特性）、市民の気質などから、人と人との「つながり」、熱い「情熱」、ものづくりや環境の「技術」力の 3 つに凝縮しました。

【一歩先の価値観】

北九州市は、これまで「つながりと情熱と技術」で幾多の困難を乗り越え、その先にある「一歩先の価値観」として、「利他の精神」、「能力開花」、「持続可能」を体現してきました。

これからも少子高齢化・人口減少などの社会課題に挑戦し、克服していくことにより、市民が幸せを感じ、誇りを持ち続けることができる、新たな「一歩先の価値観」を体現できるまちであり続けます。

【グローバル挑戦都市】

北九州市は、官営八幡製鐵所をはじめ、世界に挑戦する企業を生んできたまち、また、それを支える中小企業や人材を輩出してきた輝かしい歴史のあるまち、そして、環境先進都市として世界をけん引してきたまちです。

これからも世界に先駆けて新たなことに挑戦し続けるという北九州市の歴史や DNA（特性）を守り、引き継ぎ、未来へ歩みを進めていきます。

第１章　北九州市のこれまでの挑戦

１　北九州市の歩みと個性

（１）五市合併前

北九州地域は、本州と九州各地との結節点という地理的な特性から、城下町の小倉をはじめ、大里、黒崎、木屋瀬などが宿場町として、江戸時代から栄えてきました。

大きな転換点となったのは、日本の産業の近代化の礎となった官営八幡製鐵所の創業でした。筑豊の石炭に加えて、アジアに近く、災害リスクの低い強じんな土地や、豊富な水源を有していること、そして何より次世代の産業をつくるという地元の人々の情熱が、明治政府の一大プロジェクトの立地の決め手となりました。

（２）五市合併による多彩な歴史や文化

昭和 38 年（1963 年）、門司、小倉、若松、八幡、戸畑、それぞれ色合いが違う五市が対等合併し、九州初の「百万都市」、「政令指定都市」として、北九州市が誕生しました。

・陸上と海上運輸の集散地として栄えた九州の玄関口・国際貿易港「門司市」
・城下町時代からの商業・行政などの集積地で広域的な拠点機能を担った「小倉市」
・国内有数の炭鉱地帯・筑豊で産出される石炭の積出港として栄えた「若松市」
・日本の産業革命に貢献した官営八幡製鐵所創業の地「八幡市」
・工業人材教育へ向けて私立明治専門学校（現九州工業大学）が創設された「戸畑市」

歴史や文化、祭り、食、暮らしなどの旧五市の特色は、「７区７色の個性」として北九州市の個性となりました。

（３）「ものづくり」のまち

官営八幡製鐵所の創業により幕を開けた「ものづくり」のまちとしての北九州市は、重化学工業を中心とする国内有数の工業地帯、また、日本の高度経済成長をけん引する地として、急速に発展しました。

この勢いが求心力となり、革新的な技術で世界と戦う、進取の気鋭にあふれる起業家が次々と現れ、日本を代表する、株式会社安川電機や TOTO 株式会社などの企業が育っていきました。

（４）包摂性など市民の個性

「ものづくり」のまちとして、国内外から情熱や個性ある人々や企業が集まる中で、人情と包摂性にあふれる北九州市民は、その多様性を受け入れ、チャレンジを応援してきました。

また、外から取り入れた異質な文化と地域の文化が掛け合わさることで、人々の暮らしは豊かで活気のあるものになっていきました。

（５）市民力で実現した「公害の克服」

日本の高度経済成長をけん引してきた工業地帯として発展する一方で、激甚な公害も経験しました。

「七色の煙」や「死の海」と評された環境汚染に対し、「子どもの健康を守りたい」という強い思いを抱く、婦人会が立ち上がり、それを契機に企業と行政・研究機関も一体となって公害を克服しました。

こうした「市民力」や「産学官民連携の力」は、現在のまちづくりにも引き継がれています。

（６）日本をけん引する「環境産業の推進」

産学官民が総力を挙げて公害克服に取り組んだ結果、環境改善を果たしただけでなく、その過程で、環境に配慮しつつ、生産性も向上させる新たな技術を開発しました。

さらに、廃棄物処理と処分場の不足が日本全体で大きな社会課題になる中、廃棄物を原料として、再び資源に生まれ変わらせるリサイクル産業を創出し、「環境と経済」の両立を図ることにも成功しました。

リサイクル産業が集積する北九州エコタウンは、日本最大級のエコタウンとして国内外から高く評価されています。

（７）「環境先進都市」から「SDGs 未来都市」へ

公害克服やリサイクル分野などでの海外技術協力や、上下水道インフラの輸出などを通じて、アジアを中心に環境問題の解決にも大きな貢献を果たしてきました。

公害克服の歴史や、環境産業、国際技術協力などの実績の下、「環境先進都市」として、国内外で高く評価された北九州市は、その後、「SDGs 未来都市」として、環境面のみならず、経済面や社会面を含めた統合的な取組においても評価されています。

（８）名実とも「安全なまち」への転換

まちを悩ませていた暴力団の影についても、市民・企業・警察・行政が一体となって、暴力追放運動や防犯パトロールに強い決意で取り組んだ結果、暴力団はほぼ壊滅状態となり、刑法犯認知件数は大幅に減少しました。「怖いまち」のイメージは払拭され、北九州市は「日本トップクラスの安全なまち」へ生まれ変わろうとしています。

２　北九州市が体現してきた「一歩先の価値観」

北九州市は、明治の産業革命や高度経済成長をけん引するとともに、資源循環型社会の構築や SDGs 未来都市の推進など、時代の最前線で常に新しいことに挑戦してきました。
また、都市の成長の一方で、その副産物ともいえる公害や廃棄物問題など、全国に先駆けて様々な社会課題にも直面してきました。
そして、北九州市は、様々な社会課題に直面するたびに、人と人との「つながり」や、困難を乗り越えようとする人々の「情熱」、ものづくりのまちを支える高度な「技術」によって、幾多の困難を乗り越えて、まちの発展につなげてきました。

こうした過程の中で、困難を乗り越えた先にある「一歩先の価値観」を、日本や世界に先駆けて体現してきたまちです。
これまで、北九州市が体現してきた「一歩先の価値観」とは、

一つ目に「利他の精神」。
北九州市は、古くから国内外から人や企業を受け入れ、その挑戦を後押ししてきました。また、都市でありながら地域の強いきずなを生かして、地域福祉のネットワークを整備し、高齢者などを地域で見守り、ふれあい、支え合ってきました。
日本全国で地域における共助や互助の精神が薄れる中にあっても、市民が相互に包摂性を持ち、それぞれが望む生活や夢の実現に向けて支え合ってきました。

二つ目に「能力開花」。
北九州市は、激甚な公害に直面したとき、産学官民が一丸となって、大きな力を発揮して課題を克服しました。また、廃棄物を原料として再び資源に生まれ変わらせるリサイクル産業の創出や環境配慮型製品の開発など、新たな社会的・経済的な価値も創出してきました。
さらに、年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、その持てる力と意欲を最大限に発揮できるよう、まち全体で応援することにより、社会の構成員である一人ひとりが、様々な分野において活躍してきたほか、地域における支え合いのネットワークの構築などが展開されてきました。
このように、このまちに関わる人々や企業が、ポテンシャルを最大限に発揮することで、このまちの活力を維持・充実してきました。

そして、三つ目に「持続可能」。
北九州市は、平成 30 年（2018 年）に国内最初の「SDGs 未来都市」に選定され、SDGs を原動力に企業の成長と社会課題の解決に取り組みました。また、2050 年までにゼロカーボンシティを目指すことを目標に掲げ、日本や世界が抱える課題を克服し、次の世代に豊かなまちを引き継ぐための挑戦を続けています。

現在、北九州市は、少子高齢化・人口減少や気候変動問題などの社会課題に直面しています。こうした地球規模の課題解決に向けて、これからも「つながり」と「情熱」、「技術」で果敢に挑戦し、時代や環境の変化の中で、市民が幸せを感じ、誇りを持ち続けることができる、自分らしく新たな「一歩先の価値観」を見いだし、体現できるまちであり続けます。

第２章　目指す都市像の実現に向けた３つの重点戦略

１　「成長と幸福の好循環」の実現へ

市民が日常生活を営む上で重要なのは、尊厳を守られ、安全・安心に暮らし続けることができ、幸福を感じられることです。

北九州市は、オイルショック後の鉄冷え、それが発端となった製造業の合理化による人員削減、その後の円高や貿易不均衡是正のための製造業の海外移転などにより、北九州市の経済活動は弱体化しました。
さらに、北九州市は、かつて工業都市と支店経済都市としての両面を持ち合わせる九州最大の拠点都市でしたが、陸路から空路にシフトする時代への対応が遅れ、企業・事業所の市外転出が相次ぎ、次第に人口が減り始め、徐々にまちは元気を失っていきました。

しかしながら今、暴力追放運動による劇的な治安の回復や北九州空港の滑走路 3,000m化、風力発電関連産業の総合拠点化など、まちが大きく変化しようとしており、飛躍の時を迎えようとしています。

こうしたタイミングを捉え、市民の誰もが望む安全・安心で幸福を実感できるまちづくりに向けて、まずは「稼げるまち」の実現に取り組み、都市の経済力を高めていきます。

具体的には、まず、北九州市が有する歴史や文化、自然、食、人、産業など、様々な魅力に関する情報を全国の人たちに届け、恵まれた陸・海・空のネットワークを活用して北九州市を訪れて、触れていただき、関心を高め、体験していただく取組を強化します。
また、ものづくりや環境分野の技術を生かした未来産業の集積や、市内企業の生産性向上、スタートアップの創出など、企業活動の進出や拡大を通じて、誰もが活躍できるまちの実現にも取り組みます。

「稼げるまち」の実現により、収入が増えることで、消費意欲が喚起され、さらに、新たなことに挑戦する人たちが集まります。こうした流れによって、まちに活力やにぎわいが生まれ、物心両面での多様なライフスタイルへのニーズが高まっていきます。
こうした多様なニーズの高まりに応えるため、民間の投資や開発などを喚起し、魅力的な街並みや住環境、教育環境、文化芸術・スポーツに接する環境、観光などのコンテンツを充実させ、年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、自分らしさを大切にできる、多様な選択肢がある「彩りあるまち」を実現していきます。

「彩りあるまち」の実現により、人々は自分らしさやそれぞれが望む生活を楽しむことができ、安らぎを感じることができます。
こうした安らぎをさらに高めていくため、「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現による“成長の果実”によって、生活の基盤である安全・安心な暮らしを確保・充実するとともに、人々がお互いを尊重し、支え合う包摂的で心豊かに暮らすことができる「安らぐまち」の実現につなげていきます。

安らぐことができるから、安心してまた未来に向かって進んでいくことができます。
このようなまちは、その魅力によって、市外からもさらに人が集まり、集まった人々が定着するまちにつながります。
こうして、少子高齢化・人口減少などの社会課題に直面している中においても、まちも人も潤っていく「まちの成長」と「市民の幸福」の好循環をつくっていきます。

この「成長と幸福の好循環」による「経済成長と社会課題解決の両立」のロールモデル（＝課題解決の道筋）として日本やアジア、そして世界に示していくことで、我が国や世界の未来に貢献することを目指し、それにより、日本国内や世界における北九州市の評価を高め、国内外から人や企業、投資を呼び込むとともに、北九州市民のシビックプライドの向上にもつなげていきます。

こうして、「つながりと情熱と技術で、『一歩先の価値観』を体現するグローバル挑戦都市・北九州市」を目指していきます。

２　３つの重点戦略

（１）「稼げるまち」の実現

北九州市の市内総生産額や雇用者報酬などの水準や増加率は、政令市の中でも下位に位置しており、経済の停滞が続く中、まちの活力を取り戻すため、まずは「経済成長」に取り組みます。

このため、陸・海・空のネットワークや豊富な水資源、エネルギーといったポテンシャルを最大限に発揮しながら、産学官民が一体となって、未来志向の新しい産業やスタートアップ企業の創出や集積を目指します。

また、市内企業のDXを推進し、AIの活用などによる「生産性向上」や「高付加価値化」の取組を後押しし、誰もがチャレンジできる環境づくりにも取り組みます。

こうして、若者や女性、高齢者や障害のある人、また外国籍の人など、自らの夢に挑戦する意欲ある人々が集い活躍し、多様な個性が調和することで、強い経済を実現し、活力あふれる「稼げるまち」を目指します。

（２）「彩りあるまち」の実現

年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、自らの目標に向かって挑戦する人々が集まり、社会に参加し活躍することにより、まちに活力とにぎわいが生まれます。

それにより、人々の生活は豊かになり、消費意欲が高まります。

こうした人々の、ゆとりある、心豊かな生活に対する多様なニーズに応えるため、民間投資なども活用して、自然と調和した生活環境やまちの空間整備に取り組みます。

また、子ども一人ひとりの個性や多様性が尊重され、持てる可能性を発揮できる教育の推進や、生活を健康で心豊かにする文化芸術・スポーツの振興、そして、豊かな自然と歴史を生かした観光資源の磨き上げなどにより、魅力あふれるまちづくりを進めます。

自分らしさを大切にできる多様な選択肢をつくっていくことで、住む人々のまちへの愛着が深まり、また、感性豊かでクリエイティブな人たちなどをひきつけ、輝く個性が調和する「彩りあるまち」を目指します。

（３）「安らぐまち」の実現

「稼げるまち」や「彩りあるまち」の実現により、多様な人々が集い、暮らすとき、最も基本的で大切なことは、誰もが日々の暮らしに安心と安らぎが感じられるまちづくりです。

そのため、子育てや保健・医療・介護・福祉などの分野において質の高いサービスが提供されるよう、そして、防災や防犯などの分野では行政と民間、地域が一体となって市民の生命・財産を守る仕組みづくりに取り組みます。

また、人々の生活を支える道路や水道、都市の規模に適したコンパクトで質の高い公共施設などの都市基盤を維持していきます。

こうした安心と安全を基礎として、年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、誰もが人と人とのつながりの中で、お互いを尊重し合い、それぞれが望む生活や夢の実現に向けて一歩先に進むために、温かく支え合う「安らぐまち」を目指します。

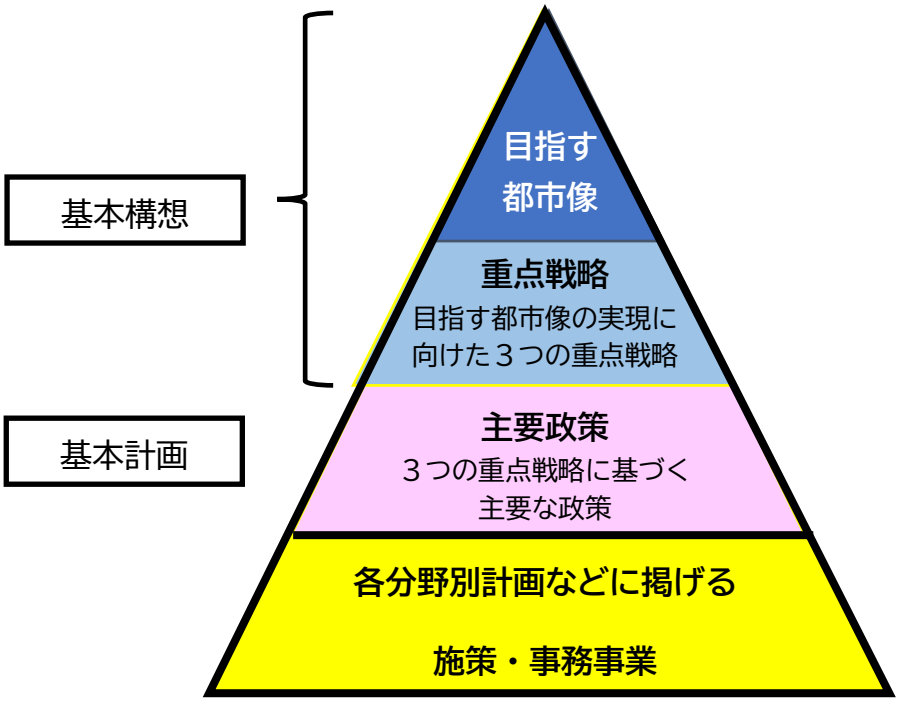
北九州市基本計画

第１章　計画の策定にあたって

１　計画の構成

基本計画は、北九州市の取組を網羅的に示すものではなく、今後の北九州市のまちづくりの方向性を明らかにした基本構想を実現するため、重点的に取り組むべき方向性となる主要な政策を体系的にまとめたものです。

このため、基本計画に掲げる主要政策をはじめ、北九州市が実施する様々な政策については、「北九州市産業振興未来戦略」をはじめとする各分野別計画や、毎年度の予算編成において、選択と集中の考え方の下、施策や事業として具体化し実施していきます。



２　計画の期間

基本計画の目標年次は、令和 22 年（2040 年）とします。

３　計画の進行管理・見直し

毎年度、行政評価により、基本計画に掲げた主要政策に基づく施策や事業の取組状況や KPI（成果指標）の達成状況を把握していきます。

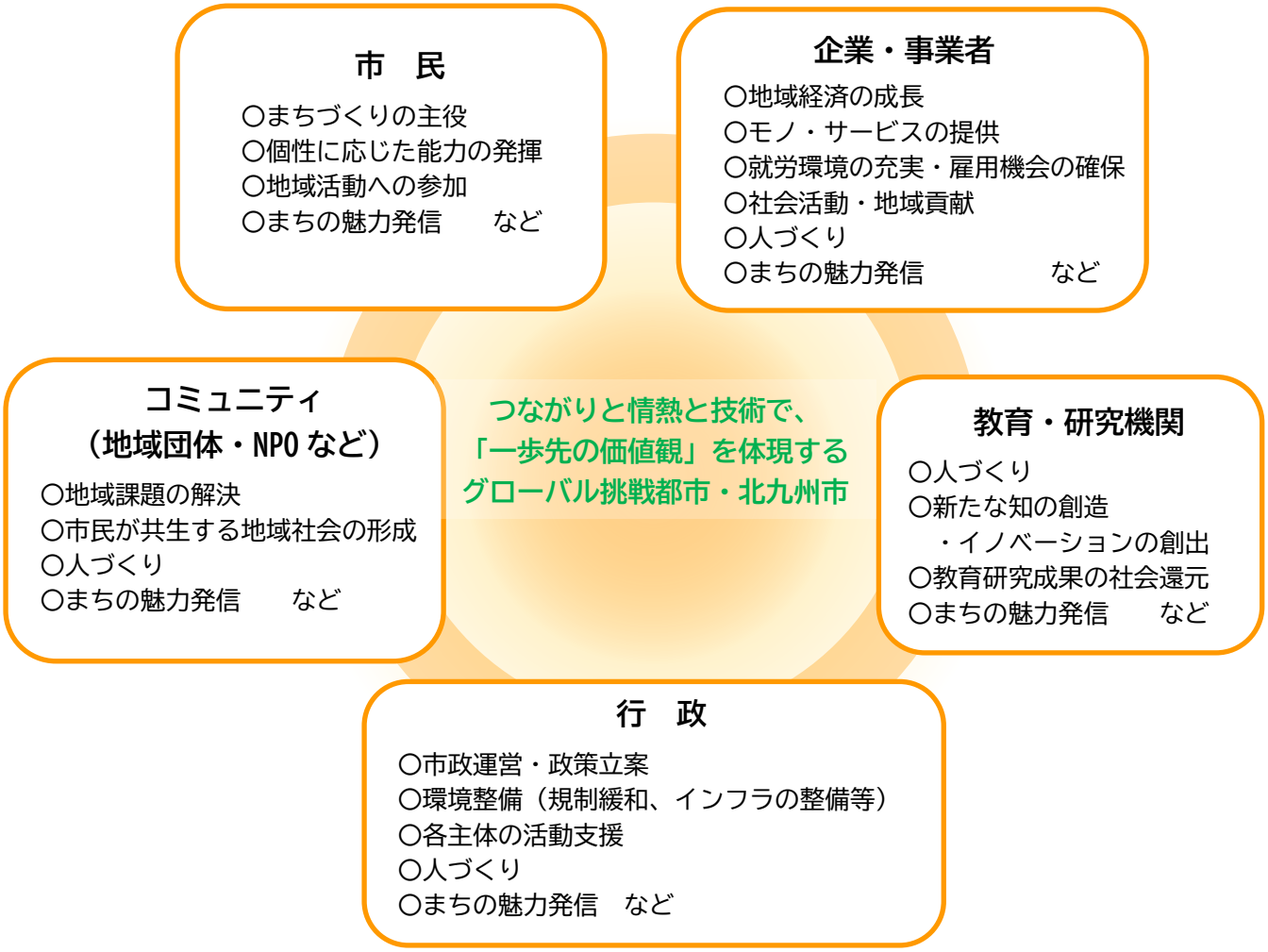
また、社会経済情勢や市民ニーズの変化、計画の進捗状況などに応じて、概ね５年ごとに内容を検証し、適宜、計画の見直しを行うこととします。

4　計画の推進体制

基本計画に掲げる主要政策の実現に向けて、産学官民などの各主体がそれぞれの役割を果たしながら、総合力を発揮して、一丸となって推進するため、有識者や学識者などによる、計画の推進や検証などを行う仕組みを構築します。

また、行政内部においては、庁内全体で取り組むとともに、プロジェクトチームの設置など、柔軟に横断的な連携体制の下で推進します。

＜ 各主体における役割のイメージ ＞



5　計画と地方版総合戦略の関係

人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度な集中を是正し、将来にわたって活力ある社会を維持していくことを目的に、平成 26 年（2014 年）11 月に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、北九州市では、同法に基づき、令和２年（2020 年）３月に地方版総合戦略として「第２期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しています。

今後の地方創生の取組の方向性は、この基本計画に掲げる方向性と合致することから、地方版総合戦略は基本計画に包含し、一体的に取り組みます。

６ 市政変革による基盤づくり

北九州市では、社会経済上及び財政上の様々な課題に直面しており、基本構想・基本計画に基づいた行財政運営を将来にわたって着実に進め、未来への挑戦を続ける都市としての持続可能性を保ち、安心安定した生活環境を次世代に引き継ぐためには、行財政運営のあり方を変革する必要があります。

このため、「北九州市政変革推進プラン」に基づき、市政運営そのものの変革につなげることを目標とした「市政変革」の取組を進めます。

北九州市が取り組む市政変革は、「もっぱら『削る改革』ではなく、未来を『創る改革』」とし、行財政運営のカタチを変えることで、将来に向けて都市の総合力を高めることを目指します。

具体的には、短中期には「財政の模様替え」を進め、生み出した財源等を、若者や子どもなどへの投資、産業基盤の強化・創出への投資、公共施設等の老朽化対策への持続可能なまちづくり投資など、次世代への投資を進めるとともに、中長期には持続可能な行財政状況の確保を図っていきます。

また、社会経済情勢の変化も踏まえつつ、政策展開に迅速・柔軟に対応できる、挑戦を続ける機能的・機動的な市役所づくりに取り組みます。

この取組を着実に進めることで、基本構想で示す「一歩先の価値観」を体現できる都市であり続けるための基盤づくりを行います。

第２章　「稼げるまち」の実現　～人も企業も潜在力を開花できるまち～

「稼げるまち」の実現にあたっては、産学官民の連携により、陸・海・空のネットワークの構築や近隣自治体との連携などの「稼げる基盤」を強めていくとともに、若者や女性をはじめとした多様な人材の就業や起業を後押しする「稼げる人」の育成を進めていきます。

また、若者に魅力ある企業の誘致に加えて、民間主導による、企業の魅力や生産性の向上、新規分野のビジネス展開などにより、「稼げる産業」を創出していきます。

こうした取組によって、都市の経済力を高めることで、「人も企業も潜在力を開花できるまち」を目指していきます。

１　稼げる「基盤」をつくる

（１）陸・海・空のネットワークの構築

24 時間利用が可能で Sea＆Air 輸送にも対応できる海上空港である「北九州空港」の滑走路 3,000m化を契機として、国内外からのさらなる物流需要の取り込みや、利便性の高いアクセスの強化、旅客路線ネットワークの拡大に取り組みます。また、都市間の連携強化や産業集積促進のため、「下関北九州道路」の早期整備などによる道路網や北九州港におけるコンテナ・フェリーなどの物流機能の充実・強化、カーボンニュートラルポートの整備にも取り組みます。

（２）メガリージョンの推進

福岡市や下関市、18 市町で構成する連携中枢都市圏をはじめ、北部九州エリア全体で大規模都市圏（Greater 北部九州圏）を形成することで、アジアを見据えた産業や人材の集積、観光誘客、都市インフラ整備などを推進します。

（３）新たな産業用地などの創出

未来産業や物流産業などの企業誘致の受け皿となる新たな産業用地を創出するため、官民連携による先進的な事業手法の導入（規制緩和）や土地利用規制の見直しなどを推進します。

２　稼げる「人」を育む

（１）スタートアップの創出・成長

地域経済の発展や社会課題の解決に向けたイノベーションの担い手となる、スタートアップ企業や人的資源の創出・成長を支援します。また、変化の激しい社会において「生きる力」を向上し、さらに未来の起業家を育成するため、チャレンジ精神や創造性・実行力を育むアントレプレナーシップ（起業家精神）教育を小学生期から推進します。

（２）若者のチャレンジへの支援

若者がこのまちで、自らの夢に向かって挑戦・活躍できるよう、学生期において、企業や地域、行政などとの協働により、SDGs の視点も踏まえ、まちづくりや社会課題に主体的に関わる機会を創出します。また、教育機関との連携により、文理問わずすべての学生の基礎的なデジタルスキルの取得・向上や、市内外の新規学卒者や第二新卒者などの若者の地元就職を促進します。

（３）性別にかかわらないキャリア形成の支援

自らが望むライフスタイルの実現を支援するため、地域における子育て支援や在宅生活を支える介護サービスの充実などにより、子育てや介護を担う世代が安心して働ける環境を整備します。

また、全国平均と比較しても女性の就業率が低いなどの北九州市の現状に鑑み、それぞれが希望する形でのキャリアの継続や向上、働き続けられる社会の構築に向けて、仕事の継続や復職の意欲向上に向けた取組や、働き方改革などを推進します。

（４）多様な人材が働くことができる環境の整備

就労の有無、年齢や障害の有無にかかわらず、あらゆる市民の活躍の場を広げ、所得向上につなげていくため、デジタル分野をはじめとした学び直し（リスキリング）や就労情報の提供・マッチングを促進します。さらに、企業における就業環境の整備や健康経営などの理解を促進します。また、外国人材の日本語能力や技能・技術を向上させることで、さらなる活躍や定着につながるよう支援します。

３　稼げる「産業」をつくる

（１）「バックアップ首都構想」の推進

物流インフラや産業用地などの都市基盤の整備、特区制度の活用や産学官の連携による新技術や新事業の創出などにより、災害時においても日本の社会・経済活動を支えるための拠点として、首都圏などの企業の本社機能やデータセンターなどのバックアップ機能を集積します。また、若者が魅力を感じる IT やエンターテインメントなどの分野の誘致を強化します。さらに、スタートアップも含めた海外企業の誘致に取り組みます。

（２）成長の芽となる「未来産業」の振興

時代の流れとともに産業構造がめまぐるしく変化する中、レジリエントな（柔軟性がある）強い経済を実現し、まちの活力を向上させるため、ものづくりの「技術力」や学術研究都市の「知的資源」、高度・専門的な「人的資源」を生かしながら、将来の市場拡大が予測される、半導体や次世代自動車、宇宙などの未来産業の育成・集積に取り組みます。

（３）「北九州グリーンインパクト」の推進

環境と経済の好循環によるグリーン成長を目指し、風力発電関連産業の総合拠点形成、水素の供給・利活用拠点化などに取り組みます。また、社会課題に対応した新たなリサイクル事業の創出など、持続可能な形で資源を利用するサーキュラーエコノミー（循環経済）を推進します。

こうした取組により、グリーン産業のさらなる集積を目指すとともに、再生可能エネルギーやリサイクル機能など様々な環境価値を提供することにより、市内企業の国際競争力の強化を図る「北九州グリーンインパクト」を推進します。

（４）物流拠点構想の推進

北九州市の地理的優位性や各種の輸送手段に対応できる物流基盤を生かして、多種多様な物流ニーズと時代の変化に対応できるまちを目指し、陸・海・空の結節点周辺エリアを中心に物流関連施設の集積を図ることで、物流の活性化や物流関連施設などへの民間投資の呼び込み、新規雇用の創出に取り組みます。

（５）生産性向上・高付加価値化の推進

企業における、DX の推進や AI・ロボットの活用、健康経営の取組などによる生産性向上や高付加価値化の促進を支援するとともに、成長分野などへの事業転換を支援します。

また、中小企業に対して、人材確保や資金調達、事業承継などできめ細やかな伴走支援に取り組むとともに、農林水産業では、地元生産物のブランド化や安定生産・増産のためのスマート技術の導入、生産性を高めるための農地の大区画化などの整備などを支援し、担い手不足の解消や所得の向上を目指します。

（６）アジアの社会課題解決への貢献と国際ビジネスの推進

国際技術協力や政策交流を通じて培ってきたアジア地域とのネットワークを生かし、企業による環境・上下水道分野のインフラ輸出やスタートアップの海外展開の支援や、国内外の様々なステークホルダーとビジネス面での接点を増やす取組を行い、国内関連企業の市内集積、海外からの投資を呼び込むことで、環境国際ビジネスの拠点となる「アジア・グリーン共創ハブ」を推進します。

また、先進的な介護システムなどをアジア地域に技術移転することで、社会課題の解決に貢献し、国内外から企業や投資を呼び込みます。

さらに、新たなビジネスチャンスの創出に向けて、欧州地域なども視野に入れた都市間連携の可能性を探っていきます。

（参考）「稼げるまち」の実現に向けた戦略について

３つの重点戦略による「まちの成長」と「市民の幸福」の好循環の起点となる「稼げるまち」の実現においては、戦略的に取り組んでいく必要があります。

「稼げるまち」の実現に向けた戦略として、まずは、第１ステップとして、北九州市を知ってもらうことが重要となります。

このため、24 時間利用が可能で、滑走路の 3,000m化が進む北九州空港などを最大限に活用し、人や物の流れをさらに拡大していくとともに、観光やエンターテインメントなどのサービスを強化して、北九州市の魅力や新たな動きを広く市内外に発信していきます。

また、第１ステップと並行して、第２ステップとしては、様々な企業や人材に来てもらって、始めてもらうことも重要です。

このため、DX・GX をけん引する人材の育成や、産業用地の創出などにより、半導体や次世代自動車（EV）関連の企業誘致や、市内企業の拠点拡大・高付加価値化、スタートアップなどを推進することで、人材と産業の裾野を広げていきます。

そして、第３ステップでは、中長期的にはなりますが、企業や人材の集積が次の集積を呼んでいくメカニズムをつくり、定着してもらうことが重要となります。

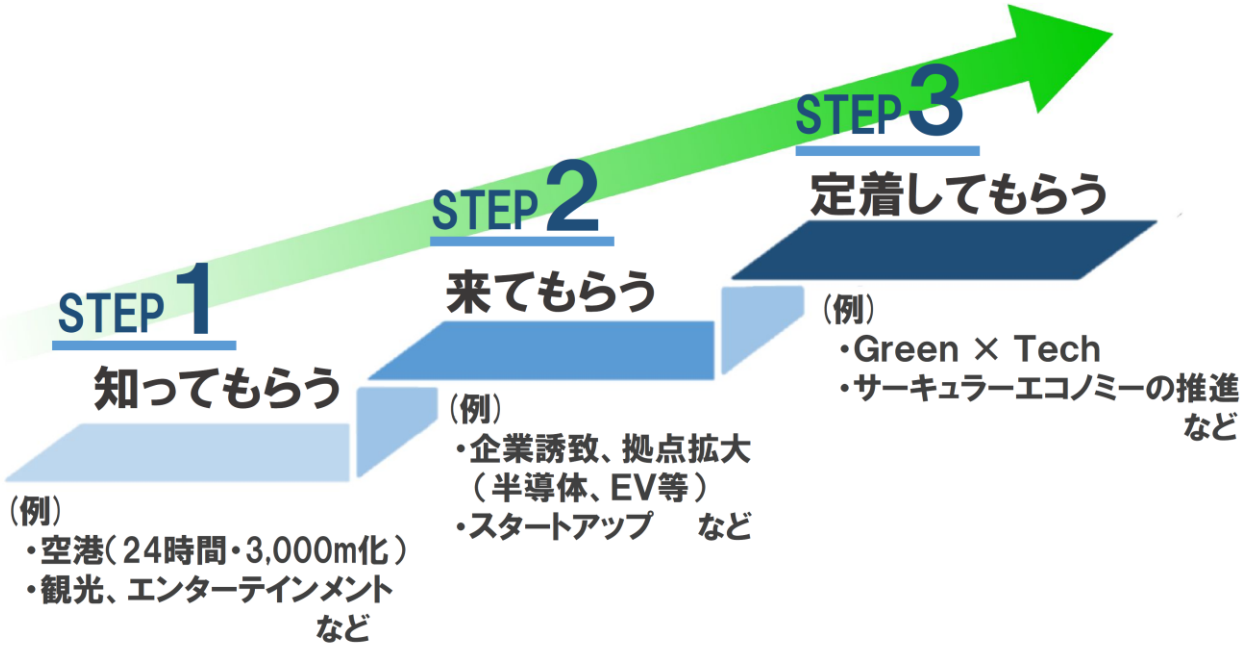
このため、子育てや教育環境などのさらなる充実とともに、

・環境やものづくりの強みを生かした Green×Tech（環境×技術）による持続可能な社会の実現

・環境と経済の両立を目指したサーキュラーエコノミー（循環経済）の推進

など、まち全体の魅力の向上につながる取組も進めます。

こうした戦略によって、取り組むべきベクトルを合わせながら、産学官民の力を結集して「彩りあるまち」や「安らぐまち」の実現につなげていきます。



第３章　「彩りあるまち」の実現　～輝く個性と楽しさがあふれるまち～

「彩りあるまち」の実現にあたっては、2050 年までのゼロカーボンシティの実現も視野に入れ、民間投資を喚起しながら、魅力的な街並みや生活環境などの「彩りある空間」の整備を進めるとともに、心身に潤いや活力を与える文化芸術やスポーツの振興、観光地の魅力向上などにより、市内外の人々が「彩りある時」を体感できる環境を整備していきます。

また、多様で質の高い教育環境の充実により、子どもたちの個性を尊重し、将来の可能性を引き出して「彩りある人」を育みます。

こうした取組によって、自分らしさを大切にできる多様な選択肢をつくることで、まちへの「愛着」や「求心力」を高め、「輝く個性と楽しさがあふれるまち」を目指していきます。

１　彩りある「空間」をつくる

（１）都市の魅力を高める「街並み」づくり

都市の魅力や価値を向上させるため、小倉地区などを中心に「ウォーカブル」なまちづくりを官民連携で推進し、ワクワクするにぎわいのある空間を創出するとともに、シニア世代が一人ひとりの希望に応じて働いて消費するなど、心豊かな時間を過ごすことができる環境の整備にも取り組みます。

また、歴史の継承や自然環境の保全などにより、地域の特色を生かした緑豊かな美しい都市景観の形成やまちの魅力発信に取り組むとともに、市内における消費を促進するため、集客力や魅力のある商業の振興を推進します。

（２）選ばれる「住まい環境」づくり

充実した生活利便施設や公共交通などの都市インフラ、医療資源に加え、住環境と近接した豊かな自然を持つ北九州市の強みを生かし、利便性が高い地域における土地利用規制の見直しや積極的な民間投資の呼び込みにより、多様なライフスタイルに応える魅力的な住環境の整備を推進します。また、デジタルの活用と、多様な関係者との連携・協働を通じて、公共交通の利便性と持続可能性を高めます。

（３）デジタルによる「迅速で便利・快適な環境」づくり

行政運営において、供給者視点から利用者視点への転換を図り、革新的なデジタル技術などを活用して、行政サービスや市役所の業務を抜本的に見直す DX を推進します。推進にあたっては、誰もが安心して必要とする行政サービスを利用できるよう、多様化する市民や企業などのニーズに迅速に対応し、便利・快適な環境づくりに取り組みます。

（４）人や企業を呼び込む「都市の魅力」の発信

戦略的なプロモーションによる、環境先進都市や SDGs 未来都市など、北九州市の持つ強みや自然や食などの多彩な魅力の発信や、「こどもまんなか city」の推進を通じた、良質な子育て環境が整ったまちとしての発信などにより、都市のイメージアップを図り、シビックプライドの醸成とともに、国内外から人や企業を呼び込みます。

２　彩りある「時」をつくる

（１）文化芸術やスポーツの振興

生活を健康で心豊かにする文化芸術やスポーツの振興を図るため、多様な文化芸術資源の維持・継承・発展に取り組むとともに、誰もが気軽に文化芸術やスポーツに親しみ、楽しめる環境づくりやプロスポーツなどと連携したまちづくりを推進します。また、デジタル技術などを活用し、これからの時代に対応した多様なライフスタイルや価値観に応える文化芸術やスポーツの振興に取り組みます。

（２）エンターテインメントによるにぎわいづくり

多くの人が集まり、にぎわい、豊かな時間を過ごせるよう、大型コンサートや大規模スポーツ大会などの誘致を推進するとともに、主催者が多様なイベントを開催しやすい環境づくりにソフト・ハードの両面で取り組みます。また、漫画やアニメ、ゲームなどのポップカルチャーのほか、アーバンスポーツの普及など、若者にとって魅力のあるまちづくりを推進します。

（３）観光資源の磨き上げや発信の推進

観光コンテンツとしての魅力やシビックプライドの向上のため、各地域の歴史や文化、自然、産業、食などの資源を磨き上げ、組み合わせて発信していきます。また、ブランド力の向上や、国内外からの観光客の呼び込みにつなげるため、規制緩和による新たな観光機能の創出、MICE 誘致の拡大や富裕層向けの宿泊機能の確保など、質の高い観光サービスを提供します。

３　彩りある「人」を育む

（１）グローバル人材や理工系人材の育成に向けた教育の推進

国際的な競争と共生が進むこれからの時代に求められるグローバルに活躍できる人材や、DX・GX をけん引する人材を育成するため、子どもの頃からの外国語や国際理解教育、理工系教育などの先端的な教育が受けられる環境づくりを推進します。

（２）魅力ある新時代の教育機関の誘致

多様で質の高い、個性を生かす教育へのニーズに応えるため、国内外の私立学校やインターナショナルスクールなどの誘致実現に取り組みます。

（３）将来の可能性を開く教育環境の充実

こどものウェルビーイング実現に向けて、誰一人取り残さない学びと、先端的な学びを推進すると同時に、教職員のウェルビーイング向上を促進し、家庭や地域、企業と連携しながら子どもの可能性を引き出す「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実に取り組みます。

（４）大学などの教育・研究機能の充実

市内大学などがそれぞれの強みや特色を生かすとともに、連携を図ることで、人材育成機能や研究開発機能を強化し、日本全体の 18 歳人口が減少する中でも、学生が持続可能で質の高い教育・研究を享受できる環境づくりを促進します。

第４章　「安らぐまち」の実現　～誰もがつながるアットホームなまち～

「安らぐまち」の実現にあたっては、防災や防犯のまちづくり、社会インフラの維持など「生活基盤の安心」を支えることをベースに、質の高い福祉や介護、医療などのサービスが提供されるとともに、多様性を認め合いながら、地域のつながりを感じることができる「暮らしの安心」を支えていきます。

また、希望する人が安心して出産し、育児や子どもの成長を社会全体で支える「子どもや子育ての安心」を感じることができる環境を整備していきます。

こうした取組によって、まちの「住みよさ」を高めることで、「誰もがつながるアットホームなまち」を目指していきます。

１　生活基盤の「安心」を支える

（１）災害などに強いまちづくりの推進

市民の生命、財産などを守るため、災害に強いコンパクトシティの形成や河川の治水・浸水対策などを図るほか、デジタル技術を活用しながら、地域全体で防災力を高める取組を推進します。また、消防力のさらなる向上による迅速な消防活動を図るとともに、市民の防災・防火意識の向上を推進します。

（２）犯罪のないまちづくりの推進

市民の防犯意識を高めるとともに、防犯カメラなどの防犯環境の整備を図ります。また、警察との連携による、暴力団ゼロのまちの実現や多様化する犯罪集団への対策を強化し、安全・安心なまちとしての情報発信をさらに強化します。

（３）社会環境やニーズに即した都市基盤・施設の維持

公共施設の集約再配置や予防保全の強化、社会インフラの長寿命化に向けた点検・工事の推進などにより、都市基盤・施設の維持に取り組み、持続可能で安全・安心なまちづくりを進めるとともに、デジタル技術などを活用した維持管理の高度化・効率化を図ります。

また、将来にわたる担い手を確保するなど、持続可能な建設業の実現の下、地域のインフラ整備やメンテナンスなどに取り組みます。

２　暮らしの「安心」を支える

（１）多様性を認め合う文化のまちづくり

市民一人ひとりが命の尊さと平和の大切さを認識するとともに、互いに価値観や違いを認め合い、すべての人が大切にされていると実感でき、活躍できる社会の実現に向け、人権教育や人権啓発、ジェンダー平等社会の構築、多文化共生の理解促進などに取り組みます。

（２）誰もが安心して暮らせる環境づくり

年齢や性別、国籍、障害の有無などにかかわらず、住み慣れた地域で安心して自分らしく生活を送ることができる環境づくりに向けて、デジタル技術を活用した、保健・医療・介護・福祉サービスの維持・充実や、支援が必要な人を地域全体で見守り、支え合うネットワークの強化、相談支援体制の整備に加え、公共交通の不便地域などにおける移動手段の確保を図ります。

（３）地域医療提供体制や保健衛生管理体制の充実

デジタル技術も取り入れた救急医療体制の維持など、市民が安心して医療を受けられる体制を確保・充実するほか、新たな感染症拡大による危機に備えた仕組みづくり、食の安全や生活環境の衛生の確保に向けた監視・指導に取り組みます。

（４）地域におけるコミュニティ活動などの活性化

地域におけるコミュニティ活動を維持するとともに、時代の変化に伴う多様なニーズに対応した地域づくりを進めるため、社会貢献意識が高い若者や NPO、子育て・現役世代なども地域活動に参加しやすい仕組みの強化に取り組みます。

（５）生涯現役に向けた健康づくりや社会参加の推進

生涯を通じて健康でいきいきと心豊かに暮らすことができるよう、市民の健康リテラシー（知識）の向上や健診受診・生活習慣の改善などによるヘルスケアを推進します。また、文化芸術・スポーツ活動などの生涯学習や社会参加を促進するとともに、学習活動と地域・ボランティア活動のマッチングも進めます。

３　子ども・子育ての「安心」を支える

（１）安心して生み育てることのできる環境の整備

市民一人ひとりの結婚や出産、子育ての希望がかなう社会の実現に向けて、妊娠から出産、子育て期における、切れ目のない支援や経済的支援などのサービスの維持・拡充に取り組むとともに、保育関係者や地域、NPO などと行政の連携やデジタル技術の活用により、安心して子どもを生み育てることができる環境を整備します。

（２）子どもの健やかな成長への支援

子どもの健全な心身の育成に向けて、質の高い幼児教育・保育サービスの提供とともに、放課後児童クラブなど多様な居場所づくりを推進します。

また、社会的養護が必要な児童への支援や児童虐待の対策、多様な学びの機会の確保による安全・安心な居場所づくりなど、家庭のみならず、地域、学校、関係機関、行政などが連携・協働し、子どもたちを社会全体で見守り、健やかに育む環境づくりを進めます。

第５章　人口増に向けた道筋

市民が日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模の上に成り立っています。このため、人口減少が続くことは、将来の社会経済活動に大きな影響を及ぼします。

例えば、人口減少に伴い、税収が減少することなどにより、行政サービスや社会インフラの維持が困難になるとともに、小売業・飲食業などの生活関連サービスや公共交通サービスは縮小し、地域コミュニティの機能なども低下します。そして、こうした生活利便性や地域の魅力の低下を通じて、人口減少にさらに拍車がかかる悪循環に陥っていきます。

こうした悪循環を断ち切り、社会経済活動を将来にわたって持続させるためには、人口減少を食い止め、増加への転換に向け、産学官民が一体となって、産業競争力の向上や生活環境の充実など、都市の総合力を高めていくことが不可欠です。

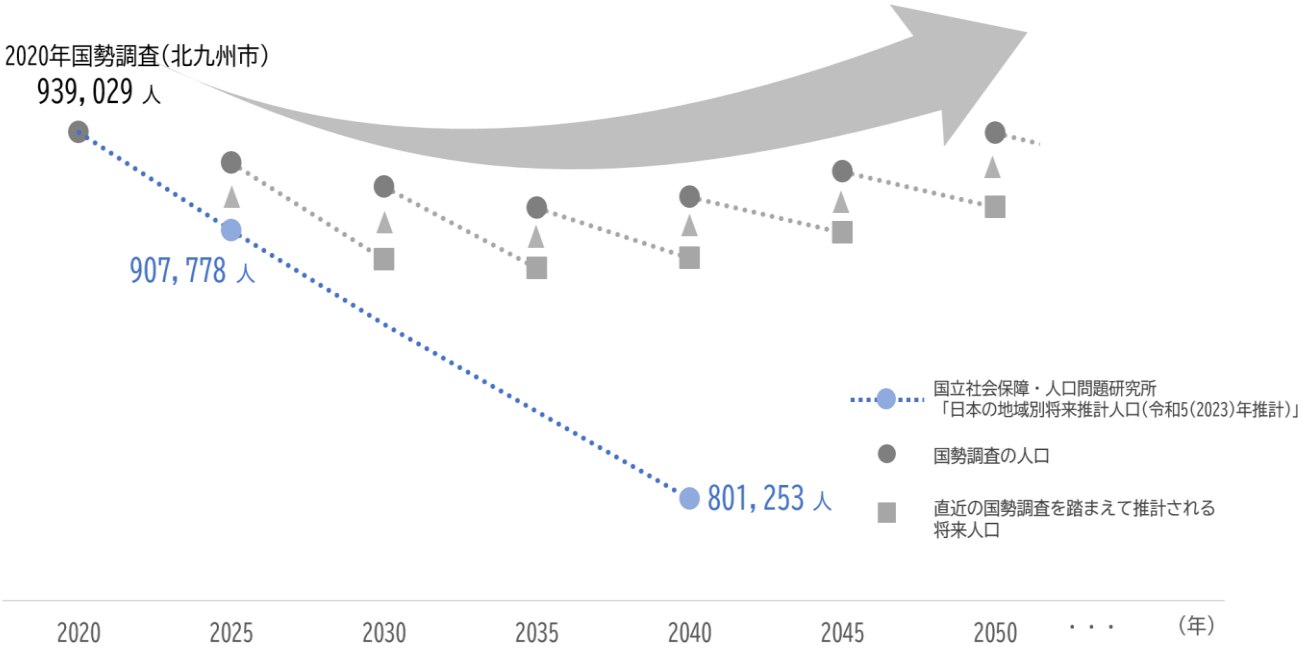
日本全体の人口が減少する中においても、経済活動などの拠点となる都市では、人や企業が集まっています。このことから、経済成長が雇用の増加を生み、それが人口の増加につながるなど、都市の経済成長と人口増には高い関連性が見受けられます。

このため、市内総生産や雇用者報酬の増加などの経済成長の実現、また、都市のイメージアップに取り組み、20 代や 30 代の若い世代の挑戦を後押しし、その定着などを促すことにより、社会動態のプラス幅の拡大に取り組んでいきます。

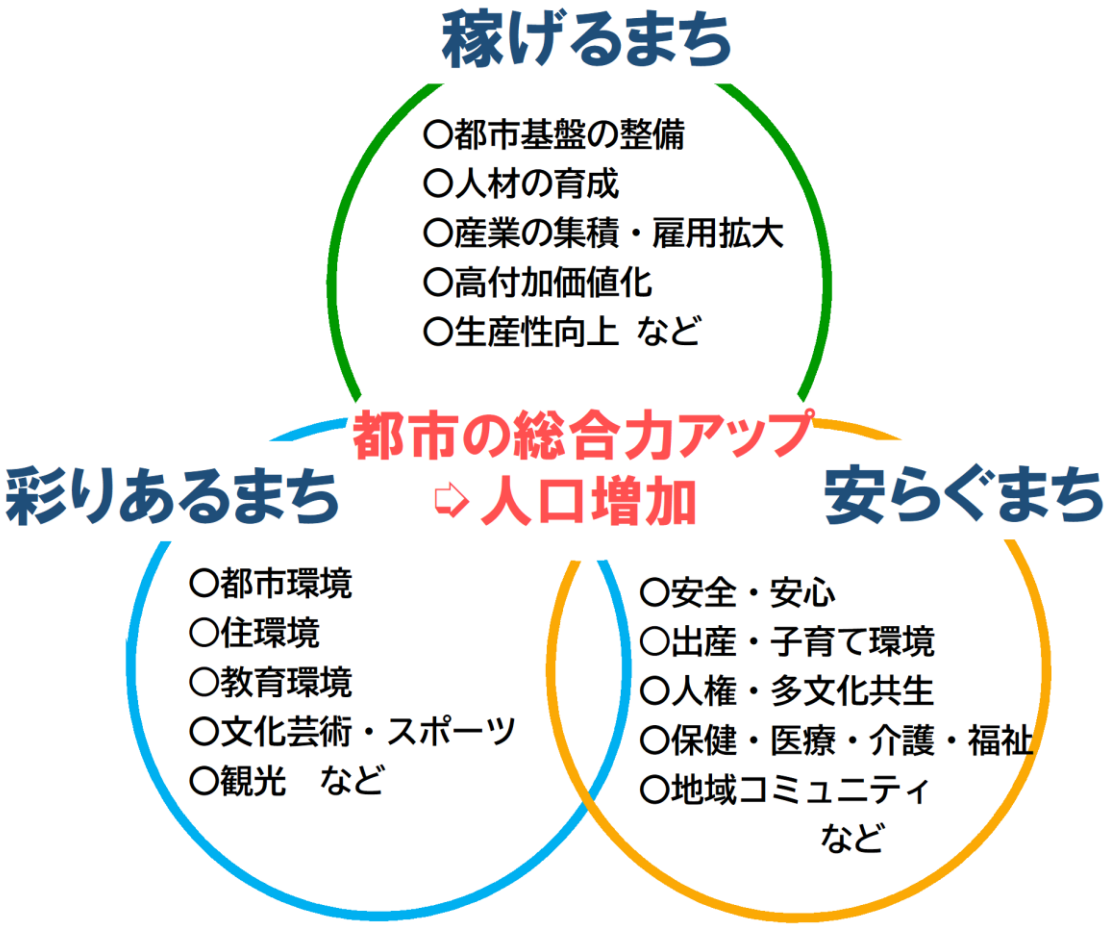
さらに、子育てや教育、福祉、文化芸術、スポーツ、住宅、交通などのハード・ソフト両面で生活環境の向上にも取り組み、中長期的な視点で、出生数の増加による自然動態の改善にもつなげていきます。

こうした考えの下、基本構想に掲げる３つの重点戦略を着実かつ総合的に取り組んでいきながら、「成長と幸福」を好循環させることにより、５年ごとに国勢調査を踏まえて推計される将来人口を、常に実際の人口が上回る歩みを積み重ねていくことで、まずは、人口減少のトレンドを増加に転換させ、「100 万都市復活」に向けた道筋をつくっていきます。

＜ 将来推計人口を常に上回るイメージ ＞



＜ ３つの重点戦略による「都市の総合力アップ⇒人口増加」のイメージ ＞



第６章　主要な成果指標

指標名	現状値	目標値※1 2028 年(度)	目標値の 考え方	重点戦略※2			出典
				稼げるまち	彩りあるまち	安らぐまち	
市内総生産額 （名目）	3 兆 6,696 億円 （2020 年度）	4 兆円 （2033 年度）	過去 10 年間（2010 ～ 2020 年度）の年平均成長率の 2 倍以上を目指す	○	○		北九州市「市民経済計算」
従業者 一人当たりの 付加価値額	818 万円 （2020 年度）	900 万円 （2033 年度）	市内総生産額と同程度の増加率を目指す	○	○		北九州市「市民経済計算」、総務省「経済センサス」による推計
市民雇用者 一人当たりの 市民雇用者報酬	463 万円 （2020 年度）	500 万円 （2033 年度）	市内総生産額と同程度の増加率を目指す	○	○		北九州市「市民経済計算」
女性の就業率 （25～44 歳）	79.8% （2022 年）	82.0%	国が掲げる 目標値の達成を目指す	○		○	総務省「就業構造基本調査」
観光消費額	827.3 億円 （2022 年）	1,800 億円	令和元年（新型コロナウイルス感染症流行前）の水準（1,345 億円）以上を目指す	○	○		北九州市「北九州市観光動態調査」
宿泊客数	172.7 万人 （2022 年）	260 万人	令和元年（新型コロナウイルス感染症流行前）の水準（192.9 万人）以上を目指す	○	○		北九州市「北九州市観光動態調査」
商業地地価（小倉） ※主要地点の平均地価	580,000 円/㎡ （2023 年）	871,000 円/㎡ （2033 年）	他の政令市の状況等を踏まえ、現状値の 1.5 倍を目指す	○	○		国土交通省「地価公示」
商業地地価（黒崎） ※主要地点の平均地価	148,000 円/㎡ （2023 年）	227,000 円/㎡ （2033 年）	他の政令市の状況等を踏まえ、現状値の 1.5 倍を目指す	○	○		国土交通省「地価公示」

指標名	現状値	目標値※1 2028年(度)	目標値の考え方	重点戦略※2			出典
				稼げるまち	彩りあるまち	安らぐまち	
将来の夢や目標を持っている子どもの割合	小学生 81.1% 中学生 66.8% (2023年度)	小学生 85.0% 中学生 70.0%	政令市1位の水準を目指す		○		国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」
合計特殊出生率	1.46 (2022年)	1.8を見据え 政令市1位	国の指標である「未婚者の平均希望子ども数」の 1.8 の達成に向けて政令市1位を目指す			○	北九州市「人口動態統計(北九州市分)」
健康寿命	男性　71.9年 女性　75.6年 (2019年)	男性　76.0年 女性　77.0年	政令市1位の水準を目指す			○	厚生労働省「厚生労働科学研究」
社会課題を意識し、日常生活の中で解決に向けた行動に取り組む市民の割合	40.4% (2022年度)	60%	—	○	○	○	北九州市「行政評価に係る市民アンケート調査」
地域活動に参加したことがある市民の割合	50.9% (2023年度)	60%	—			○	北九州市「市民意識調査」
安全なまちと認識している市民の割合	86.0% (2022年度)	90%	—			○	北九州市「行政評価に係る市民アンケート調査」
北九州市に住み続けたいと思う市民の割合	83.8% (2022年度)	90%	—	○	○	○	北九州市「行政評価に係る市民アンケート調査」
北九州市への誇りや自信があると答えた市民の割合	55.0% (2022年度)	80%	—	○	○	○	北九州市「行政評価に係る市民アンケート調査」
北九州市での生活全般に満足している市民の割合	77.1% (2022年度)	85%	—	○	○	○	北九州市「市民意識調査」

指標名	現状値	目標値※1 2028年(度)	目標値の考え方	重点戦略※2			出典
				稼げるまち	彩りあるまち	安らぐまち	
社会動態	▲206人 (2023年)	＋1,000人	特に20、30代の社会動態の改善により、社会動態のプラス幅の拡大を目指す	○	○	○	北九州市「推計人口異動状況」
推計人口	916,241人 (2023年10月1日)	将来推計人口を上回る人口	実際の人口が5年ごとに推計された将来人口を上回ることにより、人口の減少傾向の改善を目指す	○	○	○	国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

※1　各指標の目標年次は2028年（度）。ただし、目標値に括弧書きのある指標は、当該括弧に記載の年（度）

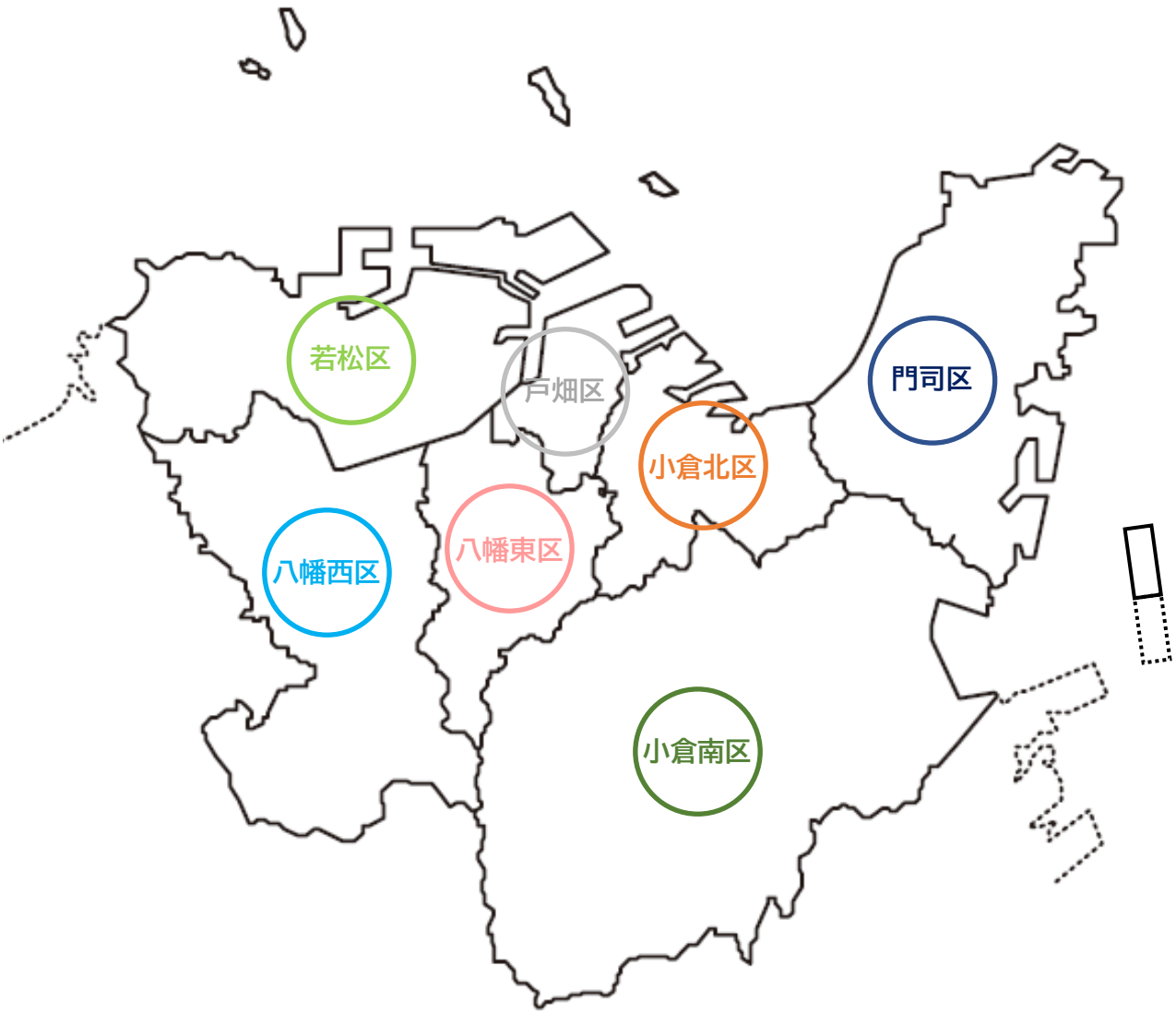
※2　各指標に特に関連する重点戦略に○を記載

第７章　７つの個性が輝くまちづくり

北九州市は、昭和 38 年（1963 年）に世界に類を見ない五市の対等合併により誕生しました。

令和５年（2023 年）に市制 60 周年を迎えましたが、それぞれ成り立ちや歴史の異なる旧五市の特色は現在７区の個性として受け継がれており、その多様性は北九州市の大きな特長の一つです。

都市機能や住環境、歴史、文化、自然、食、地域コミュニティなど、各区が持つ地域資源を生かし、磨き上げることで、７区のそれぞれの個性が輝く、魅力あるまちづくりを進めていきます。さらに、区域を越えた地域間の連携を図りながら、基本構想・基本計画で掲げた主要政策の実現により、北九州市全体の魅力向上と活性化につなげていきます。



1　門司区

門司区は、北九州市の北東部にあり、関門海峡を挟み、対岸に本州を望む九州の玄関口に位置しています。

陸、海の交通の要衝であり、世界各国に航路を持つ国際貿易港として発展しました。現在は大型の臨海産業団地やフェリー基地などがあり、日本有数の物流拠点となっています。

歴史的建造物が数多く残っており、美しい街並みを形成しています。また、三方を海に囲まれ、豊かな自然に恵まれた風光明媚な観光のまちでもあります。

（1）まちづくりの方向性

〇リゾートの雰囲気が漂い、観光客と地域住民が融合する「観光と生活の場」をまるごと豊富なストックとして捉え、「働く場」や「学ぶ場」との一体化を促進することにより、訪れたい、住んでみたい、住み続けたいまちをつくります。

〇門司港レトロ地区をはじめとする各地区の歴史や文化、自然、食などの地域資源を地域の方々との協働により磨き上げるとともに、回遊性を高め、下関市とのさらなる関門連携の下、関門エリアの価値向上や観光の振興を図ります。

〇太刀浦コンテナターミナルや新門司フェリー、RORO ターミナルなどの港湾・物流機能の強化を図るとともに、航路誘致や広域からの集貨に取り組み、物流拠点化を推進します。

（2）参考とした市民の皆様のご意見

・日常の景色が本当にすばらしく、時間がゆっくりと流れていて、家に帰ってくるだけで癒やされる。このすばらしい景色の中で暮らす価値を大事に思う人が増えてほしい。
・住む人、観光で来る人、仕事をする人、いろいろな人が集まる魅力あるまちにしたい。
・いろいろな歴史が積み重ねられた地域そのものが一つの教材となっている。まち全体が学びの場となれる可能性を持っている。
・門司でフィールドワークをする際、地域の方々との顔の見えるコミュニケーションや地元の方々から受けるつながりというものに非常に価値を感じている。
・下関を挟んだ関門エリアをはじめ、白野江地区や大里地区などの拠点をいかにして便利に回れるようにするか、きっかけづくりも含めて、考える必要がある。
・魅力を生かした観光と港湾産業の拡大に取り組めば、働く場所、住む人が増えていく。

（３）地域資源・ポテンシャル

①産業

西日本有数の規模を誇る太刀浦コンテナターミナルをはじめ、新門司フェリーターミナル、北九州貨物ターミナル駅、大型臨海産業団地のマリナクロス新門司など、多くの港湾・物流施設が集積し、日本有数の一大物流拠点を形成しています。

②都市機能

公共施設マネジメントにおけるモデルプロジェクトとして、公共施設の集約・再配置に向けた取組を進めています。

③観光・歴史

古くから国際貿易の拠点として発展してきた門司区では、明治・大正・昭和初期に建てられた多くの歴史的建造物を見ることができます。特に門司港レトロ地区では、国の重要文化財に指定されている門司港駅や旧門司三井倶楽部のほか、旧門司税関などが往時の繁栄をしのばせる街並みを形成しています。また、九州鉄道記念館や関門海峡ミュージアム、観光列車「潮風号」などの観光施設もあり、全国的にも有名な観光名所となっています。

大里地区の門司赤煉瓦プレイスには、大正時代に建造された煉瓦造りの美しい建物が残っており、海岸沿いのレンガ倉庫とあわせて、かつて、三井・三菱財閥と並ぶ大企業だった鈴木商店が築いた一大工業エリアとしての歴史を感じる景観をつくりだしています。

ほかにも、柳の御所や戸上神社、猿喰新田潮抜き穴跡などの文化遺産が数多く残っています。また、壇ノ浦の戦いや巌流島の決闘など、歴史的な戦いの舞台でもありました。

④自然・食

三方を囲む海と風師山や矢筈山などの山々に広がる豊かな緑が、雄大な景色をつくりだしています。ほかにも、四季の花咲く白野江植物公園やホタルの生息する井出谷川、松ヶ江北貯水池などがあり、豊かな自然に恵まれています。漁業が盛んな地域でもあり、「豊前海一粒かき」や「豊前本ガニ」、「関門海峡たこ」などは特産品として高い人気があります。

⑤関門連携

関門海峡を挟んで向かい合う北九州市と下関市は、古くから密接な関係を持ちながら一体的な都市圏・経済圏を形成してきました。今後、関門連携の一層の推進により、観光や市民間交流の活性化が期待されます。

２　小倉北区

小倉北区は、長崎街道をはじめとした九州五街道の起点であり、古くから陸上交通の要衝でした。江戸時代における城下町の形成を契機に発展してきたまちで、現在も商業や流通、金融、情報、医療、コンベンションなどの都市機能が集積する「北九州市の顔」となっています。

区の中心部には紫川が流れ、足立山、山田緑地など、緑豊かな自然環境にも恵まれています。また、小倉城をはじめ、様々な歴史・文化・芸術施設が数多くあります。

（１）まちづくりの方向性

〇高い機能を持つ都市・交通基盤を生かし、オフィスや都市型住宅の集積を促進するとともに、魅力的なエンターテインメントやショップを充実させ、若者やクリエイティブな人材が集まる北九州市の顔にふさわしい、にぎわいと活力がみなぎるまちをつくります。

〇小倉地区において、建物 1 階の民間部分と歩道や公園の公共部分を、官民が連携して一体的でまちに開かれた快適な空間とし、あわせて、沿道の魅力を向上させることで、ワクワクして歩きたくなるまちなかを創出します。

〇歴史や祭り、伝統芸能などの継承・振興を図るとともに、その魅力を資源として、シビックプライドの醸成と観光の振興やにぎわいの創出を図る、歴史と文化を生かしたまちづくりを推進します。

（２）参考とした市民の皆様のご意見

・住まいや交通、公共サービス、商業施設といった都市に必要な機能がコンパクトに集まっていて、暮らしやすくて働きやすいまちというのは小倉北区の重要な強み。
・クリエイターやデザイナーなどの若者のチャンスをつくっていくことが大事。
・小倉は若い人がワクワクするまちになっていないとだめ。
・休憩もできて、安全で快適に移動できるようなまちなかの整備が必要。
・安心して生活ができて、面白さ、ワクワクのあふれるコンパクトなまち、いろんな人が新たな楽しみをもって生活できるような、前向きな明るいまちにしたい。
・自然や歴史、文化、伝統、食などの魅力をさらに向上させ、回遊性を高めることが重要。

（３）地域資源・ポテンシャル

①産業

小倉駅周辺において、コワーキングスペースやシェアオフィスの整備促進により、スタートアップ企業の創出やサテライトオフィスの設置などを誘引し、若年層の雇用の

場や新たなビジネスモデルの創出を図っています。

また、民間開発の誘導と企業誘致の促進を重点的に図るため、補助事業の新設・拡充や容積率などの各種規制の緩和を行う取組を推進しています。

②都市機能

九州第２位の利用客を誇る小倉駅には、新幹線や在来線、モノレールが乗り入れています。さらに、ここから区内外への路線バス網が広がるなど、小倉駅を中心に非常に高い機能を持つ広域の交通ネットワークが形成されています。

また、同駅の北側には、展示場や国際会議場、ホテルなどの MICE 施設、球技専用のスタジアムが立地しています。さらに、南側には日本で初めて公道上にアーケードが設置された商店街のほかに、オフィス街や繁華街などが広がっており、高次の都市機能が集積しています。

③住環境・自然

高い交通機能に加え、雇用機会やアミューズメント機能も充実しており、「住む」、「育てる」、「働く」、「遊ぶ」ための様々な都市機能がコンパクトにまとまっているのが特長です。

また、北九州市のシンボル公園である勝山公園があるほか、足立山や山田緑地、到津の森公園、藍島などの豊かな自然にも容易にアクセスできるなど、住環境としても高い魅力を持っています。

④観光・歴史・文化・食

小倉城や松本清張記念館、文学館、北九州芸術劇場、漫画ミュージアム、平和のまちミュージアム、TOTO ミュージアムなど、歴史や文化芸術に関する多様な施設が充実しており、市民はもとより、インバウンドをはじめ、国内外から多くの観光客が訪れる人気のスポットとなっています。また、小倉名物「ぬかみそ炊き」や地元の魚介を使った寿司など、魅力的な食文化も観光資源となっています。

北九州の台所として、長年にわたり市民に親しまれている旦過市場も観光名所の一つとなっており、現在、安全性の確保とさらなる魅力の向上に向け、神嶽川の改修とあわせた再整備を行っています。

400 年以上の歴史を持ち、国の重要無形民俗文化財に指定されている小倉祇園太鼓や、市民の心を一つに合わせ多くの人々が楽しめる「わっしょい百万夏まつり」は、北九州市を代表する祭りであり、毎年、多くの人が集まり、小倉のまちをにぎわせています。

そのほか、日本夜景遺産に認定された足立公園の夜景や小倉イルミネーションなどの観光資源を活用しながら、行政・地域・民間団体が一体となってイベントの開催や情報の発信を推進しています。

３　小倉南区

小倉南区は、市内で人口が２番目に多く、最も面積が大きな区です。山、川、海の多彩な自然と田園が広がり、農林水産業が盛んな一方で、自動車関連産業をはじめとした各種企業が立地しています。また、利便性の高い交通網を背景に物流拠点としての重要性も高まっています。

北九州空港をはじめ、鉄道やモノレール、高速道路などの社会インフラが充実しており、沿線には良好な住宅地が広がっています。

（１）まちづくりの方向性

〇豊かな自然を生かし、四季折々の景観や地域の歴史や文化を感じながら行うウォーキングなどにより、健康づくりや居場所づくりを推進し、元気でいきいきとした生活が楽しめるまちをつくります。

〇平尾台や曽根干潟などの自然を生かし、希少な体験ができる観光と学びの場の形成を図ります。さらに地元の特産品や伝統、文化の魅力を加え、質の高い地域ブランドを創出することにより、内外のファンを増やし、交流人口や関係人口の増加及び観光の振興を図ります。

〇各地域の祭りやイベントを通じて、世代を超えて人と人が「つながろう」という想いを力に変えるとともに、２地域居住の促進などにより、関係人口を増やすことで、地域課題の解決を図り、ずっと住んでいたいと思えるまちをつくります。

〇広域道路網の高い物流機能を生かし、物流業や製造業に係る企業の誘致に取り組みます。また、北九州空港のゲートウェイ機能を生かし、「国内外との活発な交流を支える空港」と「九州・西中国の物流拠点空港」の実現に向けた取組を推進します。

（２）参考とした市民の皆様のご意見

・子どもが五感を使って遊び込める自然豊かな環境があることはものすごい強み。平尾台やカブトガニの居る曽根干潟など、その本質的な魅力と価値を市民はもちろん、日本や世界の人に届けていけば、観光で稼げるまちになる。
・海あり、山あり、川ありと自然豊かな地域。都会にあらず、田舎にあらずで、かつ小倉へのアクセスが良いので、ベッドタウンとしては最適な地域だと思う。
・まつりみなみのような祭りを大切にしつつ、もっと活気のあるまちになってほしい。
・産業を強めたり、空港を生かした国際物流エリアの整備などで雇用を生み出してほしい。北九州空港の活用が小倉南区だけでなく北九州市全体の発展のカギ。

（３）地域資源・ポテンシャル

①産業

九州縦貫自動車道や東九州自動車道、北九州都市高速道路、国道 10 号など、東西南北を結ぶ広域道路ネットワークの結節点となっており、その高い物流機能を背景に、臨空産業団地や北九州空港跡地産業団地などには、自動車産業関連企業が集積しています。

現在、恒見朽網線などの整備により、さらなる物流機能の強化に向けた基盤づくりを進めています。

北九州空港は、24 時間利用が可能な海上空港であり、将来活用可能な広大な土地を有しています。その特性を生かし、旅客便の誘致に加え、大型貨物機の長距離運航を可能とする滑走路の 3,000m化など、物流拠点化に向けた取組が進んでいます。

②教育・地域

北九州市立大学をはじめ、高度な技術を学ぶ九州職業能力開発大学校（九州ポリテクカレッジ）や北九州工業高等専門学校など、多くの教育機関が集まっています。

また、全国的にも珍しい一歩上をいく子育ての取組である「プレイセンター」をはじめ、子育てや健康づくりを通して人がつながり、人と地域が育つ素地があります。

③歴史・文化

曽根古墳群などの史跡が多く残されているほか、昔から農業が盛んな地域であったことから、雨乞いや豊作祈願を芸能化した「楽（がく）」や神々に奉納する神楽、盆踊り、神幸行事などの伝統行事が地域に受け継がれています。また、小倉南区の誕生とともに始まった「まつりみなみ」は、老若男女が楽しめるイベントとして大切な地域交流の場となっています。

④観光・自然・食

北九州国定公園に指定され、日本有数のカルスト台地として有名な平尾台では、春の野焼き、新緑、秋のすすき野などの四季の変化に加え、鍾乳洞探検（ケイビング）やトレイルランニングなど、他では味わえないアクティビティを楽しむことができます。

また、キャンプ場、アスレチックなどの施設を備えた「ソラランド平尾台」や民泊施設などがあり、平尾台一帯は様々な体験ができる観光地として人気が高まっています。

ほかにも、カブトガニや渡り鳥などの希少生物の宝庫である曽根干潟や合馬の竹林、菅生の滝、長野緑地など、多様で豊かな自然に恵まれています。農林水産業も盛んで、全国的に有名な「合馬たけのこ」をはじめ、「小倉牛」や「豊前海一粒かき」などは、北九州市の特産品として人気を集めています。

４　若松区

若松区は、かつては筑豊炭田の石炭積出港として栄え、日本の産業発展を支えてきました。現在は高い港湾・物流機能などを背景に、製造業に係る企業が多く立地するとともに、環境産業や再生可能エネルギー産業の集積が進んでいます。

周囲を響灘と洞海湾に囲まれ、中央部は広く緑に覆われるなど、豊かな自然に恵まれており、水産物や農産物の生産が盛んな地域です。

（１）まちづくりの方向性

〇石炭積出港として栄えた歴史や文化、豊かな自然や農水産物、多種多様な産業の集積など、若松ならではの多様な魅力を生かし、シビックプライドの醸成を図るとともに、誰もが住みたい、住み続けたいと実感できるまちをつくります。

〇若松北海岸の豊かな自然や周辺の魅力的な食、アクティビティ、高塔山や若松南海岸の夜景などを活用し、市内外から多くの人が訪れる観光地として、さらなる魅力の向上を図ります。

〇物流機能の強化や環境産業などの集積を図るとともに、響灘地区での風力発電関連産業の総合拠点化や水素の供給・利活用の拠点化などを推進します。また、半導体や宇宙・次世代自動車などの未来産業の振興に向け、学術研究都市における研究開発強化などに取り組みます。

（２）参考とした市民の皆様のご意見

・豊かな自然やグリーンパーク、海、海岸線、地域住民の結束、若松好きが多いこと、美味しい野菜(トマト・キャベツ)など、いろいろな魅力がある。
・北海岸を中心にした自然や海産物、野菜のほか、果物の収穫体験、自然体験などを生かしたアクティブな体験型観光地ができると良い。
・若松北海岸がコートダジュールの様なリゾート地になってほしい。
・南海岸には建築遺産が多くあり、観光資源になる十分なポテンシャルがあると感じる。
・歴史のある企業や施設がたくさんあり、地元の人同士のつながりが強い。

（３）地域資源・ポテンシャル

①産業

製造業が盛んで、特に響灘地区には、広大な産業用地や充実した港湾施設、アジアへの近接性といった優位性から、多くの企業が立地しています。また、北九州エコタウンには数多くのリサイクル関連産業が集積するとともに、近年は、太陽光や風力、バイオマス発電などの再生可能エネルギーの産業拠点化も進んでいます。

②北九州学術研究都市

区西部にある北九州学術研究都市は、アジアに開かれた学術研究拠点及び新たな産業の創出と技術の高度化を支える知的基盤として開設され、北九州市立大学、九州工業大学、早稲田大学、福岡大学のほか、様々な研究機関などが一つのキャンパスに集積しています。

ここを拠点に、半導体や自動車、ロボット、AI、環境といった様々な分野において、産学の連携による新技術の開発や新たなビジネスの創出のほか、海外の大学との交流や連携、留学生の支援など、グローバルな視点での教育・研究活動が行われています。

③観光・歴史・文化

若松南海岸通りには歴史的な建築物や産業遺産が数多く現存しています。国の重要文化財である若戸大橋とあわせて、日本一の石炭積出港として栄えた名残を感じる美しい街並みを形成しています。

こうした景色や豊かな自然を背景に、若松が生んだ芥川賞作家である火野葦平の作品「花と龍」をはじめ、数多くの映画のロケが行われています。

また、「五平太まつり」など、地域の歴史や伝承を伝える祭りが盛んな一方、九州ジャズ発祥の地として、ジャズによるまちおこしも行われています。

④自然

玄海国定公園に指定されている若松北海岸には夕日の名所として知られる遠見ヶ鼻や千畳敷のほか、市内で唯一の海水浴場があり、海水浴、釣り、マリンスポーツなどを楽しむ人たちでにぎわっています。さらに周辺には地場産品の販売施設やホテル、グランピング施設に加え、響灘緑地（グリーンパーク）や響灘ビオトープ、気軽に農業体験ができる観光農園などがあり、多様なアクティビティを楽しめます。

そのほか、高塔山は、桜やアジサイ、夜景の名所として知られ、昼夜を問わない人気の観光スポットとなっています。

⑤食

西日本有数の生産量を誇るキャベツをはじめ、ブロッコリー、スイカなどの農産物の生産が盛んです。また、響灘海域は、魚介・海藻類の宝庫となっています。「若松潮風®キャベツ」や「若松水切りトマト」、「若松妙見かき」などはブランド化され、その品質を高く評価されています。

ほかにも区内で栽培されたブドウを使ったワインや若松産ホップを使った地ビールを造る活動も行われています。

5　八幡東区

八幡東区は、官営八幡製鐵所創業の地として、近代日本の発展の礎となった地域です。近年は東田地区では先端産業の集積や未来都市づくりが進み、既成市街地では大規模社宅跡地などを活用した新しいまちづくりが進んでいます。

国内有数の夜景スポットとして有名な皿倉山や河内貯水池などを中心に豊かな緑が広がっています。

（1）まちづくりの方向性

〇歴史ある製鉄関連などの企業や先端産業が集積する東田地区と商店街などの市街地が連携して新たなビジネスの創出に挑戦し、ともに発展するまちづくりを推進します。

〇夜景の名所である皿倉山や東田地区の各種施設、河内地区の自然など、高い集客力を持つこれらの地域資源の連携を図るとともに、伝統文化に根ざした祭りや食の魅力の活用、宿泊機能の強化などにより、観光などで訪れた人たちが循環し、滞在するまちをつくります。

〇高い交通利便性や医療・健診機関の充実に加え、様々な体験や学びが身近にできる恵まれた環境を生かし、まちなかにある未利用地の利活用や居住の促進により、誰もが住み続けたくなるまちをつくります。

〇製鉄のまちとして培ってきたシビックプライドや、主体的にまちづくりに取り組んできた地域・市民・企業の力を今後も育み、サステナブルなまちづくりを推進します。

（2）参考とした市民の皆様のご意見

・八幡製鐵所とともに発展してきたまちの歴史、皿倉山、夜景、河内貯水池、環境未来都市づくり、祇園山笠、JICA を中心とした国際交流、世界遺産、いのちのたび博物館など、八幡東区にはユニークな強みがたくさんある。
・商店街や地域の活動が盛ん。八幡愛を持つ人が多い。八幡愛であふれるまちにしたい。
・東田地区の大型商業施設に来た方をどのように循環させるかが大事。日本一の夜景を生かしながら、食などを絡めて宿泊へつなげていくなど。
・皿倉や河内の整備も非常に大事。豊かな自然を整備して観光資源とすべき。

（3）地域資源・ポテンシャル

①産業

官営八幡製鐵所とともに日本の近代産業を支えた、長い歴史を持つ製鉄関連の企業が集積しています。また、東田地区では、IT、環境、新エネルギーなど、新たな分野の企業集積が進んでいます。現在は、東田・未来都市プロジェクトを展開し、MaaS に向けた実証や各種センサーを用いた人流の把握・分析など、社会課題の解決に向けた先端的な実証・実装事業が行われています。

②都市機能

市内拠点をつなぐ鉄道や路線バスが充実するとともに、国道３号黒崎バイパスや北九州都市高速道路が市街地に直結し、交通アクセスに優れています。

また、北九州市で唯一の小児救急・集中治療センターが併設されている市立八幡病院をはじめ、高度な診療機能を持つ総合病院や健診機関が集積しています。

③住環境・地域

桃園公園のスポーツ施設や響ホール、東田地区の各種施設など、スポーツ・文化施設が充実しており、様々な学びや体験をする環境が身近に整っています。

また、九州国際大学や国際協力機構 JICA 九州センターが立地していることから、研修生や留学生などの外国人市民が多く、交流イベントなどを通じて、多文化に触れる機会にも恵まれています。

そのほか、学生の長期継続的な地域活動への参加や地域団体による道路や公園を活用した定期的なイベント開催のほか、地域や企業で構成する団体が参加して平成 29 年度（2017 年度）に「八幡東まちづくりプラン」を作成するなど、地域主体のまちづくりが進められています。

④観光・歴史・文化・食

写真提供：日本製鉄㈱九州製鉄所
（※一般には非公開の施設です）

東田地区には、世界遺産関連施設の官営八幡製鐵所旧本事務所をはじめ、東田第一高炉史跡、西日本最大級の自然史・歴史博物館である「いのちのたび博物館」、スペース LABO など、特徴ある施設が集まっています。さらに、スペースワールド跡地への大型商業施設の進出により、市内でも最大級の集客力を持つ地域となっています。

そのほか、明治 34 年（1901 年）から続く「まつり起業祭八幡」や北九州市無形民俗文化財である前田祇園山笠をはじめとする各地域の祇園まつりなどの伝統ある行事に加え、製鉄のまちの歴史から生まれた八幡ぎょうざや堅パン、皿倉山の伏流水で造る日本酒に代表される多彩なグルメなど、魅力的な地域資源が数多くあります。

⑤自然

皿倉山や河内貯水池、河内藤園、板櫃川などの豊かな自然が身近に広がっています。また、ケーブルカーで気軽に登ることができる皿倉山は、日本新三大夜景都市である北九州市を代表する夜景スポットであり、壮大で美しい夜景を見ることができます。

このほか、高見地区や前田地区の桜並木、河内地区の紅葉など四季折々の美しい景観を身近に楽しむことができます。

6　八幡西区

八幡西区は、市の南西部に位置し、古くは江戸時代の長崎街道の頃より、交通の要衝として栄えてきました。全体的に平坦な地形で、良好な住環境が広く形成されており、市内において最も人口の多い区となっています。

日本を代表する有名企業が立地するとともに、中心市街地である黒崎地区や学園都市の折尾地区など、それぞれの地域ごとに特色あるまちづくりが進められています。

（1）まちづくりの方向性

〇産業の振興や雇用の創出により、活力あるまちをつくります。また、長崎街道などの歴史や伝統的な祭りの保存継承により、シビックプライドの醸成を図るとともに、豊かな自然や公園、貯水池などを生かした魅力のあるまちづくりを推進します。

〇黒崎地区では、都市型住宅の集積促進により居住人口の増加を図るとともに、多世代が交わり支え合うまちをつくります。また、個性的、特徴的な店舗の出店促進やにぎわいづくりなどにより、歩いて楽しいまちなかを創出します。

〇折尾地区では、学園都市の特性と充実した都市機能を生かし、学生や若者、住民、駅利用者によるにぎわいづくり活動や民間開発を促進することにより、市内外の人が住みたくなるような魅力的なまちをつくります。

〇筑豊電鉄沿線などの住宅地において、高い交通利便性や充実した生活利便施設、四季を彩る自然などを生かし、誰もが住みたくなる住環境ブランドエリアの形成を図ります。

（2）参考とした市民の皆様のご意見

・黒崎は交通が便利で、住むにはすばらしい場所。医療や介護、福祉の事業所が充実し、そこで多世代の交流が活発に行われている。
・折尾は再開発で住宅地としてのポテンシャルや価値が上がっていくのではないか。一方で学生が多いまちなのに、学生が楽しめるような環境が整っていない。
・八幡西区は郷土愛が強く、まちをどうにかしないといけないと強く思う人が多い。
・祭りなどを通じて、子どもたちに自分のまちのことを好きだと言ってもらえるようにしたい。

（３）地域資源・ポテンシャル

①産業

先端ロボットや精密金型、素材、半導体材料などの分野において、世界をリードする企業が立地するとともに、それを支える関連企業群や金融機関、宿泊施設などが集積しています。近年は、物流需要の高まりなどから、九州縦貫自動車道の八幡インターチェンジがある金剛地区に物流拠点としての注目が集まっています。

②都市機能・住環境

交通の要衝として発達した道路網に加え、黒崎駅や折尾駅を中心に、鉄道やバスによる広域的な公共交通ネットワークが形成されています。

黒崎地区では、黒崎駅周辺に区役所をはじめとする公共的機関や文化交流施設、医療施設などがコンパクトに集積しています。商業施設の立地とあいまって、近年はマンションの建設が進み、まちなかの居住人口が増加しています。現在、交通アクセスのさらなる向上に向け、国道３号黒崎バイパスの整備を進めています。

折尾地区では、大学や短期大学、高校などの教育機関が集積し、西日本有数の学園都市を形成しています。現在、折尾地区総合整備事業により、学園都市の玄関口にふさわしい地域拠点づくりが進んでいます。

陣原駅周辺や永犬丸・三ケ森地区、八幡南地区では、鉄道駅周辺の利便性や生活利便施設の充実に加え、瀬板の森公園、金山川、遠賀川などの自然が身近にあり、暮らしやすい住宅地が広がっています。

③観光・歴史・文化

江戸時代には、長崎街道における黒崎宿と木屋瀬宿という２つの栄えた宿場町がありました。現在も、曲里の松並木や木屋瀬宿跡の古い街並みなどが残されており、当時の風情を感じることができます。

また、400 年前から行われているとされる黒崎祇園山笠などの多彩な祭りが地域に継承されています。

そのほか、石炭輸送に利用された堀川の流域には、水門「寿命（じめ）の唐戸」などの文化財が残っています。

④自然・食

藤の名所である吉祥寺やホタルの飛翔地の黒川、地域の子どもたちが水と触れ合える笹尾川水辺の楽校、森林浴のできる畑貯水池など、豊かな自然を身近に楽しむことができます。

また、遠賀川流域の水田地帯では、福岡県内で作られる米・麦の種子や酒造好適米など、高品質な農産物が作られています。

７　戸畑区

戸畑区は、市内で最も面積が小さく、早くから都市基盤が整備されたコンパクトなまちです。北九州市のほぼ中央に位置し、区域の北側には工場が立ち並び、南側には住宅地が広がっています。

教育や文化、福祉などの都市機能が充実しており、「文教のまち」として、落ち着いた雰囲気の街並みが形成されています。

（１）まちづくりの方向性

〇福祉と文教のまちの価値をさらに高め、多世代に魅力ある住環境の形成を図ります。また、学生や若者の活動支援、居場所づくりなどに取り組み、若い世代や地域が活発に交流する活力のあるまちをつくります。

〇旧松本家住宅や旧安川邸、九州工業大学など安川家ゆかりの歴史資産を面的につなげ、住んでいる人や訪れる人が歴史や文化の重みを体感できるよう、地域・企業などと協働で回遊性の高い緑豊かな街並みを創出します。

〇世界に誇る戸畑祇園大山笠をはじめとする地域特有の文化や歴史、自然などを生かし、シビックプライドの醸成と観光の振興やにぎわいの創出を図ります。

（２）参考とした市民の皆様のご意見

・教育と文化をしっかり育てたまちになれば良い。
・戸畑区はとてもコンパクトで動きやすく、教育施設がとても充実している。これは子育て世帯が住むときにとても重視すること。
・戸畑の良さは人が温かいまちだということだと思う。地域の力が本当に強い。
・九州工業大学や明治学園、夜宮公園が一連の緑になっている。これはとても大事な環境。それぞれの管理主体が話し合って、ここを結んでみんなで歩けるようにすると世界的にもアピールになる。
・学生がたまれる場所がない。友達との交流の場がたくさん増えればいい。学生だけでなく、地域の人とも関われる、そんな場所があったら良い。
・商店街の空き店舗を使った交流の場づくりなど、高校生の力で戸畑が活性化できるような取組をいろいろ考えている。地域の方や大人の方にも応援してほしい。

（３）地域資源・ポテンシャル

①産業

臨海部には広大な製鉄所を有する工場群が形成されており、これらの企業や九州工業大学などでは、宇宙や DX、GX、半導体などに関する活動に取り組んでおり、未来産

業の発展、社会課題の解決、バックアップ機能の強化に資する基盤が整っています。

②都市機能・地域

北九州市の中央に位置し、鉄道やバスによる公共交通網が整っていることから、市内のどの地域へもアクセスが容易です。若戸大橋と若戸トンネルにより若松区とつながり、北九州都市高速道路が小倉北区へと延びています。現在、広域道路ネットワークの形成に向け、戸畑枝光線の整備を進めています。

戸畑駅や区役所周辺には、複合公共施設「ウェルとばた」のほか、病院や介護施設、保育所、障害者支援施設などが集積し、保健、医療、子育て、福祉のネットワークが形成されています。また、公害克服を先導した戸畑区婦人会の活動が脈々と受け継がれ、住民がまちの環境を守る風土が息づいており、住みやすい生活環境が整っています。

③教育・歴史・文化

コンパクトな区に、九州工業大学や６つの高校など、多くの教育機関が集積しており、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育や学生による地域活動も活発に行われています。

九州工業大学や明治学園を創設した企業家・安川敬一郎の邸宅である旧安川邸のほか、国指定重要文化財の旧松本家住宅や北九州市立美術館など、歴史・文化施設が数多くあり、多様な文化的魅力にあふれる文教のまちとなっています。

そのほか、浅生スポーツセンターなどの施設も充実しており、趣味、教養、健康づくりを満喫できるエリアが多数あります。

例年７月には、国の重要無形民俗文化財に指定されている戸畑祇園大山笠行事が開催され、20 万人以上の人が観客に訪れる夏の風物詩となっています。平成 28 年（2016 年）にはユネスコ無形文化遺産にも登録されました。

④環境・自然

花と緑と水辺を生かしたまちづくりを進めており、市民の憩いの場として親しまれている夜宮公園では、四季折々に美しい花々を楽しむことができます。夜宮池や日本庭園には、約 6,000 株の花菖蒲が植えられており、花の季節には菖蒲まつりが開催されています。

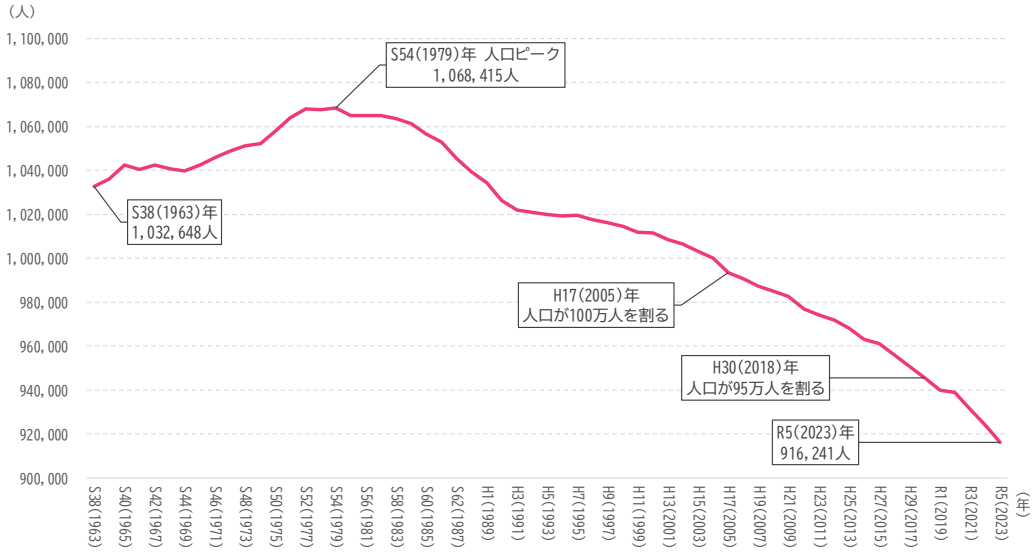
都島展望公園や中央公園の金比羅山周辺には豊かな緑が広がっているほか、天籟寺川などの貴重な水辺空間もあります。伝説の花 戸畑あやめや鞘ケ谷のホタルなど、地域に生息する動植物に身近に接することができます。

データ集

１．「人口」関連
２．「稼げるまち」関連
３．「彩りあるまち」関連
４．「安らぐまち」関連
５．「財政」関連
６．「ウェルビーイング」関連

1．　「人口」関連

推計人口の推移



注：各年10月1日現在

出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・北九州市の人口は、五市合併時の昭和38年は約103万2千人。その後、昭和54年の約106万8千人をピークに減少が続く。
・平成17年に100万人を、平成30年に95万人を切り、令和5年は約91万6千人となっている。

人口の推移

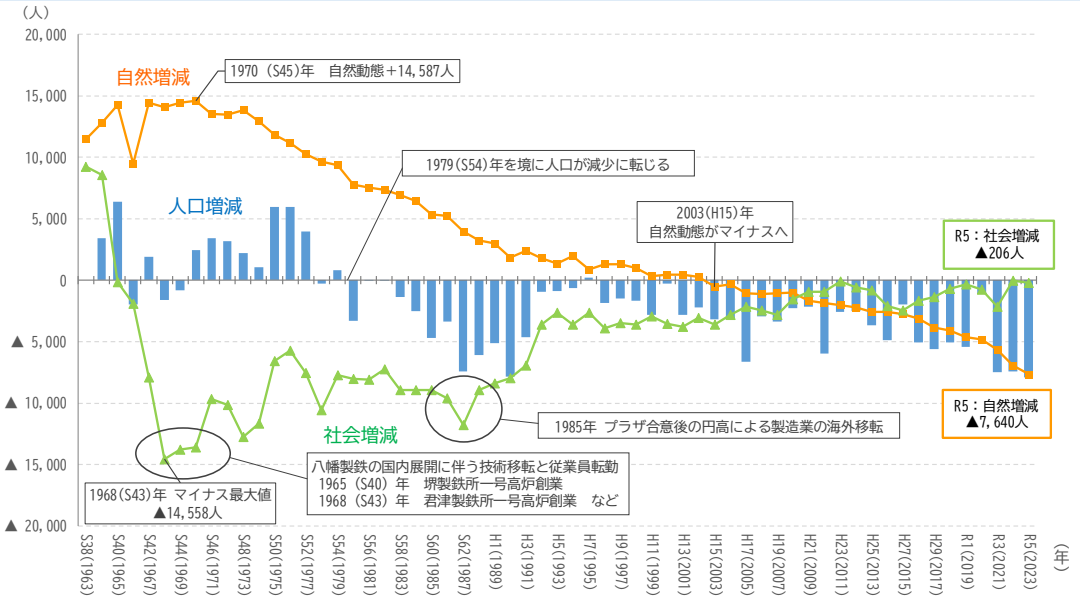
	実数（人）				増減率（%）		
	H17(2005)	H22(2010)	H27(2015)	R2(2020)	H22/H17	H27/H22	R2/H27
北九州市	993,525	976,846	961,286	939,029	▲ 1.7	▲ 1.6	▲ 2.3
門司区	108,677	104,469	99,637	93,842	▲ 3.9	▲ 4.6	▲ 5.8
小倉北区	183,286	181,936	181,878	183,407	▲ 0.7	0.0	0.8
小倉南区	214,624	214,793	212,850	209,028	0.1	▲ 0.9	▲ 1.8
若松区	87,340	85,167	82,844	80,533	▲ 2.5	▲ 2.7	▲ 2.8
八幡東区	75,814	71,801	68,844	64,792	▲ 5.3	▲ 4.1	▲ 5.9
八幡西区	260,070	257,097	256,117	249,933	▲ 1.1	▲ 0.4	▲ 2.4
戸畑区	63,714	61,583	59,116	57,494	▲ 3.3	▲ 4.0	▲ 2.7

注：本表の人口は10月１日現在の数値

出典：総務省「国勢調査」

・令和2年の国勢調査では、5年前の平成27年と比較して、小倉北区のみが0.8%の増加となっている。
・減少率が高いのは、八幡東区（▲5.9%）、門司区（▲5.8%）となっている。

人口増減、自然増減、社会増減の推移

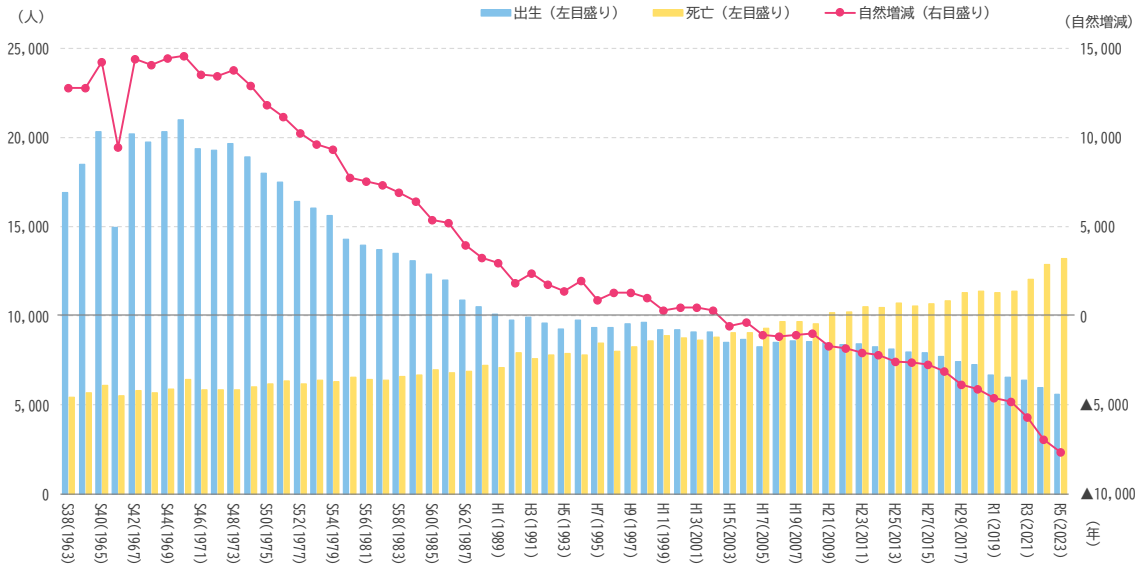


注：人口増減数は各年10月1日時点

出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・自然動態のマイナス幅は拡大傾向にあり、令和5年は▲7,640人となっている。
・社会動態のマイナス幅は改善傾向にあるが、昭和40年以降、転出超過の傾向が続いており、令和5年は▲206人となっている。

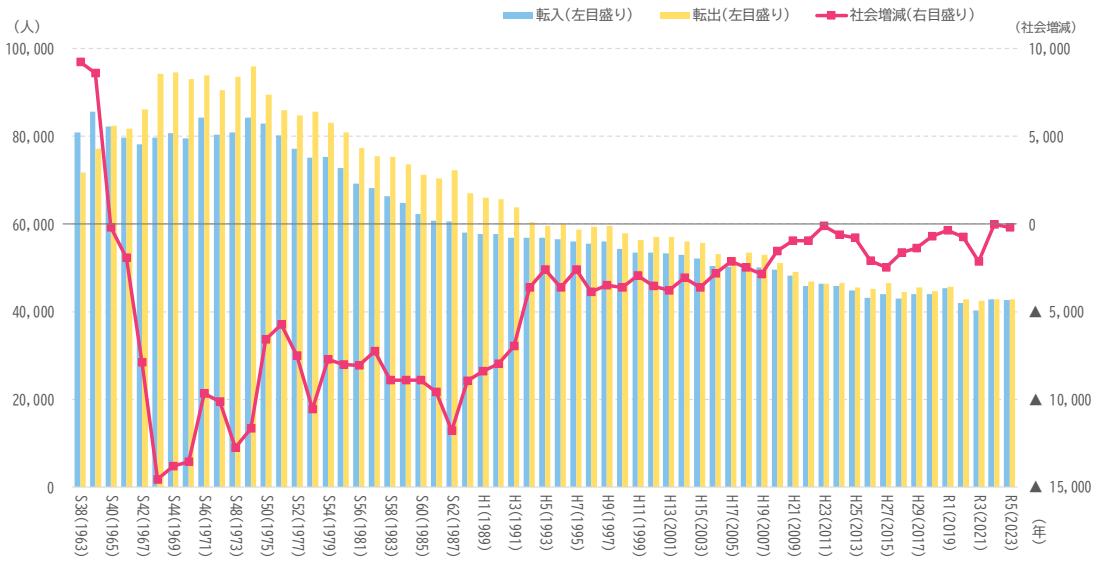
出生・死亡数の推移



出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・出生数は、昭和45年の約2万1千人をピークに減少傾向にあり、令和5年は6千人を切っている。
・その一方で、死亡数は、高齢化を背景に増加傾向にあり、令和5年は約1万3千人と、60年間で約2.4倍となっている。
・その結果、出生数と死亡数の差である「自然増減」は、平成15年にマイナスに転じ、令和5年は約7.5千人のマイナスとなっている。

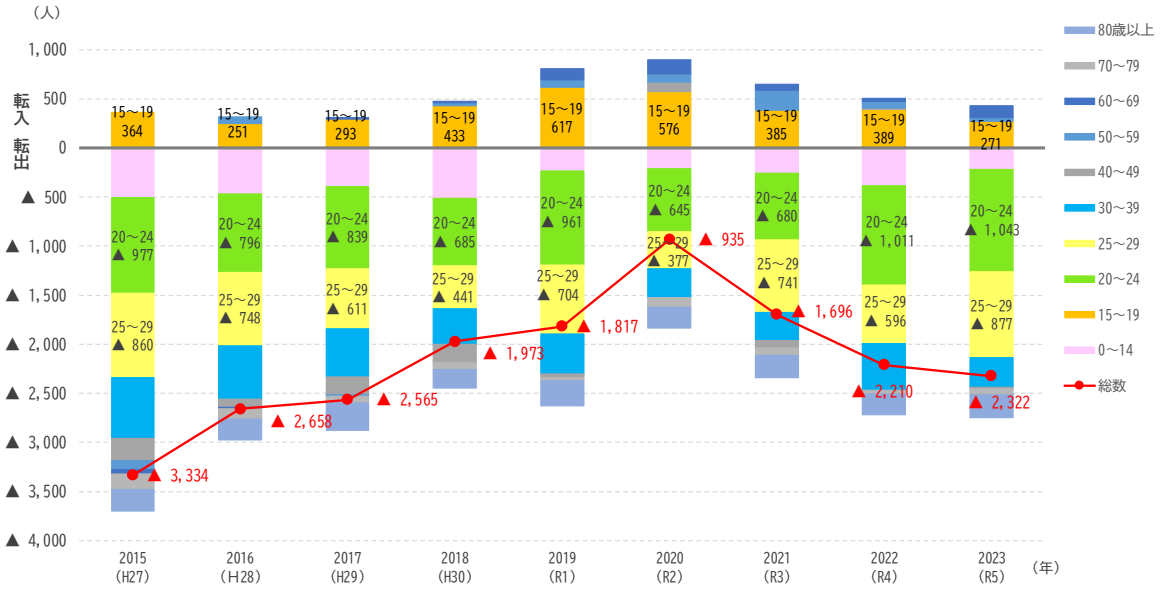
転入・転出者数の推移



出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・転入者数と転出者数の差である「社会増減」は、昭和43年が▲約1万5千人と、マイナス幅が最も大きい。
・毎年の増減はあるものの、令和4年は新型コロナによる入国制限緩和を受け、外国人の転入が大幅に増加したことで、社会増減がマイナスに転じた昭和40年以降、最もマイナス幅が小さい▲48人で、令和5年は、▲206人となっている。

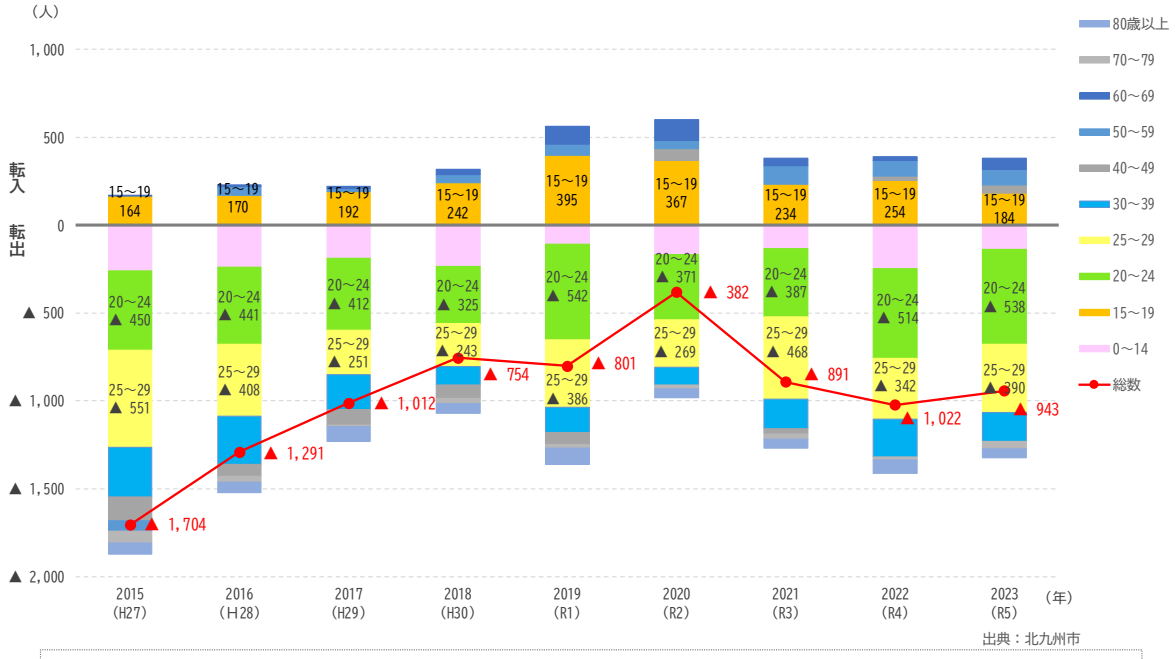
年代別社会動態の推移（日本人：男女計）



出典：北九州市

・15歳～19歳は、転入超過となっている。
・一方、20～24歳、25～29歳などの年齢は、大幅な転出超過となっている。

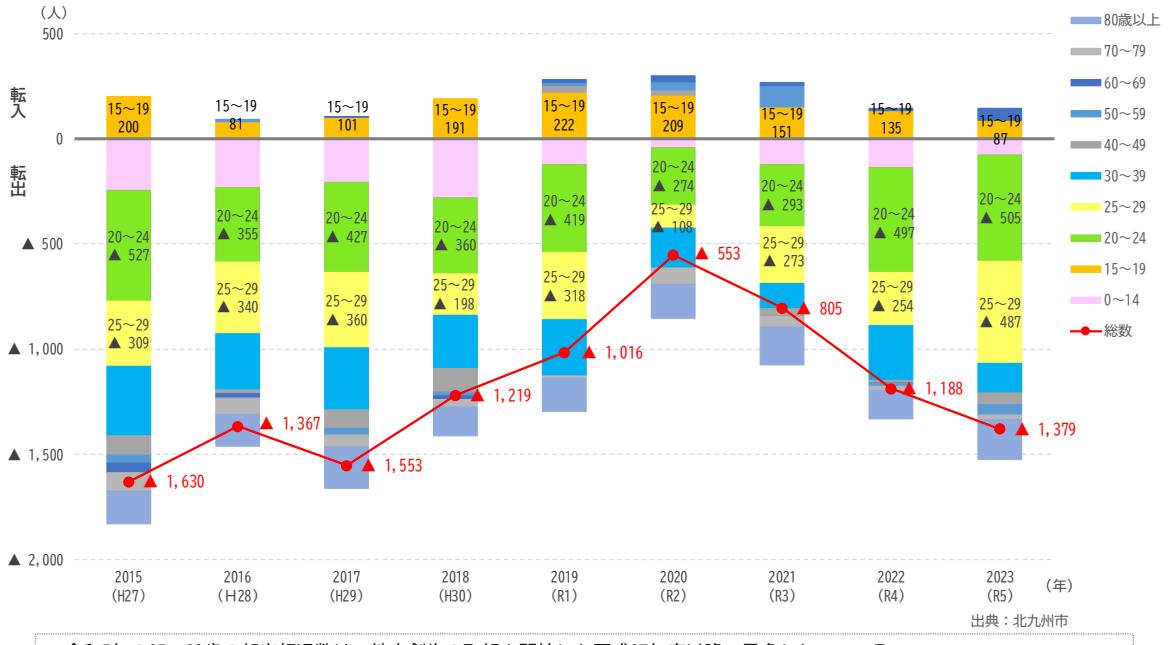
年代別社会動態の推移（日本人：男性）



出典：北九州市

・令和5年の20～24歳の転出超過数は、地方創生の取組を開始した平成27年以降で、令和元年に次いで2番目に多くなっている。

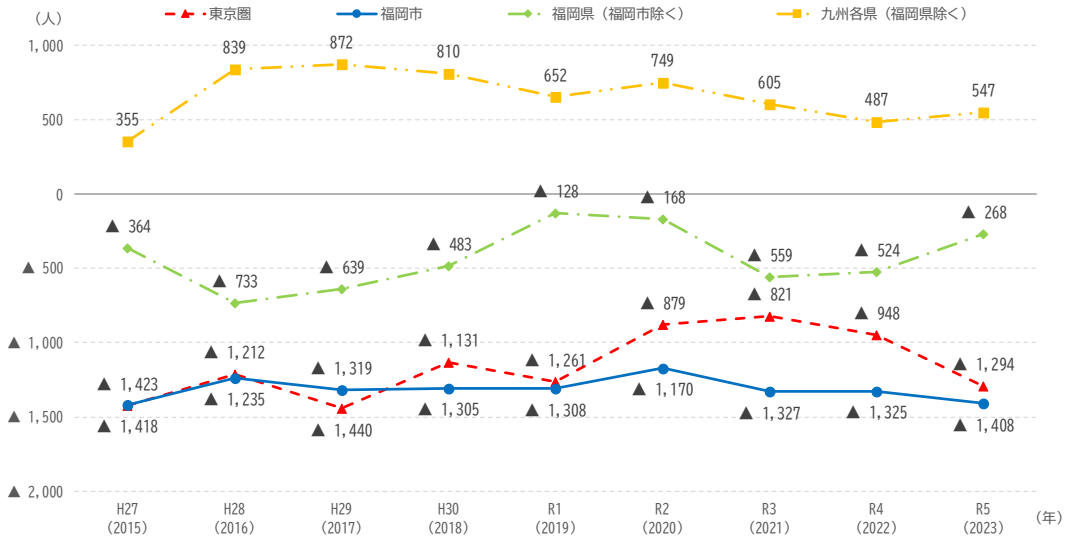
年代別社会動態の推移（日本人：女性）



出典：北九州市

・令和5年の25～29歳の転出超過数は、地方創生の取組を開始した平成27年度以降で最多となっている。

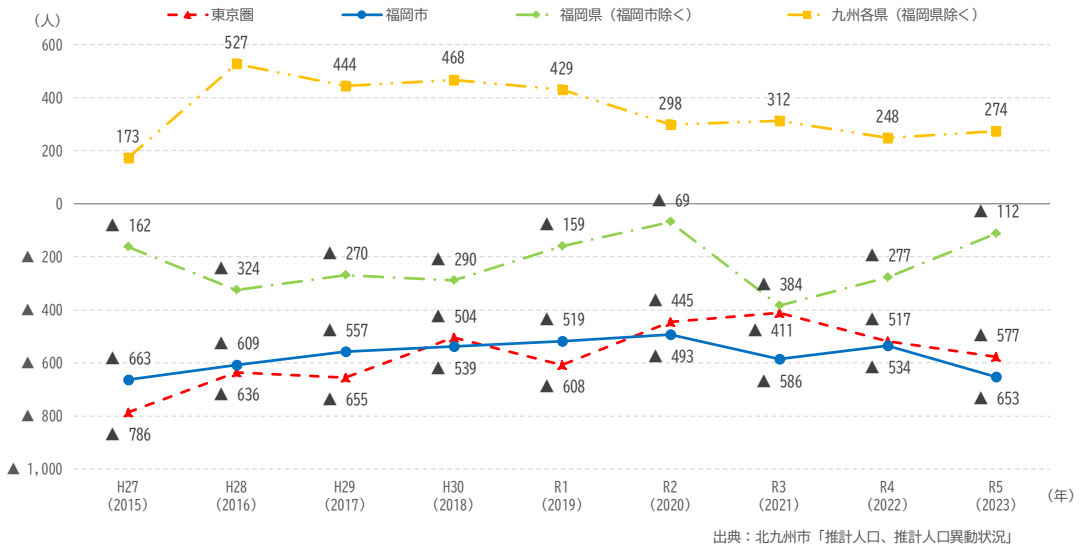
主要地域別の社会動態の推移（日本人：男女計）



出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・九州各県（福岡県を除く）からは、転入超過となっている一方で、福岡市、東京圏、福岡県内（福岡市を除く）には転出超過が続いている。

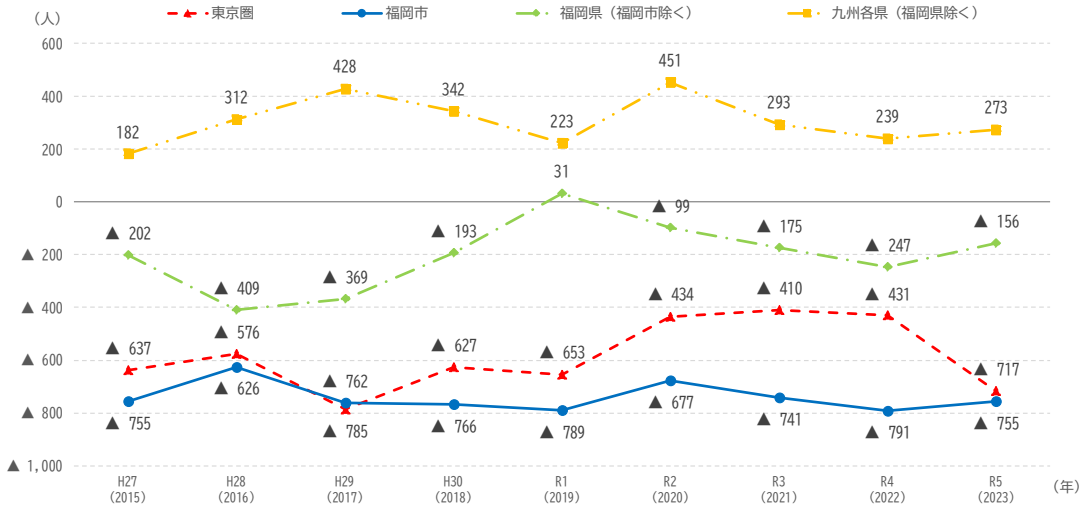
主要地域別の社会動態の推移（日本人：男性）



出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・令和2年以降、東京圏よりも福岡市への転出超過数が多くなっている。

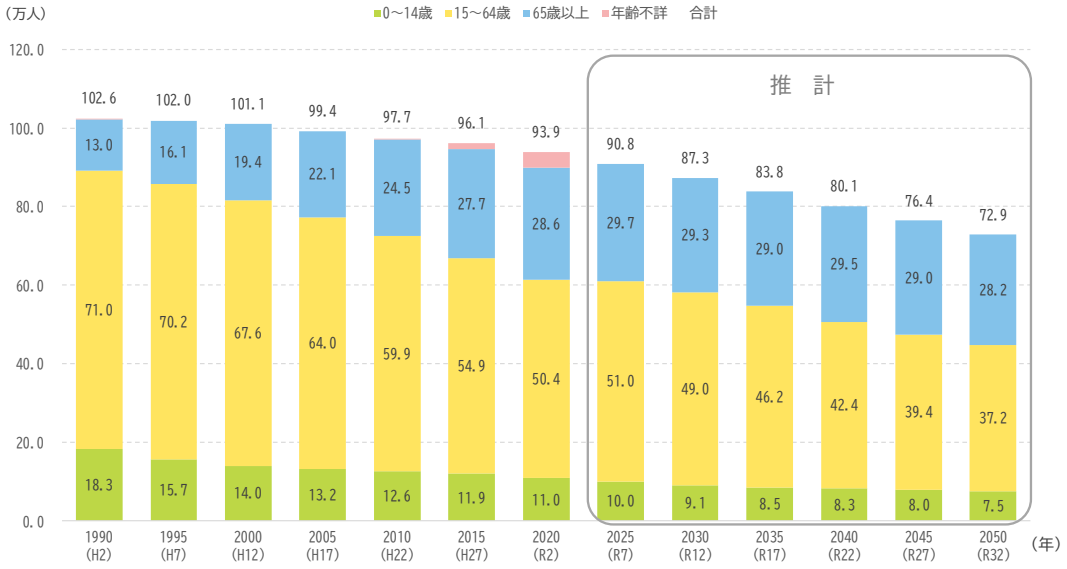
主要地域別の社会動態の推移（日本人：女性）



出典：北九州市「推計人口、推計人口異動状況」

・平成30年以降、東京圏よりも福岡市への転出超過数が多くなっている。
・福岡市への転出超過数は、男性を上回っている。

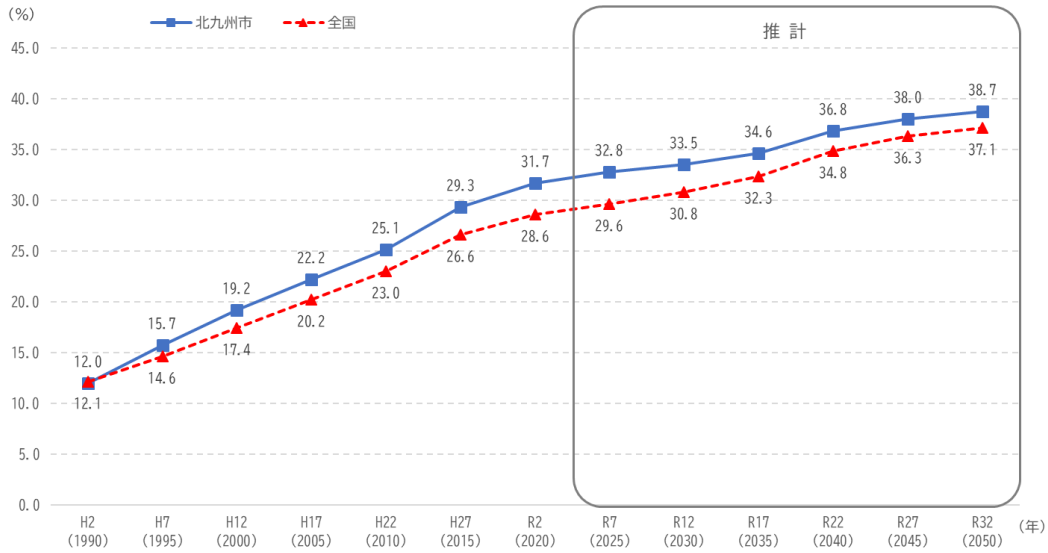
将来推計人口



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５(2023)年推計）」

・令和2年の国勢調査を元にした将来推計人口では、令和32年では約72.9万人と予測されている。
・15～64歳の労働人口は40万人を切ると予測されている。

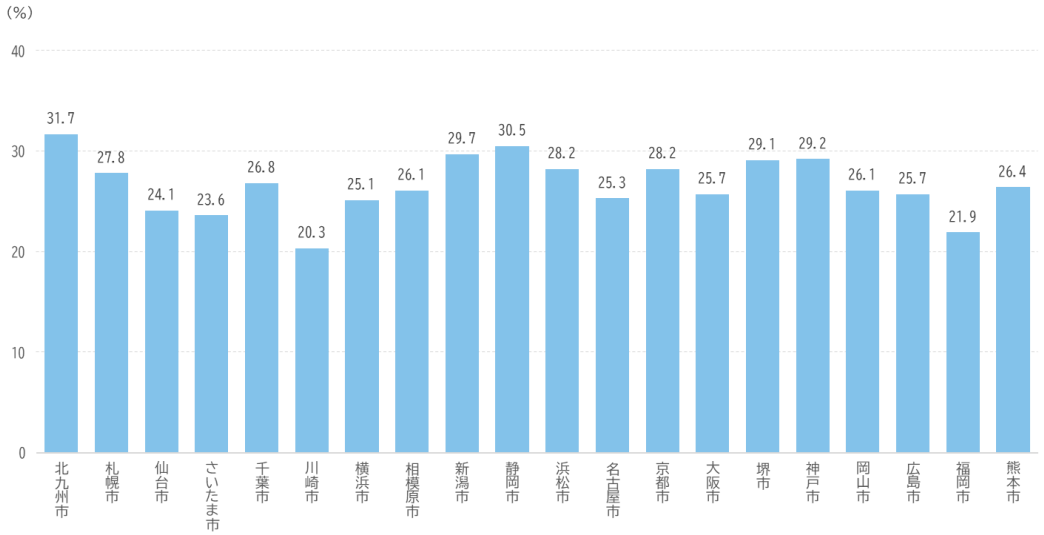
高齢化率の推移



出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５(2023)年推計）」、「日本の将来推計人口（令和５年推計）」

・高齢化率は、増加傾向にあり、全国平均よりも高い状況にある。
・令和32年には38.7%と予測されている。

高齢化率（65歳以上人口割合）　（政令市比較）

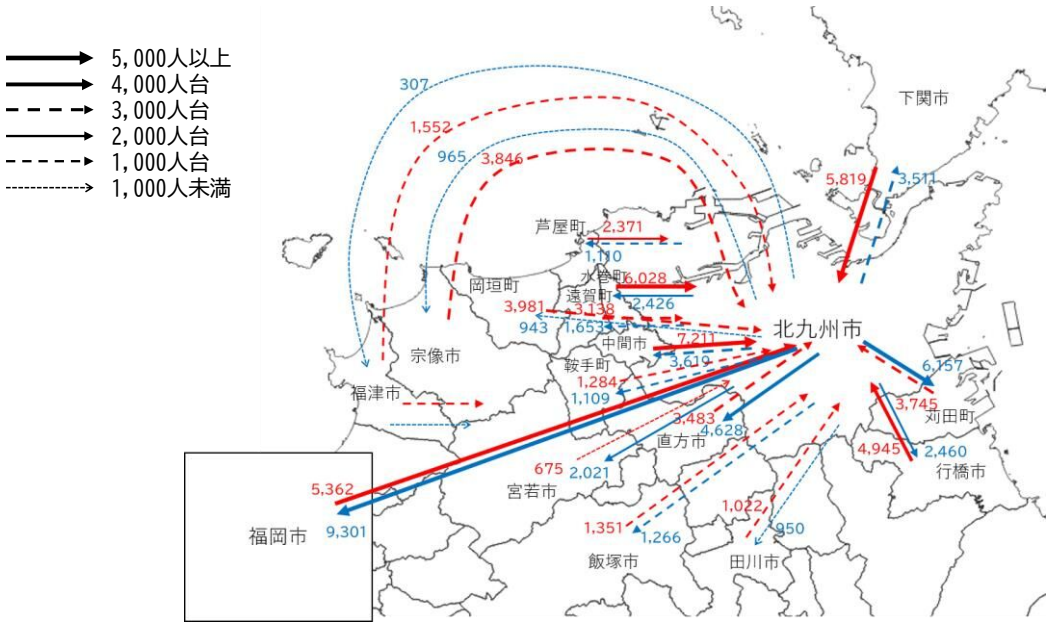


注：R2年10月1日現在

出典：総務省「令和2年国勢調査」

・高齢化率は、政令市の中で、最も高くなっている。

１日当たりの流入・流出人口(R2年)

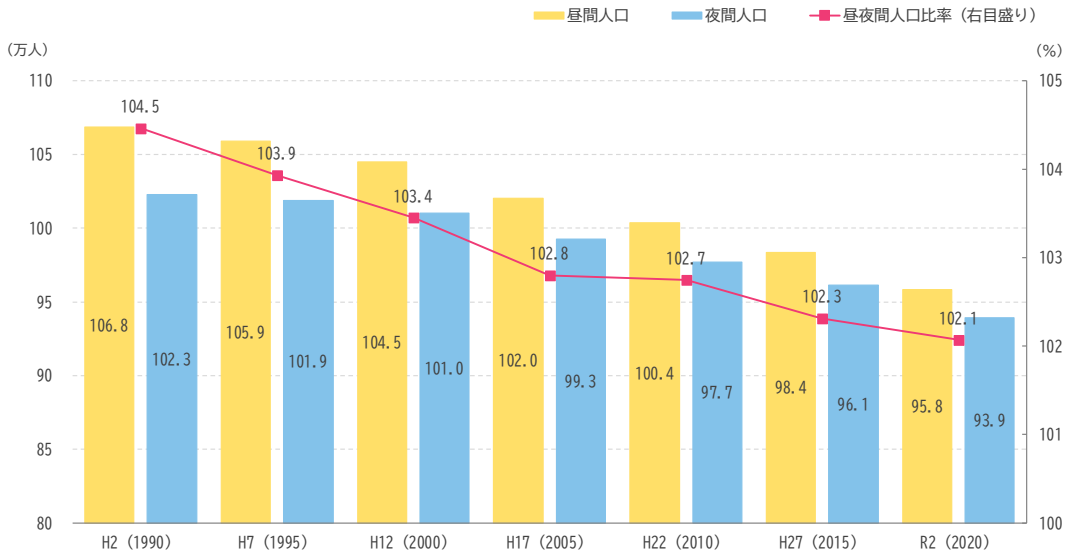


注：1日の流入・流出人口のいずれかが1,000人を超える市町を記載

出典：総務省「令和2年国勢調査」

・北九州市への流入は、中間市、水巻町、下関市、福岡市、行橋市の順に多くなっている。
・北九州市からの流出は、福岡市、苅田町、直方市、中間市、下関市の順に多くなっている。

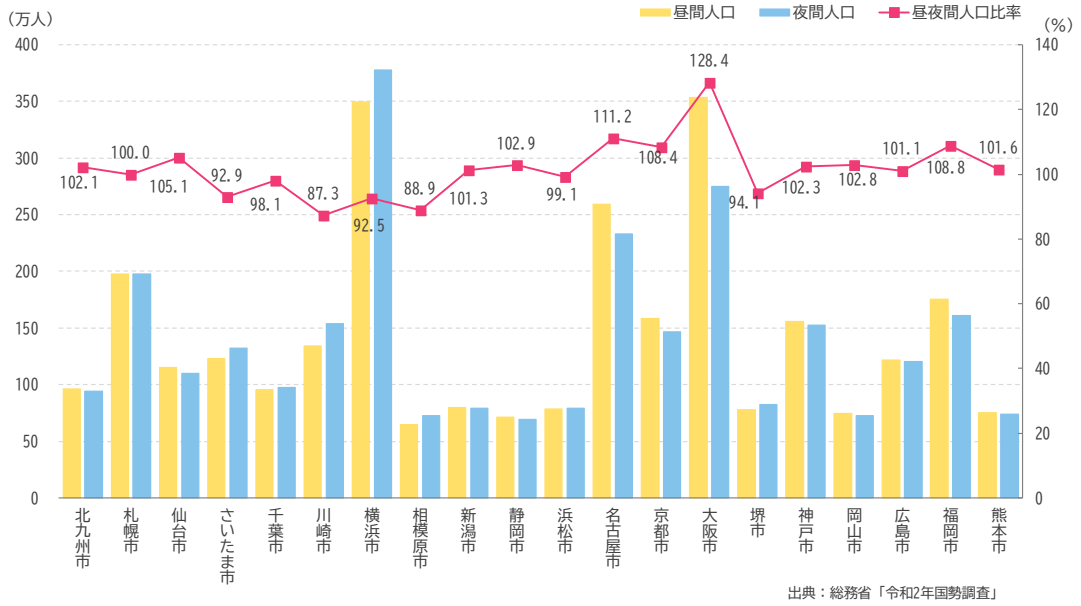
昼夜間人口比率の推移



出典：総務省「国勢調査」

・北九州市は、通勤や通学などにより、昼間の人口が夜間の人口よりも多いが、流入人口の減少などにより、年々、昼夜間人口比率は低下している。

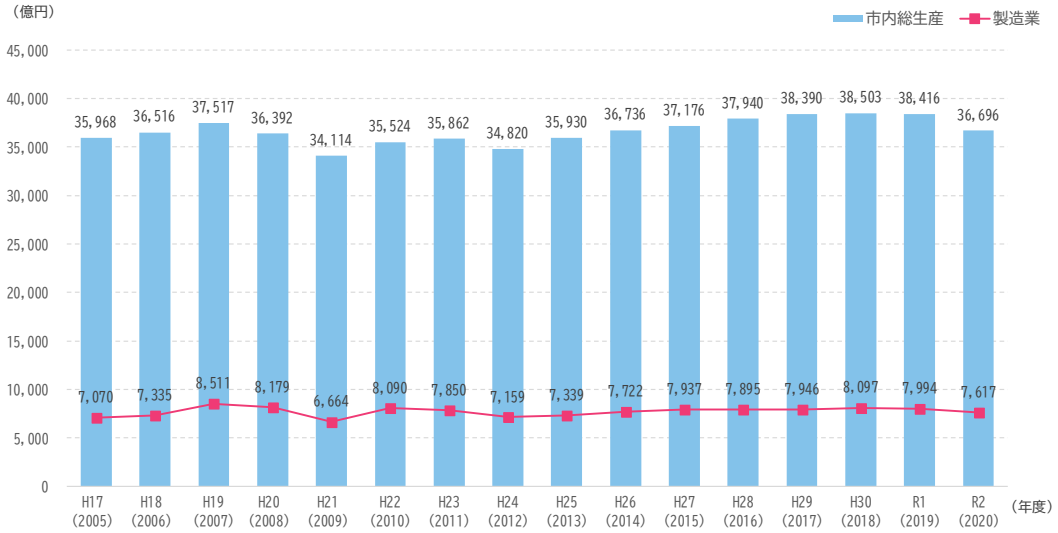
昼間人口・夜間人口・昼夜間人口比率（R2年）　（政令市比較）



・昼夜間人口比率は102.1で、政令市の中で、高い順から9番目となっている。

2.　「稼げるまち」関連

市内総生産額の推移

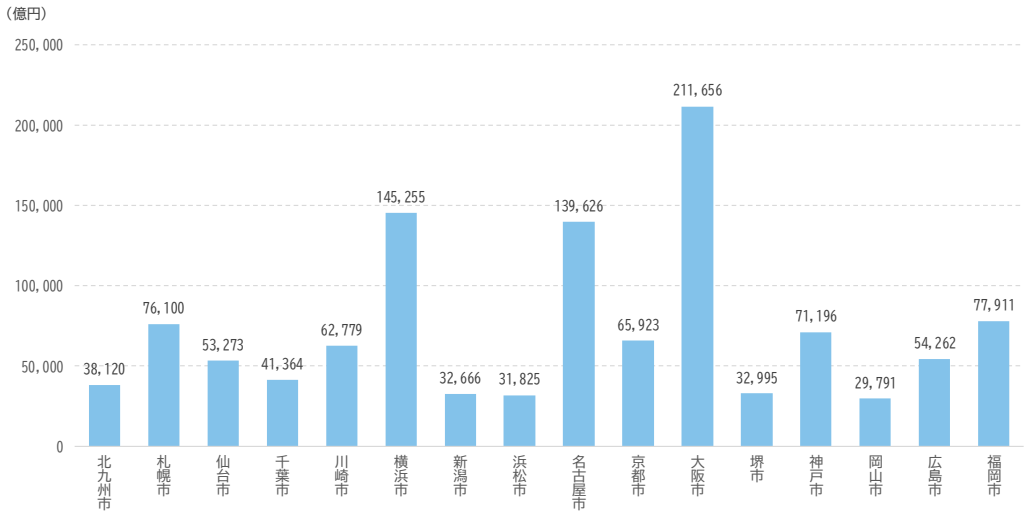


注：統計データの集計方法の違いにより、H17年度、H18～H22年度、H23年度以降の数値を単純比較することはできない
市内総生産額は名目値

出典：北九州市

・市内総生産額は、近年、約3兆7千億～8千億円を推移し、そのうち製造業は、8千億円前後にある。

市内総生産額（R1年度）　（政令市比較）

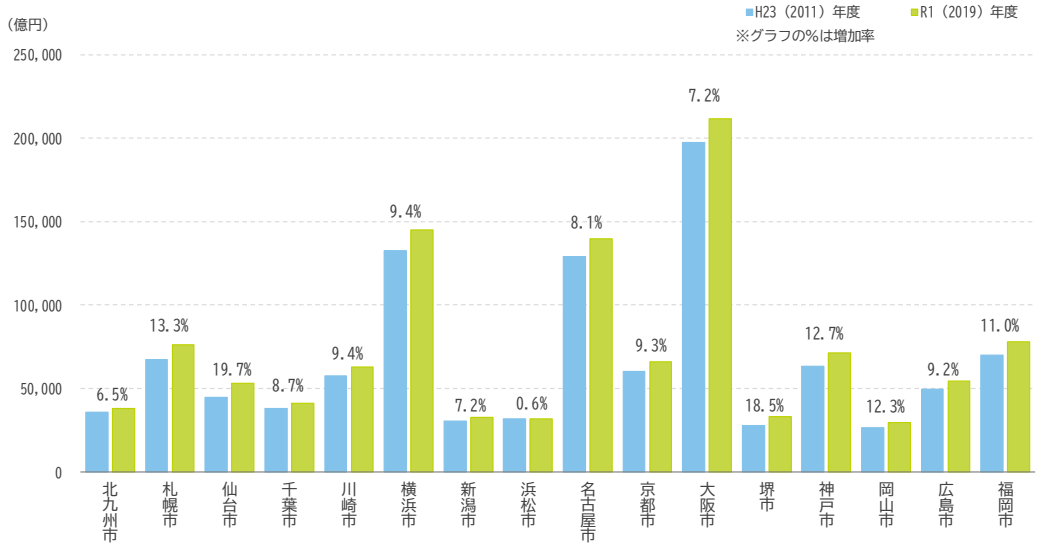


注：さいたま市、相模原市、静岡市、熊本市は非公表
市内総生産額は名目値

出典：内閣府「県民経済計算」

・令和元年度の市内総生産額は、16政令市の中で12番目となっている。

市内総生産額の増加率　（政令市比較）

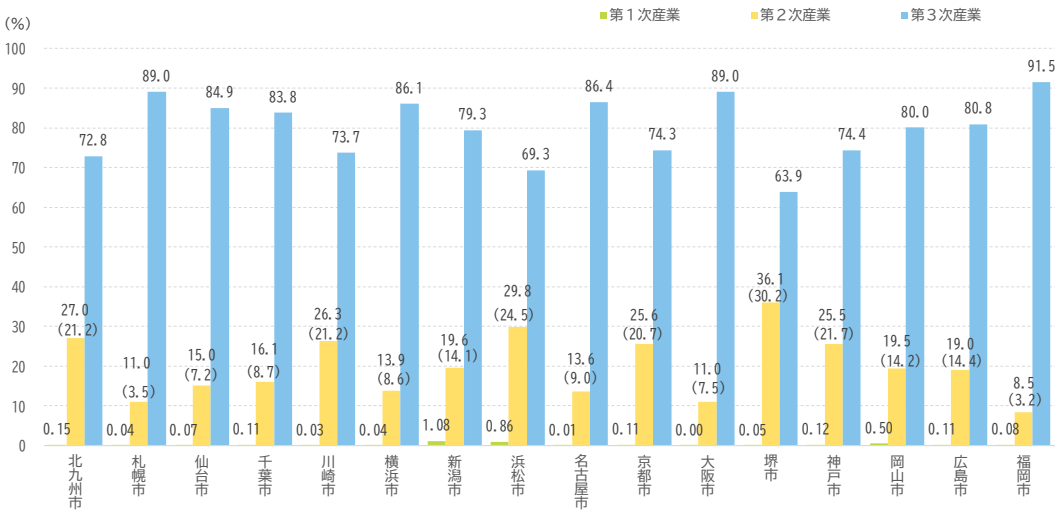


注：さいたま市、相模原市、静岡市、熊本市は非公表
市内総生産額は名目値

出典：内閣府「県民経済計算」

・市内総生産額の平成23年度と令和元年度の増加率は、16政令市の中で、浜松市に次いで2番目の低さとなっている。

市内総生産における第1次～第3次産業の割合（R1年度）　（政令市比較）

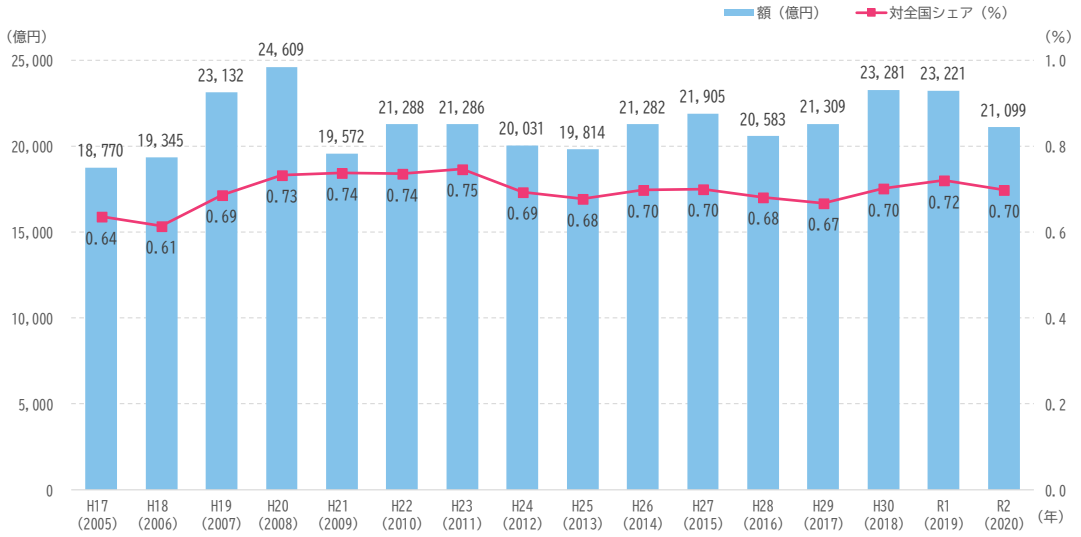


注：第2次産業の（　）内の値は、市内総生産に占める製造業の割合
さいたま市、相模原市、静岡市、熊本市は非公表
市内総生産額は名目値

出典：内閣府「県民経済計算」

・市内総生産額全体における第1から3次産業の割合は、16政令市の中で「第2次産業」は3番目、「第3次産業」は14番目となっている。

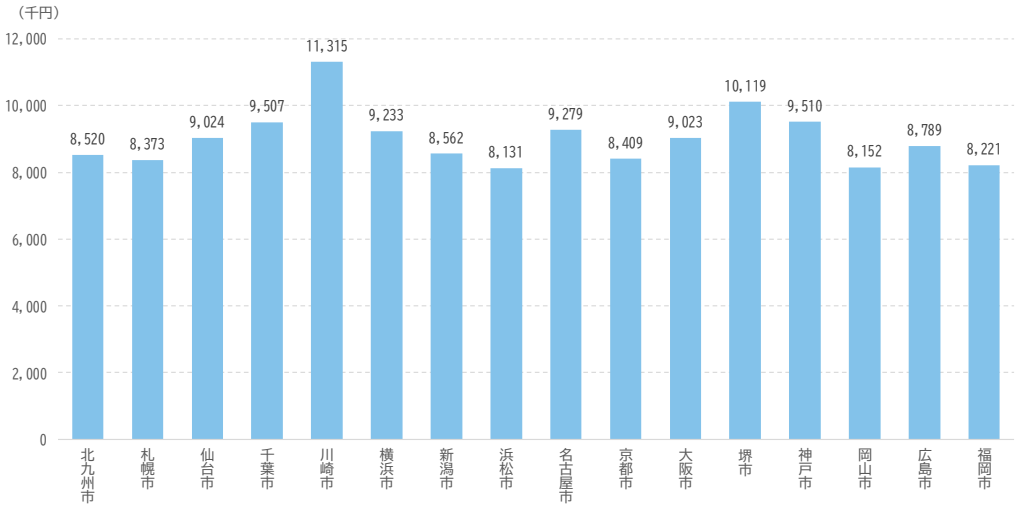
製造品出荷額の推移



出典：経済産業省「工業統計調査」、「経済センサス」

・製造品出荷額は、近年、約2兆1千億～3千億円を推移し、対全国シェアでは、約0.7%となっている。

従業者１人当たり付加価値額（R1年度）　（政令市比較）

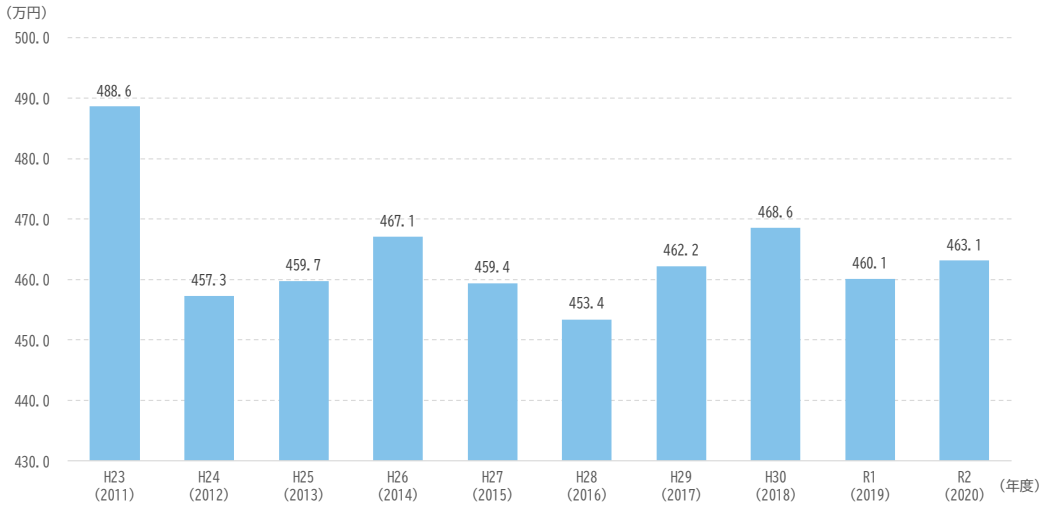


注：さいたま市、相模原市、静岡市、熊本市は非公表

出典：内閣府「県民経済計算」

・従業者1人当たり付加価値額は、16政令市の中で11番目となっている。

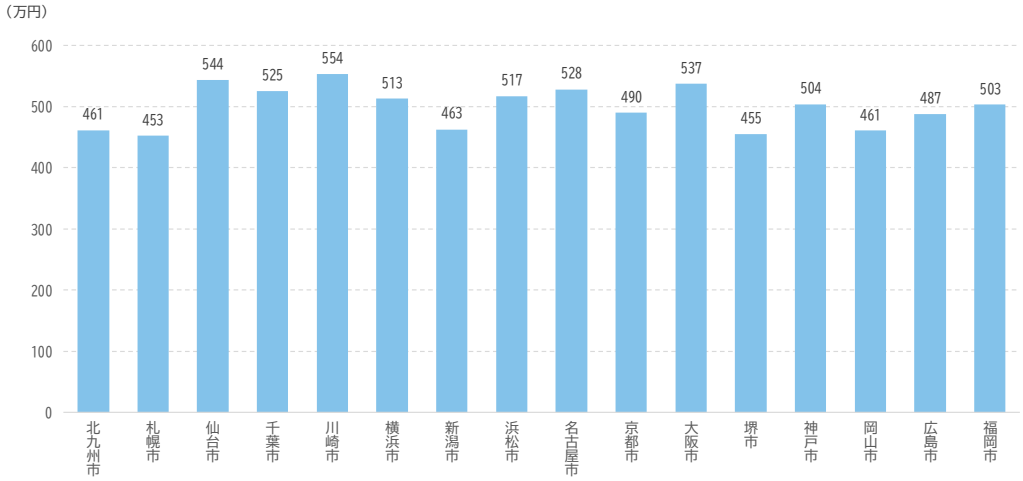
１人当たり雇用者報酬の推移



出典：北九州市

・市民1人当たり雇用者報酬は、近年、約460万円で推移している。

１人当たり雇用者報酬（R1年度）　（政令市比較）

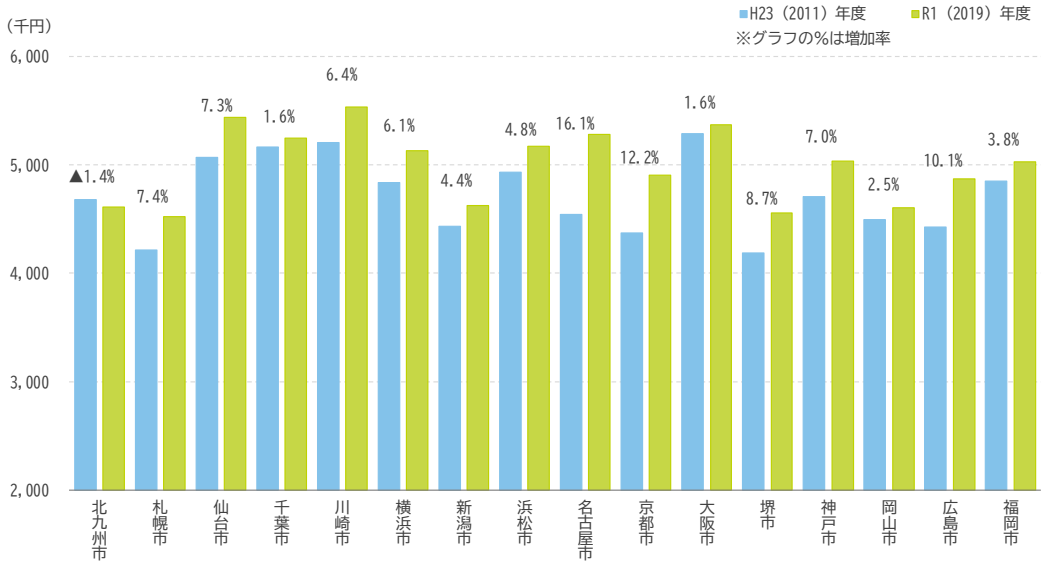


注：さいたま市、相模原市、静岡市、熊本市は非公表

出典：内閣府「県民経済計算」

・令和元年度の市民1人当たり雇用者報酬は、約460万円で、16政令市の中で13番目となっている。

１人当たり雇用者報酬の増加率　（政令市比較）

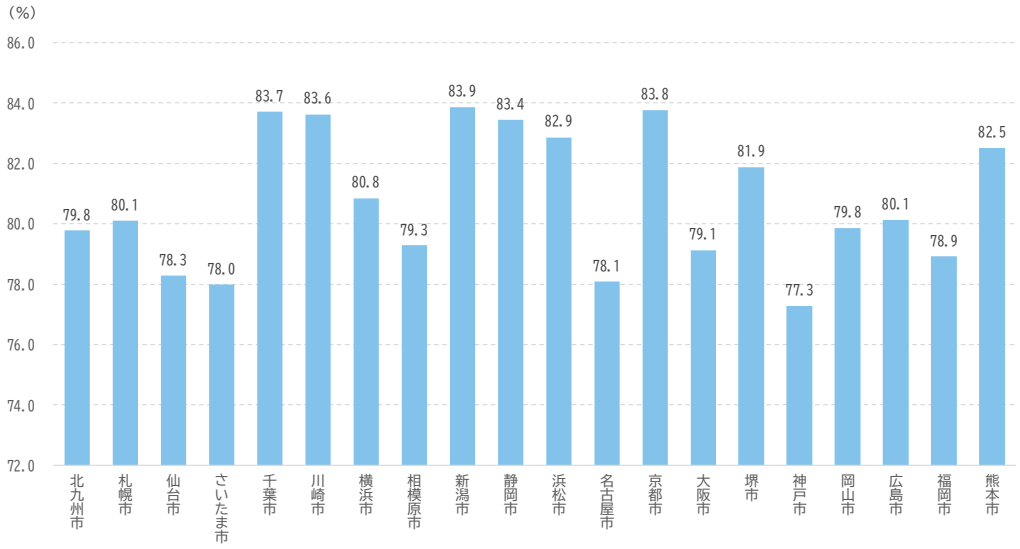


注：さいたま市、相模原市、静岡市、熊本市は非公表
市内総生産額は名目値

出典：内閣府「県民経済計算」

・市民1人当たりの雇用報酬の平成23年度から令和元年度の増加率は、北九州市のみマイナスとなっている。

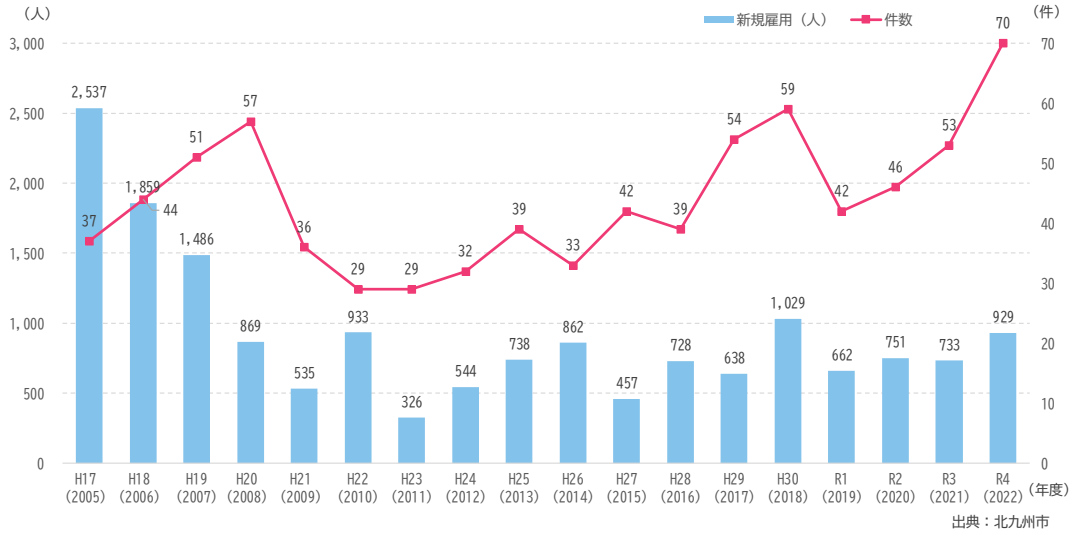
女性（25-44歳）の就業率　（政令市比較）



出典：総務省「令和4年就業構造基本調査」

・北九州市の25～44歳の女性の就業率は、79.8%で、政令市の中で13番目となっている。

企業誘致件数・新規雇用の推移



出典：北九州市

・企業誘致件数は、令和4年は70件で、新規雇用者数は929人となっている。

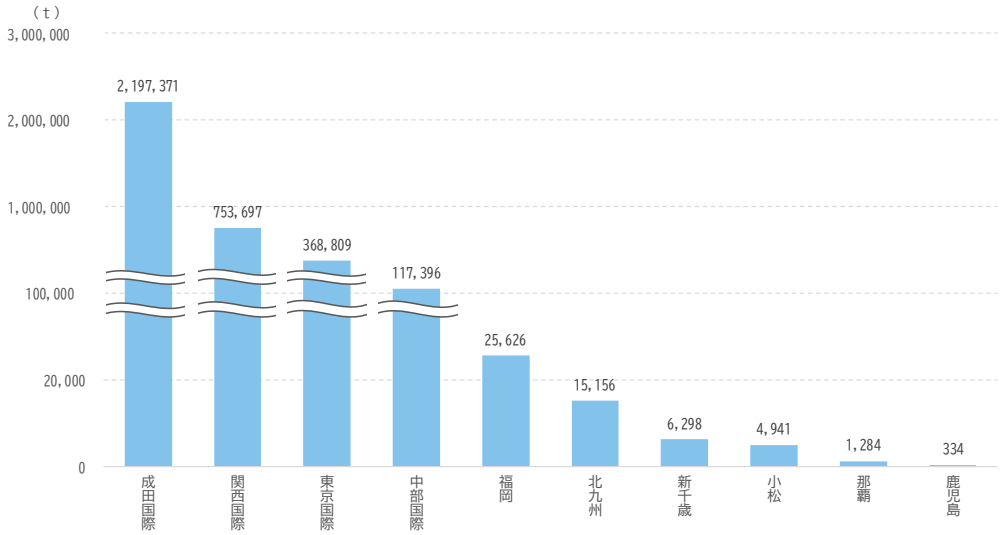
北九州空港の利用状況の推移

年度	実数			対前年比(%)		
	航空機発着回数(便)	利用者数(人)	貨物取扱量(トン)	航空機発着回数(便)	利用者数(人)	貨物取扱量(トン)
H26(2014)	8,665	1,259,879	14,845	—	—	—
H27(2015)	8,705	1,317,542	6,803	0.5	4.6	▲ 54.2
H28(2016)	8,850	1,411,657	8,451	1.7	7.1	24.2
H29(2017)	9,347	1,654,147	4,879	5.6	17.2	▲ 42.3
H30(2018)	10,179	1,793,357	8,752	8.9	8.4	79.4
R1(2019)	9,531	1,601,187	8,970	▲ 6.4	▲ 10.7	2.5
R2(2020)	5,023	326,745	15,362	▲ 47.3	▲ 79.6	71.3
R3(2021)	6,645	489,939	21,791	32.3	49.9	41.9
R4(2022)	8,266	851,387	17,466	24.4	73.8	▲ 19.8

出典：国土交通省「空港管理状況調書」

・北九州空港の利用者数は、令和2、3年度は新型コロナの影響で減少したが、貨物取扱量は増加傾向にある。

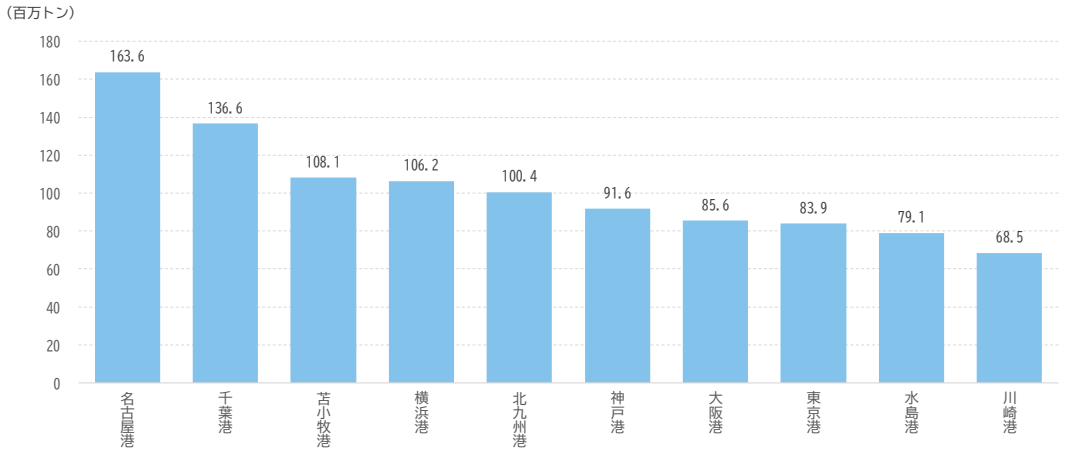
国際貨物取扱量の空港別順位（R4年度）



出典：国土交通省「空港管理状況調書」

・北九州空港の国際貨物取扱量は、約15.2千トンで、全国で6番目となっている。

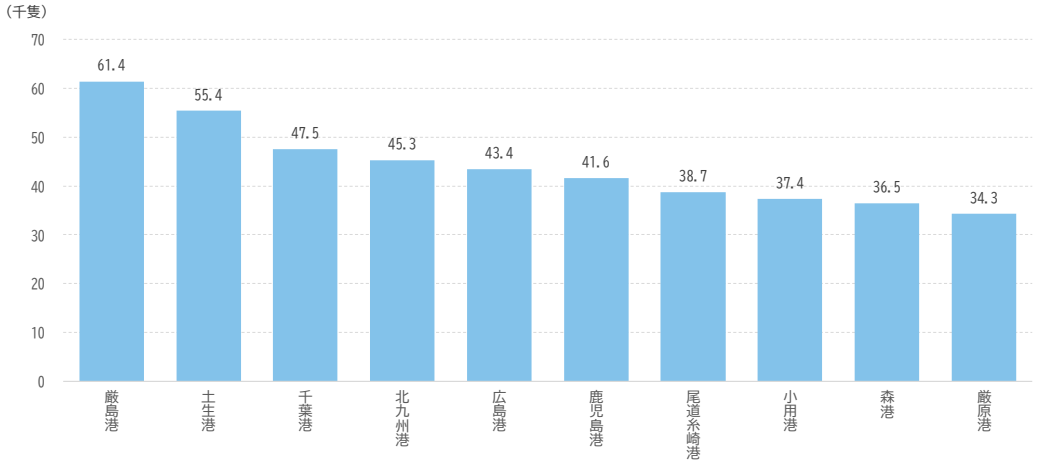
取扱貨物量の全国順位（R4年）



出典：国土交通省「令和4年港湾統計」

・北九州港の取扱貨物量は、全国で5番目となっている。

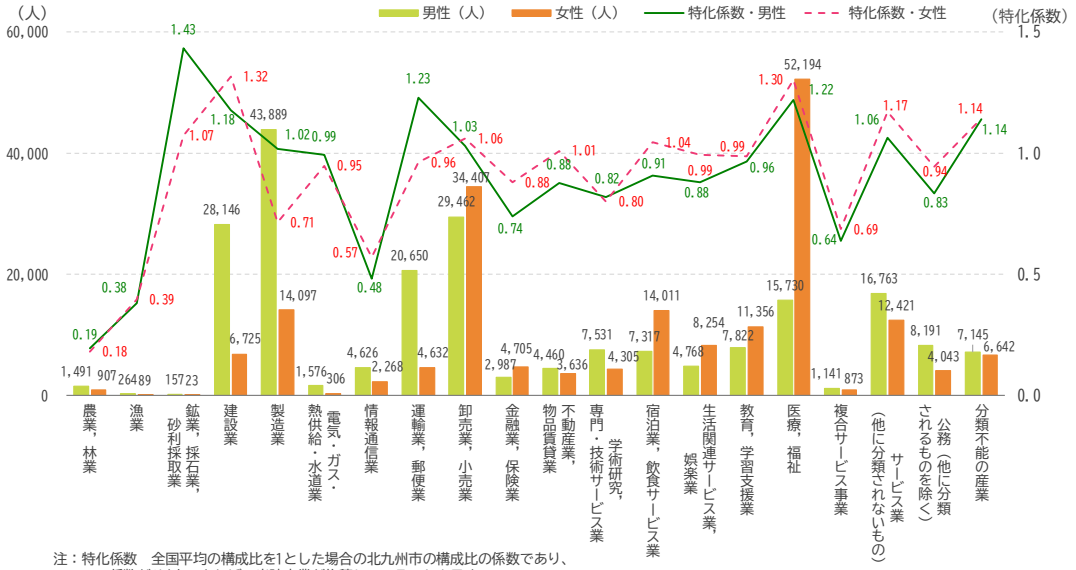
入港船舶隻数の全国順位（R4年）



出典：国土交通省「令和4年港湾統計」

・北九州港の入港船舶隻数は、全国で4番目となっている。

性別・産業別就業人口と特化係数（R2年）

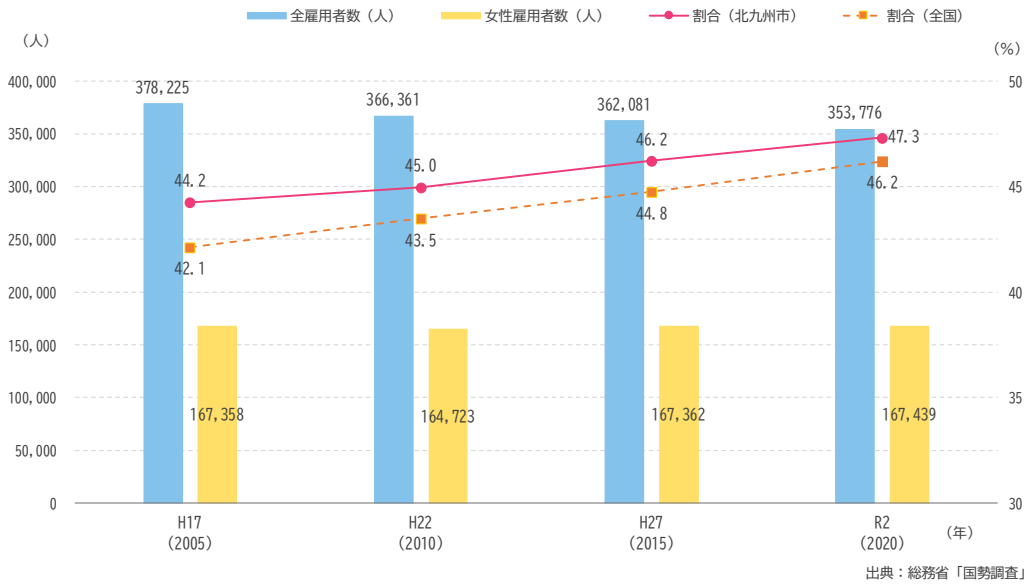


注：特化係数　全国平均の構成比を1とした場合の北九州市の構成比の係数であり、この係数が1以上であれば、当該産業が集積していることを示す

出典：総務省「令和2年国勢調査」

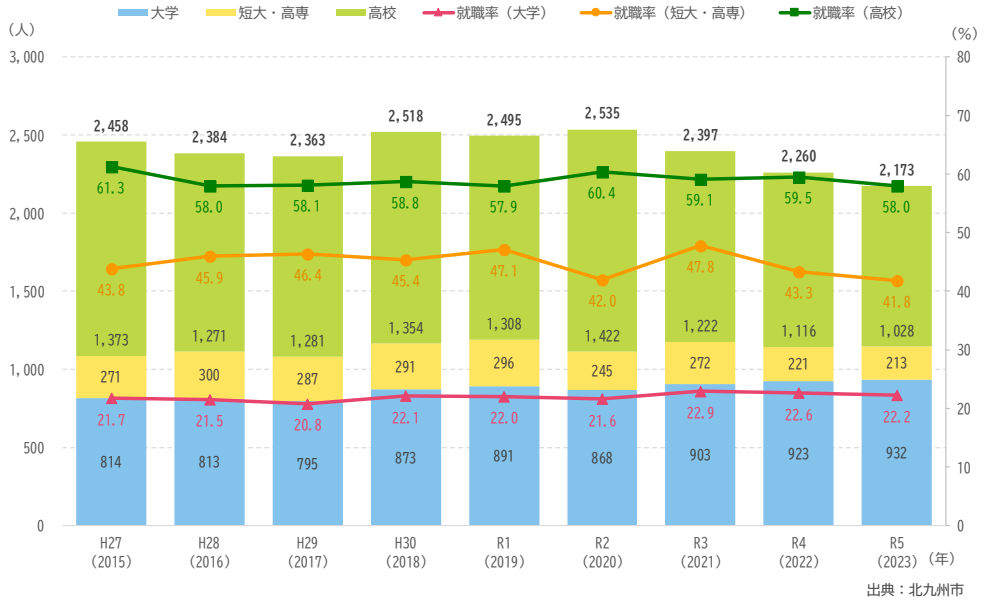
・産業別就業人口は、男性は「製造業」「卸売業・小売業」「建設業」の順で多く、女性は「医療・福祉」「卸売業・小売業」の順で多い。
・北九州市は、「建設業」「運輸業、郵便業」「医療、福祉」などの特化係数が１を超えており、当該産業が集積している。

雇用者数及び雇用者全体に占める女性の割合の推移



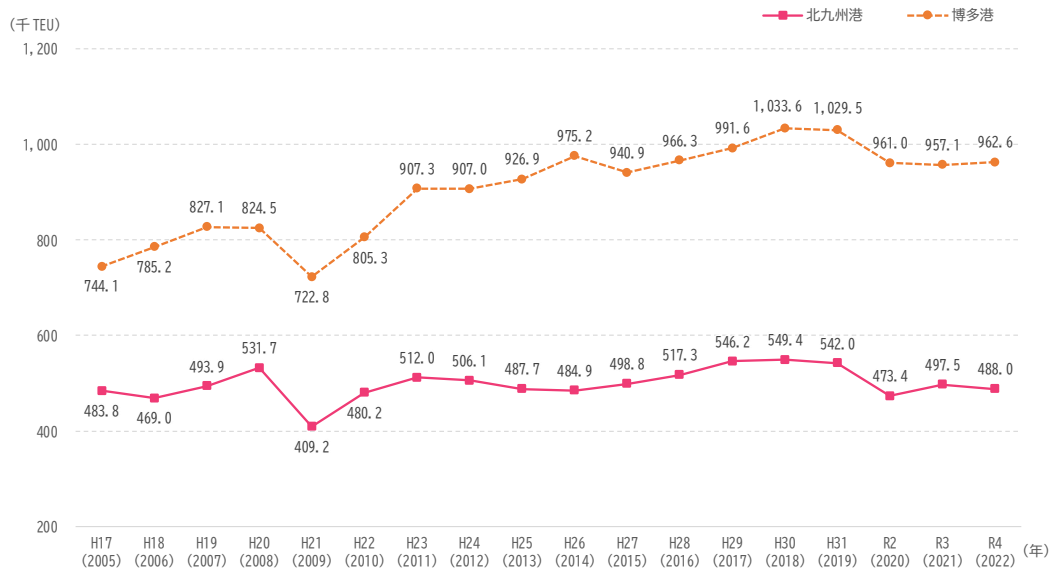
・女性雇用者数は約16万7千人で推移しており、雇用者全体に占める割合は、全国平均よりも1.1～2.1ポイント、上回っている。

北九州地域の大学等３月卒業者の年別･市内就職率の推移



・令和5年3月の北九州地域の大学等の市内就職率は、大学は22.2%、短大・高専は41.8%、高校は58.0%となっている。

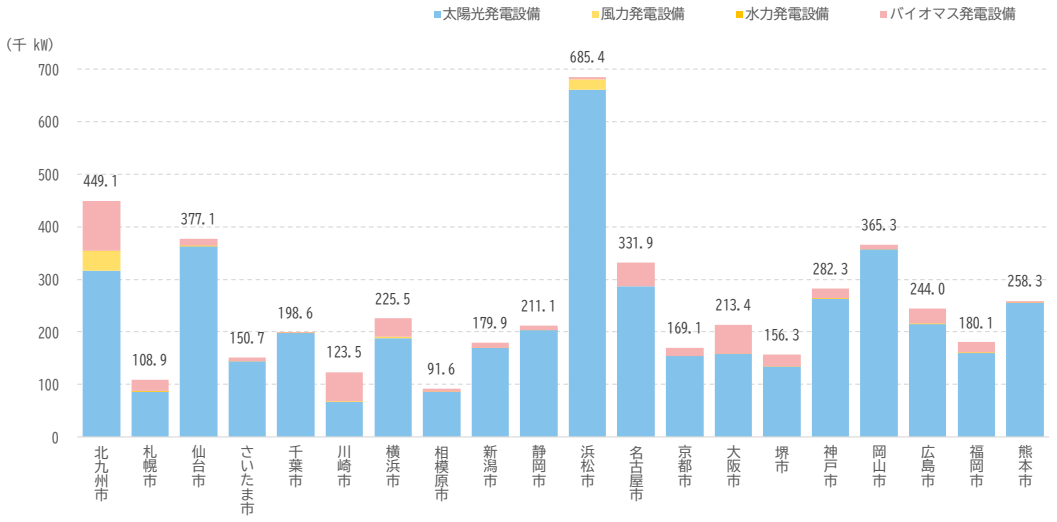
コンテナ取扱量の推移



出典：北九州市「北九州港港湾統計」、福岡市「博多港統計年報」

・コンテナ取扱量は、北九州港は約50万TEUで推移し、博多港は約100万TEUで推移している。

再生可能エネルギー発電設備の導入状況　（政令市比較）



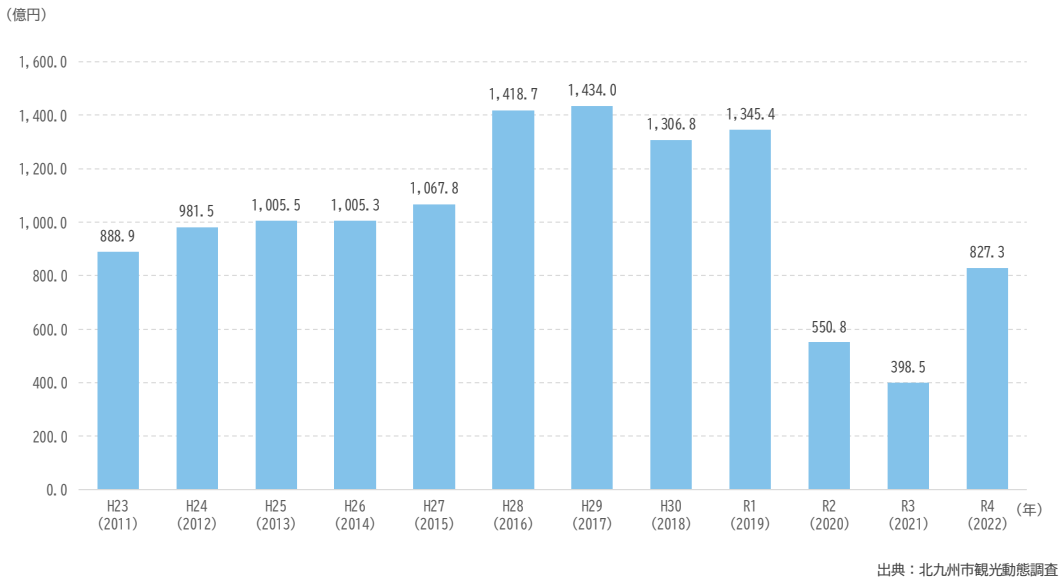
注：R5年6月末現在

出典：経済産業省　資源エネルギー庁「市町村別認定・導入量」

・再生可能エネルギー発電設備の導入が、政令市の中で2番目に高い。

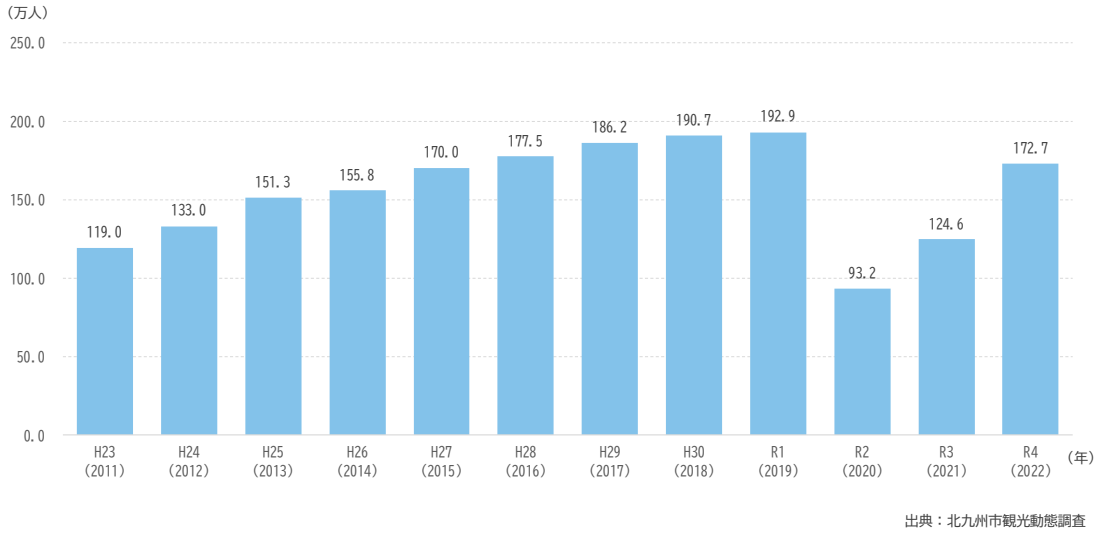
3.　「彩りあるまち」関連

観光消費額の推移



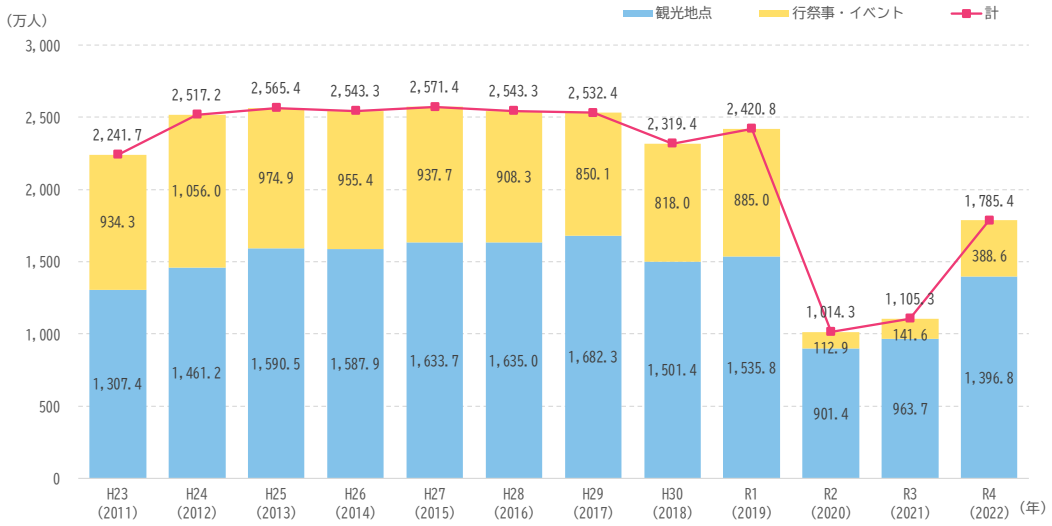
・観光消費額は、令和2、3年は新型コロナの影響で減少したが、それ以前は、約1,300億前後で推移している。

宿泊観光客数（実人数）の推移



・宿泊観光客数は、令和2、3年は、新型コロナの影響で減少したが、それ以前は、190万人前後で推移している。

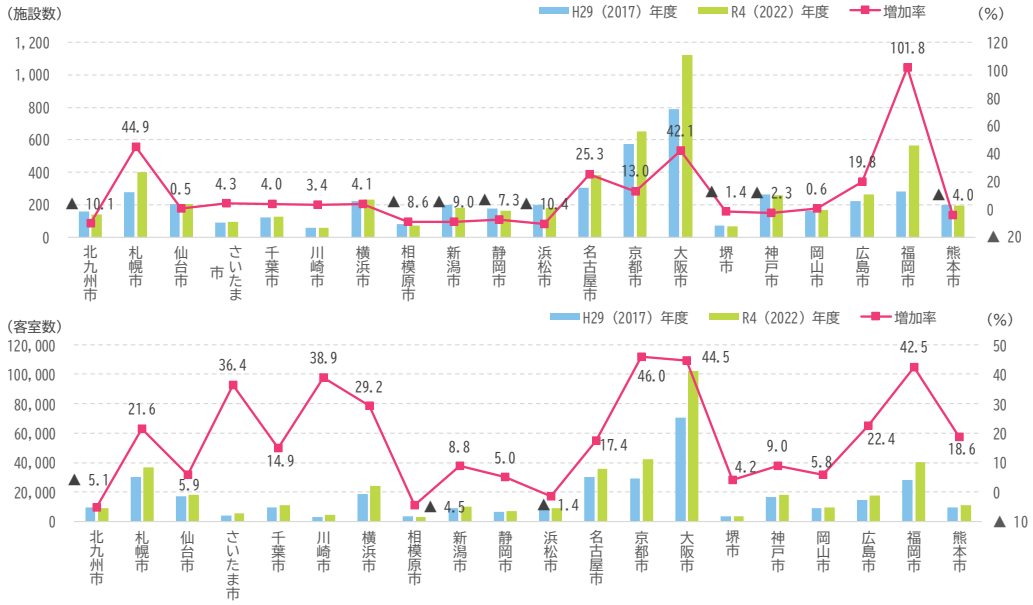
観光客数(延べ人数)の推移



出典：北九州市観光動態調査

・観光客数は、令和2、3年は新型コロナの影響で減少したが、それ以前は2,500万人前後で推移している。

ホテル・旅館数、客室数　（政令市比較）

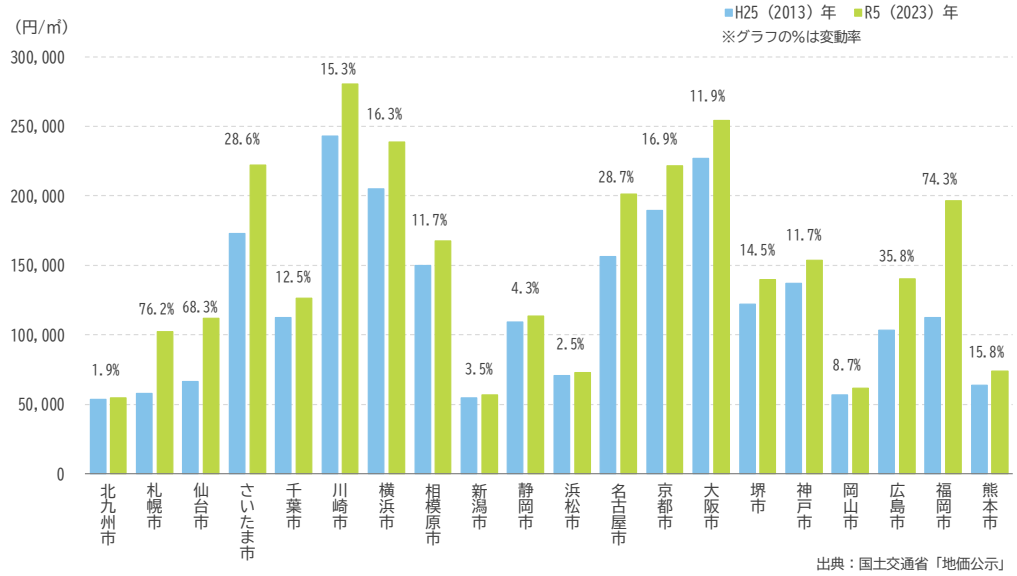


注：年度末現在の数値

出典：厚生労働省「衛生行政報告例」

・平成29年度と比較して令和4年度は、ホテル・旅館の施設数および客室数のいずれも、減少している。
・一方で、福岡市は、施設数で大きな伸びとなっている。

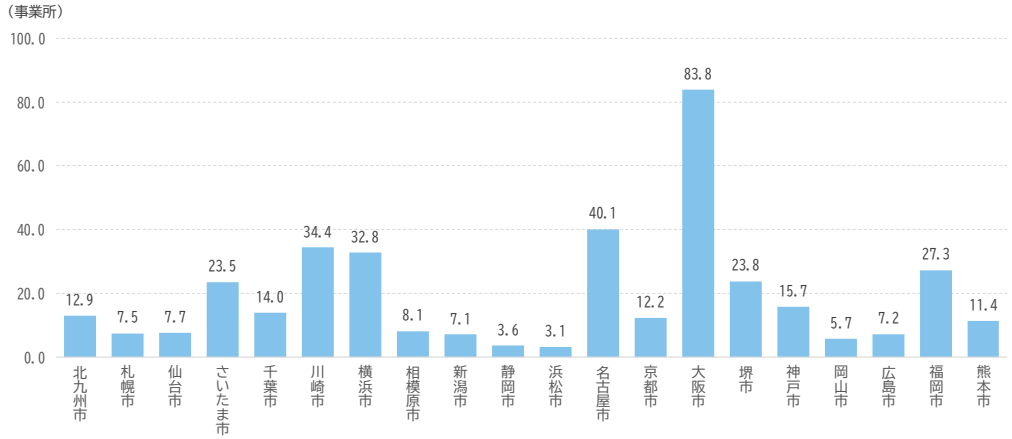
地価公示（住宅地）の平均価格・変動率　（政令市比較）



出典：国土交通省「地価公示」

・住宅地における地価公示の平均価格の平成25年と令和5年の変動率は、政令市の中で最下位となっている。

市域面積1km²当たり小売業事業所数　（政令市比較）

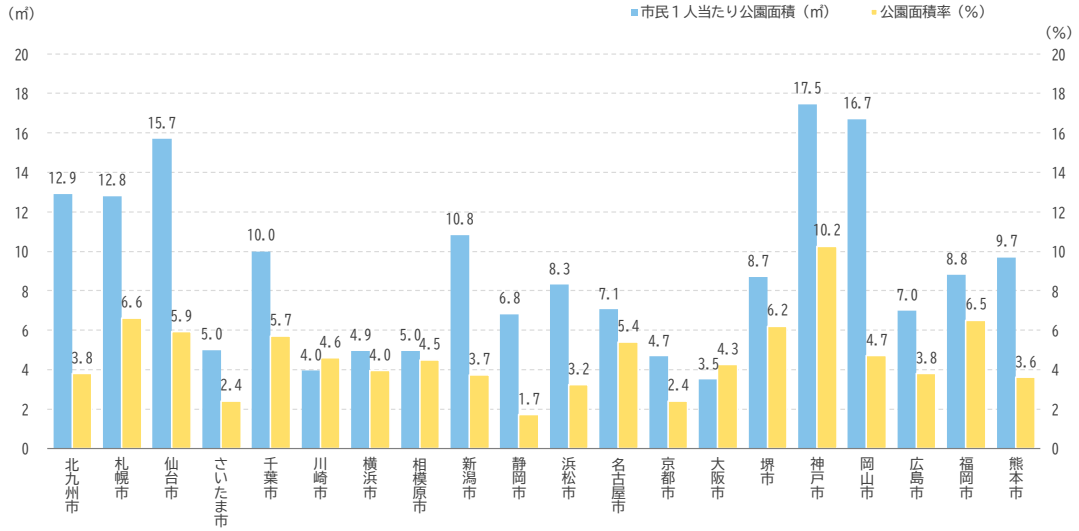


注：小売業事業所数はR3年6月1日現在
管理，補助的経済活動のみを行う事業所、産業細分類が格付不能の法人組織の事業所又は産業小分類が格付不能の個人経営（法人でない団体を含む）の事業所、卸売の商品販売額（仲立手数料を除く）、小売の商品販売額及び仲立手数料のいずれの金額も無い法人組織の事業所は含まない
市域面積はR3年10月1日現在

出典：総務省「令和3年経済センサス活動調査」
国土交通省「令和3年全国都道府県市区町村別面積調」

・市域面積1km²当たり小売り事業所数は、政令市の中で10番目となっている。

市街化区域内の市民1人あたりの公園面積　（政令市比較）

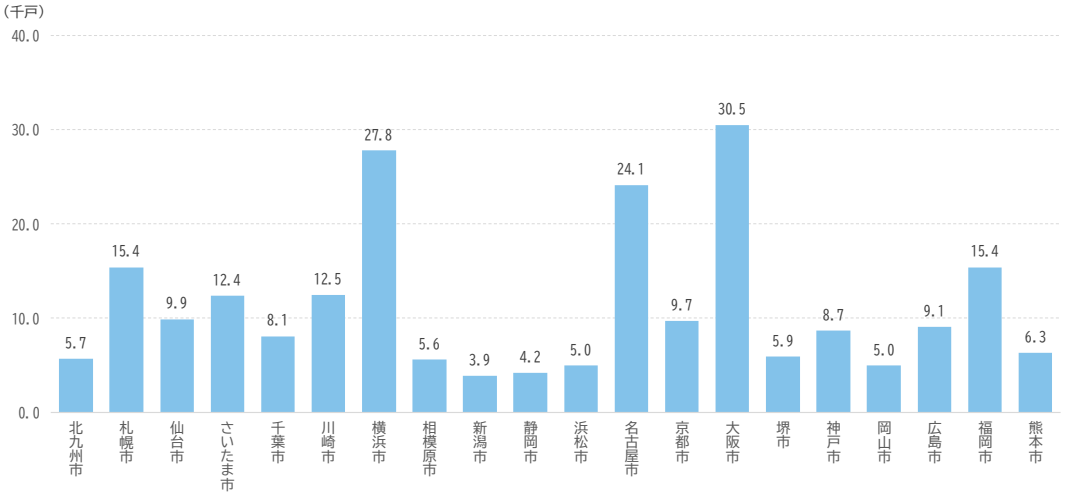


注：公園面積率は、市街化区域に占める公園面積の割合

出典：北九州市

・市街化区域内の市民1人当たり公園面積は、政令市の中で4番目となっている。
・また、市街化区域内の公園面積率は、政令市の中で13番目となっている。

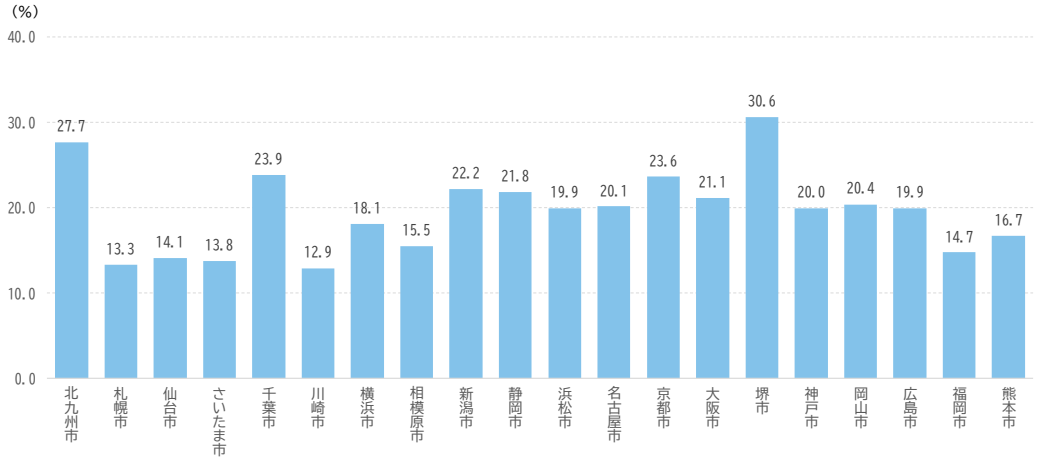
着工新設住宅戸数（R5年）　（政令市比較）



出典：国土交通省「令和5年建築着工統計調査」

・令和5年の着工新設住宅戸数は、政令市の中で15番目となっている。

建築時期が昭和55年以前の住宅割合　（政令市比較）

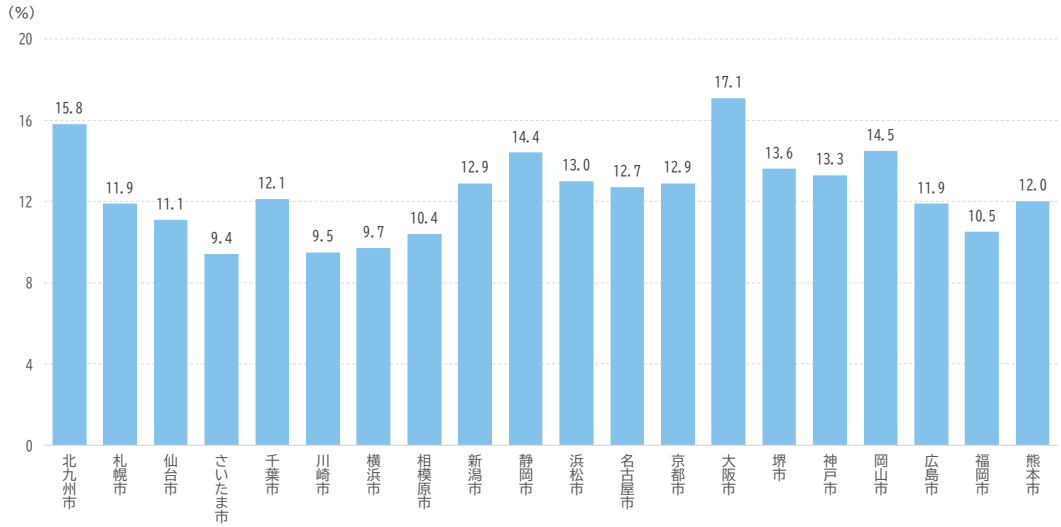


注：算出方法　昭和55年以前に建築された居住世帯のある住宅数÷総数×100
　　総数には建築の時期不詳を含む
　　S56年6月1日に建築基準法施行令が改正され、新耐震基準となった

出典：国土交通省「平成30年住宅土地統計調査」

・建築時期が昭和55年以前の住宅割合は、政令市の中で2番目となっている。

空き家率　（政令市比較）

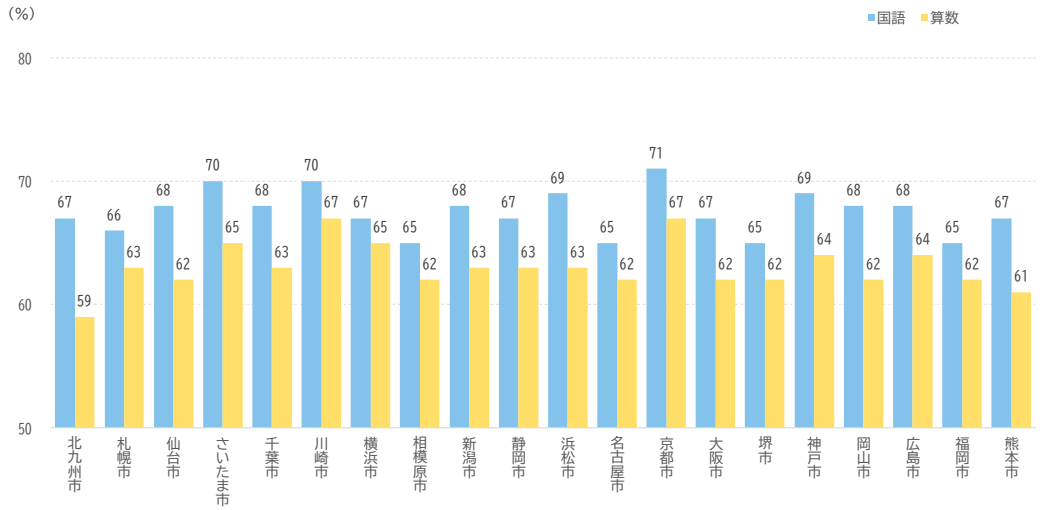


注：算出方法　空き家総数÷住宅総数×100

出典：国土交通省「平成30年住宅土地統計調査」

・住宅総数に占める空き家の割合は、政令市の中で2番目となっている。

小学生：全国学力・学習状況調査の結果（R5年度）　（政令市比較）

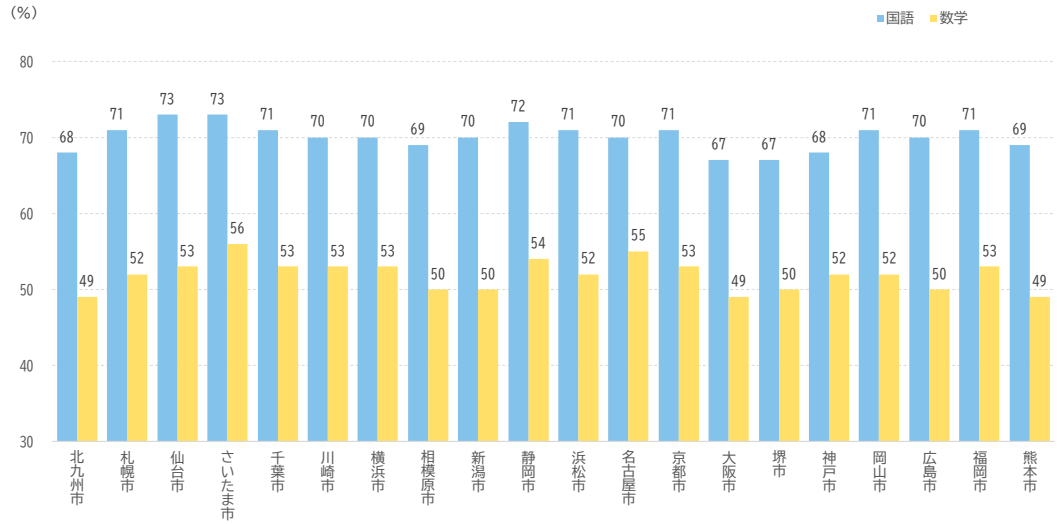


注：数値は教科ごとの平均正答率を示したもの

出典：国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査」

・小学生の「算数」の平均正答率は、政令市の中で下位に位置している。

中学生：全国学力・学習状況調査の結果（R5年度）　（政令市比較）

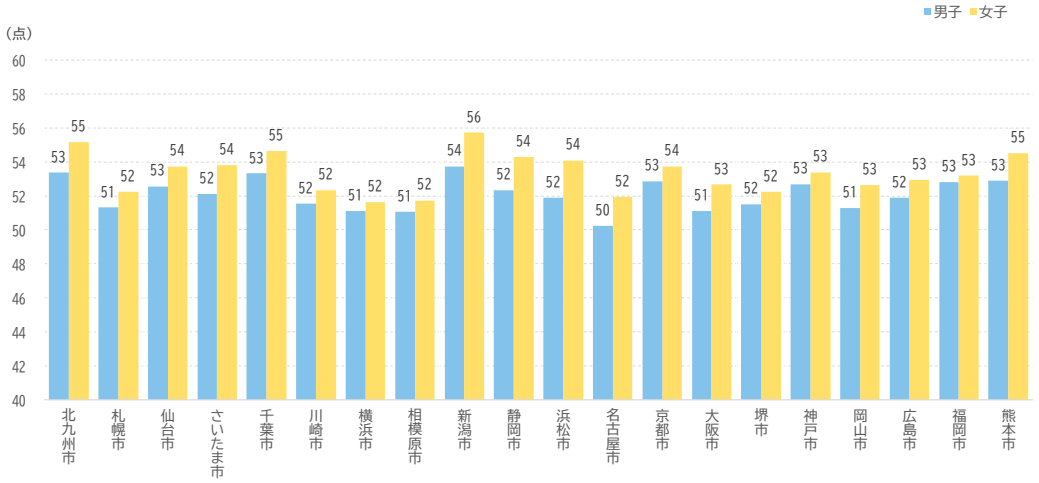


注：数値は教科ごとの平均正答率を示したもの

出典：国立教育政策研究所「令和5年度全国学力・学習状況調査」

・中学生の「国語」と「数学」ともに平均正答率は、政令市の中で下位に位置している。

小学生：全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(R5年度)　（政令市比較）

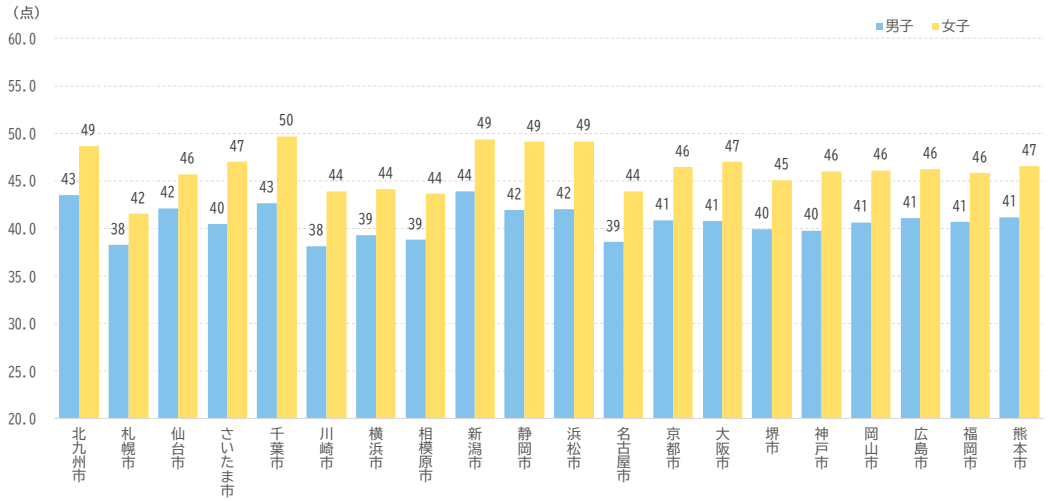


注：数値は体力合計点を示したもの
小数点以下は四捨五入

出典：スポーツ庁「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査調査」

・小学生の体力合計点は、男子、女子ともに政令市の中で上位に位置している。

中学生：全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(R5年度)　（政令市比較）



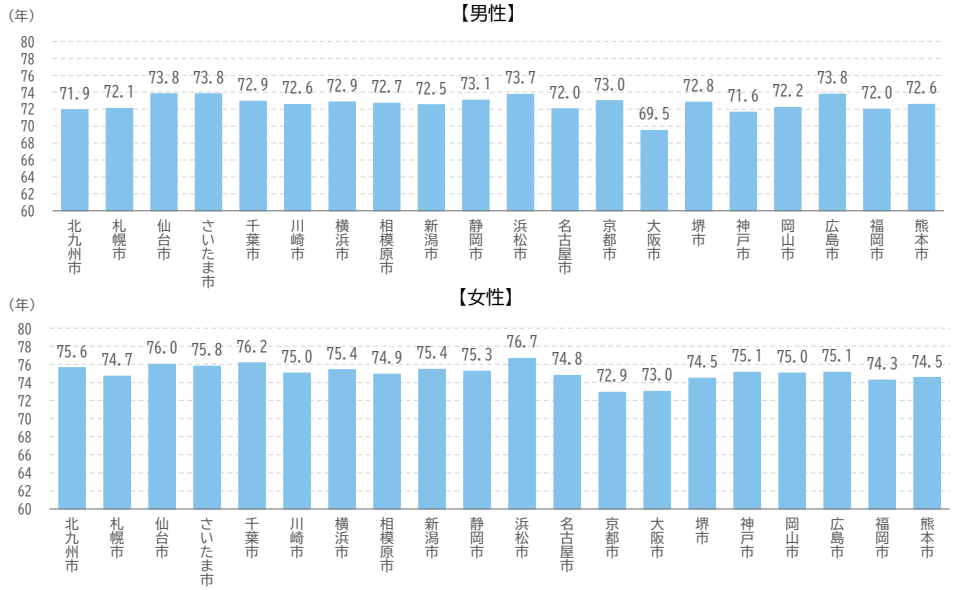
注：数値は体力合計点を示したもの
小数点以下は四捨五入

出典：スポーツ庁「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査調査」

・中学生の体力合計点は、男子、女子ともに政令市の中で上位に位置している。

4.　「安らぐまち」関連

健康寿命　（政令市比較）

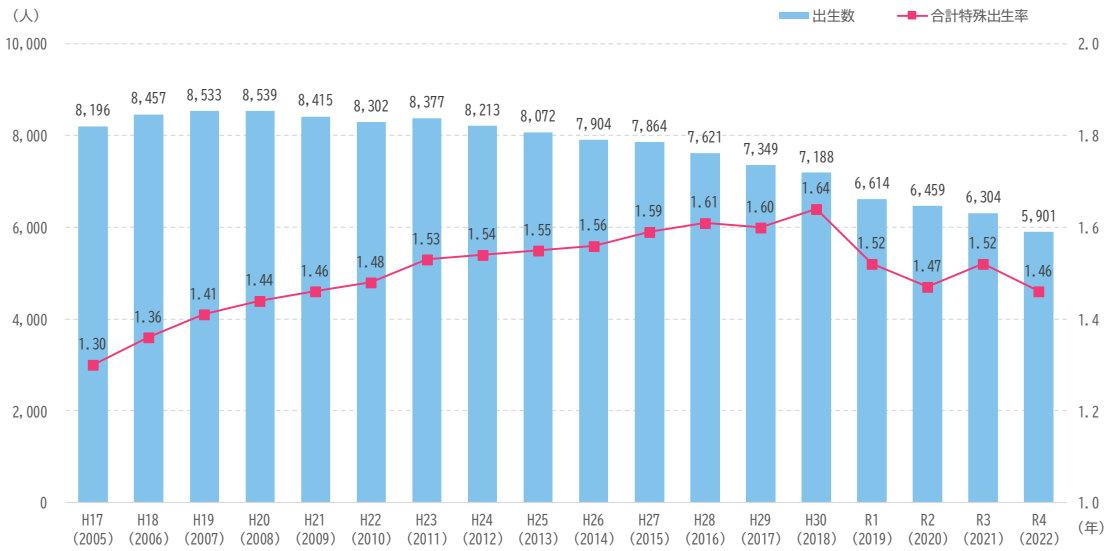


注：健康寿命　健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間

出典：厚生労働省「厚生労働科学研究」（2019年結果）

・健康寿命は、政令市の中で、男性では18番目、女性では5番目となっている。

出生数及び合計特殊出生率の推移

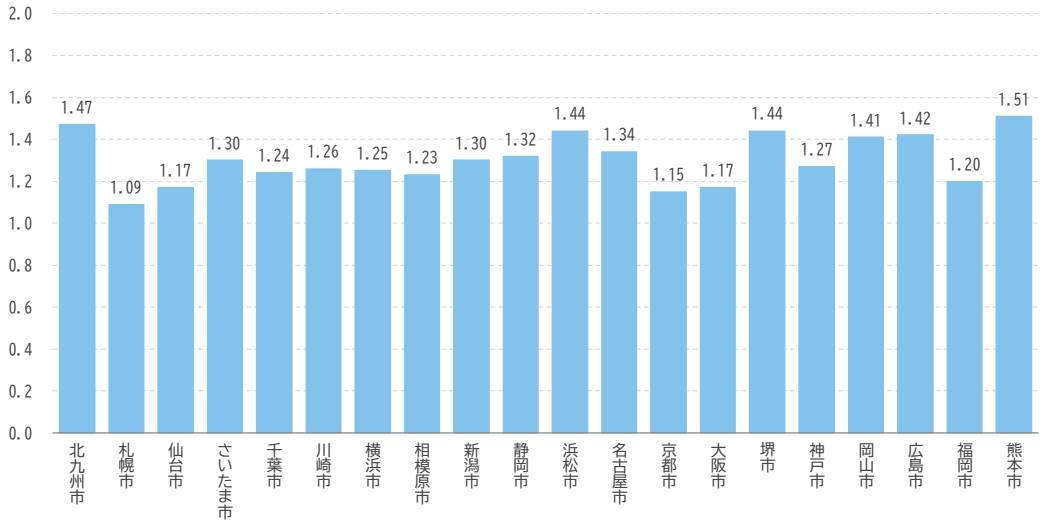


注：合計特殊出生率　15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

出典：北九州市

・出生数は減少傾向にあり、令和4年は5,901人となっている。
・令和4年の合計特殊出生率は1.46で、前年の1.52を0.06ポイント下回った。

合計特殊出生率（R2年）　（政令市比較）

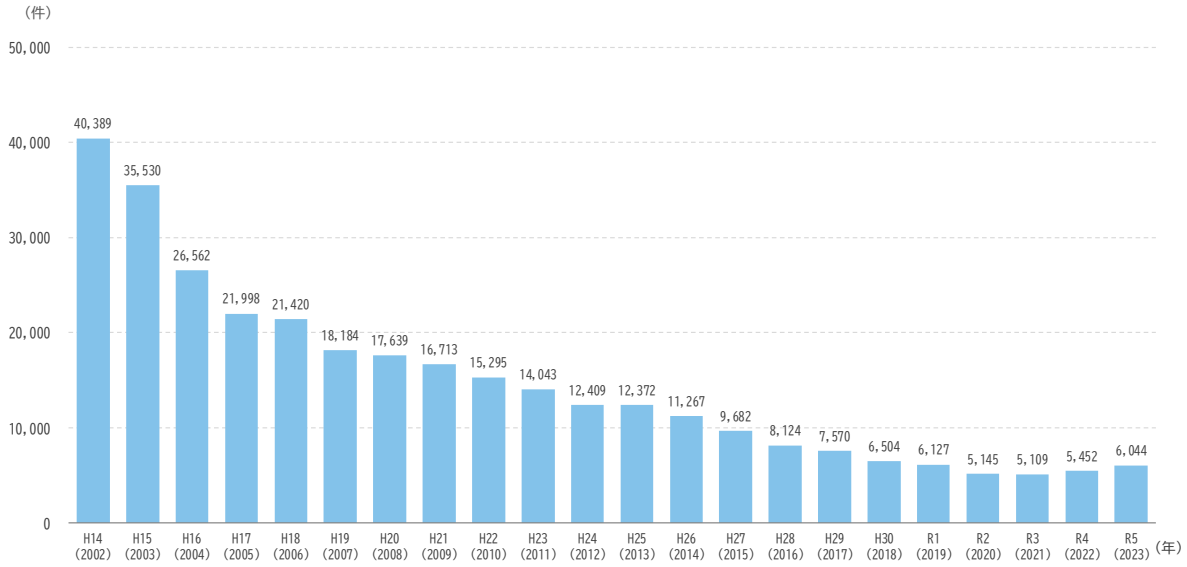


注：合計特殊出生率　15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの

出典：厚生労働省「令和２年人口動態調査」

・合計特殊出生率は、政令市の中で、熊本市に次いで2番目となっている。

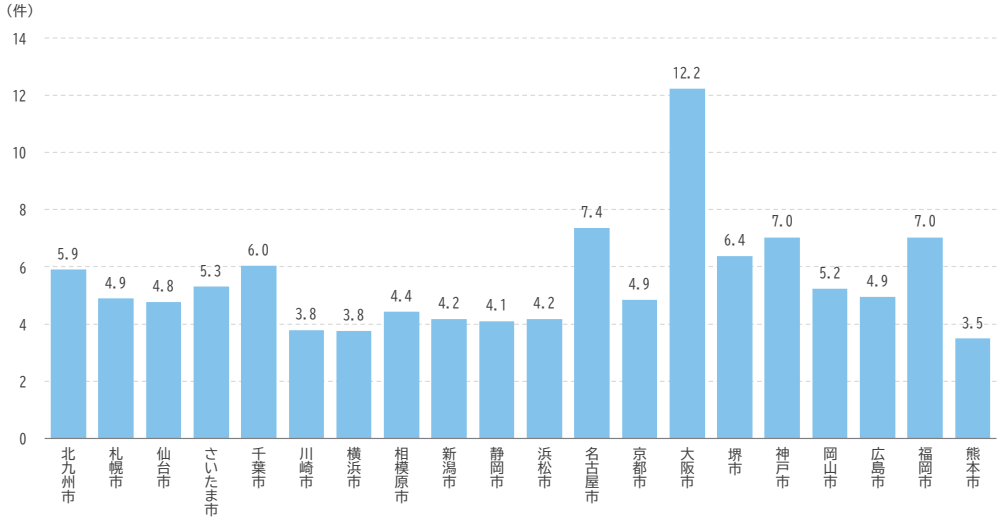
北九州市における刑法犯認知件数の推移



出典：北九州市

・刑法犯認知件数は、減少傾向にあり、平成14年と比較して約7分の1となっている。

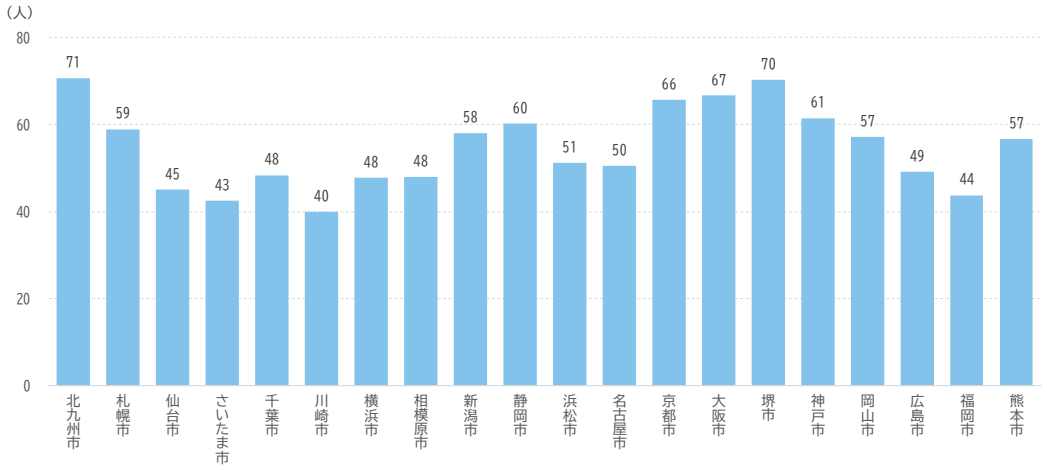
人口1,000人当たり刑法犯認知件数(R4年)　（政令市比較）



出典：北九州市

・人口1,000人当たりの刑法犯認知件数は、政令市の中で、高い順から7番目となっている。

人口1,000人当たり要介護・要支援認定者数(R3年)　（政令市比較）

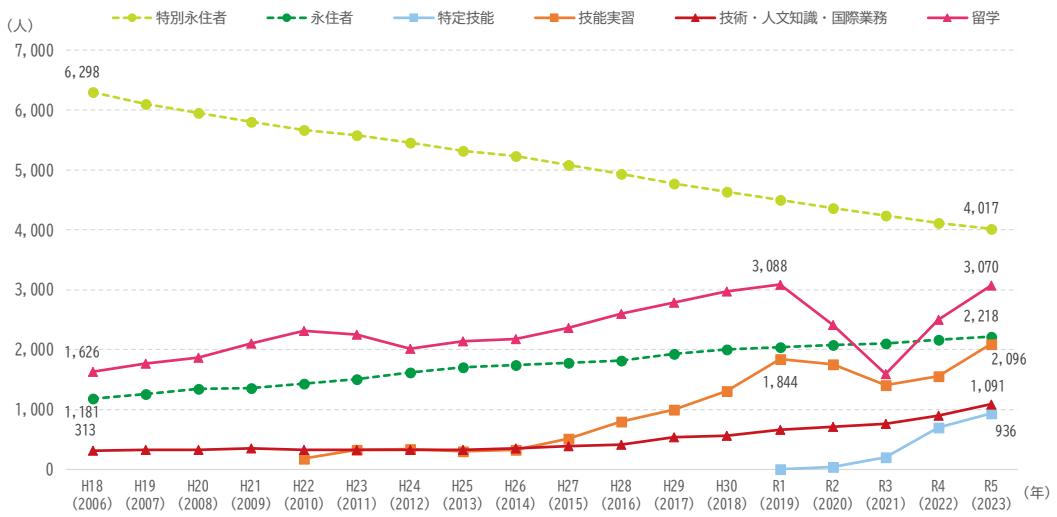


注：要介護・要支援認定者数はR3年3月末日現在
人口はR3年10月1日現在の推計人口

出典：北九州市

・人口1,000人当たりの要介護・要支援認定者数は、政令市の中でトップとなっている。

主な在留資格別外国人市民の推移

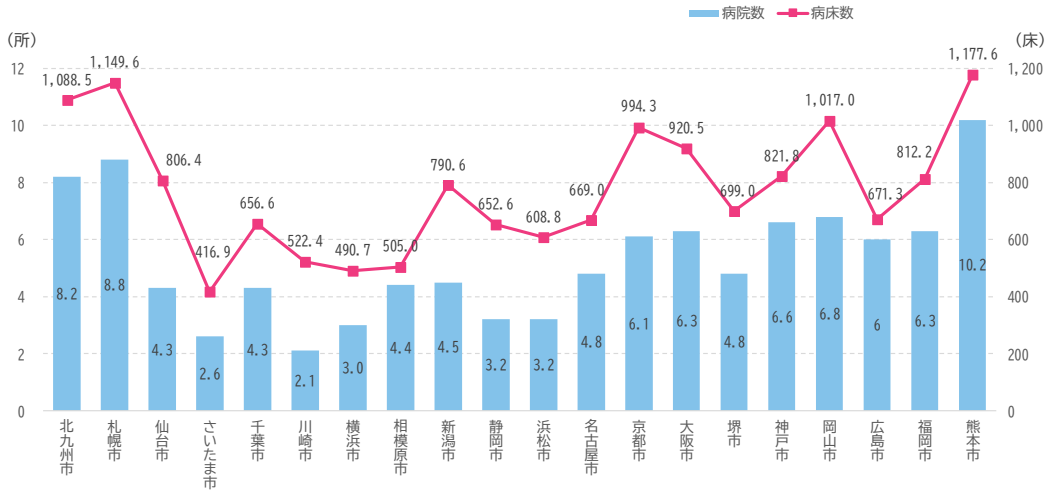


注：H24年までは「旧外国人登録人口」、H25年以降は「住民基本台帳人口」による
各年12月31日現在の数値

出典：北九州市

・外国人市民の在留資格別では、「特別永住者」が最も多く、次いで「留学」、「永住者」の順となっている。

人口10万人当たり一般病院数・一般病院病床数（R4年）　（政令市比較）

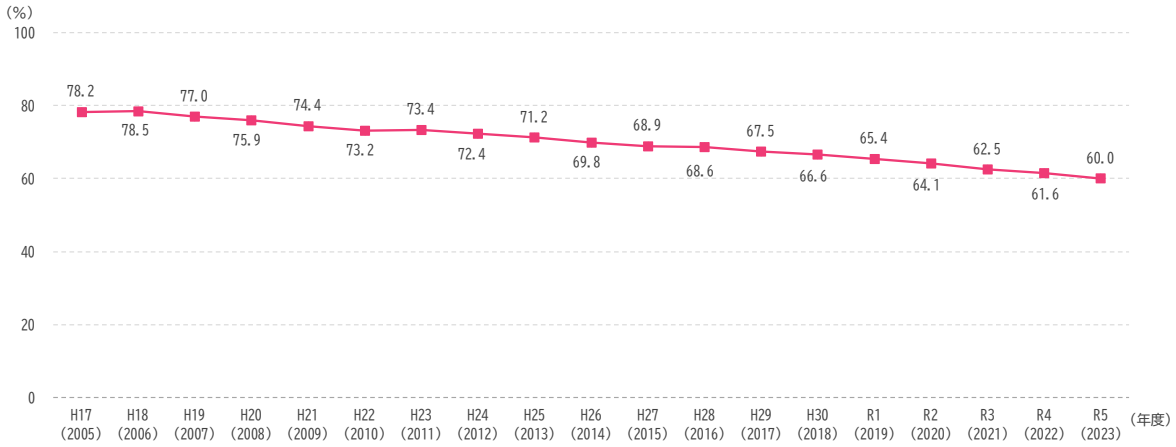


注：R4年10月1日現在

出典：厚生労働省「医療施設調査」

・人口10万人当たりの一般病院数および病床数ともに、政令市の中で3番目となっている。

自治組織加入率の推移

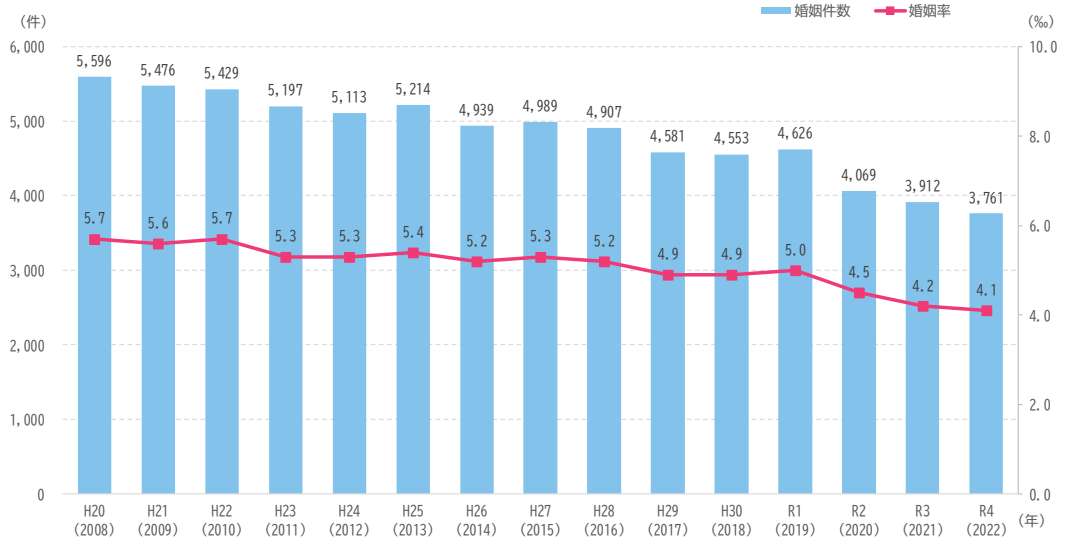


注：各年度4月1日現在

出典：北九州市

・自治組織加入率は、減少傾向にあり、令和5年度は60.0%となっている。

婚姻件数及び婚姻率の推移

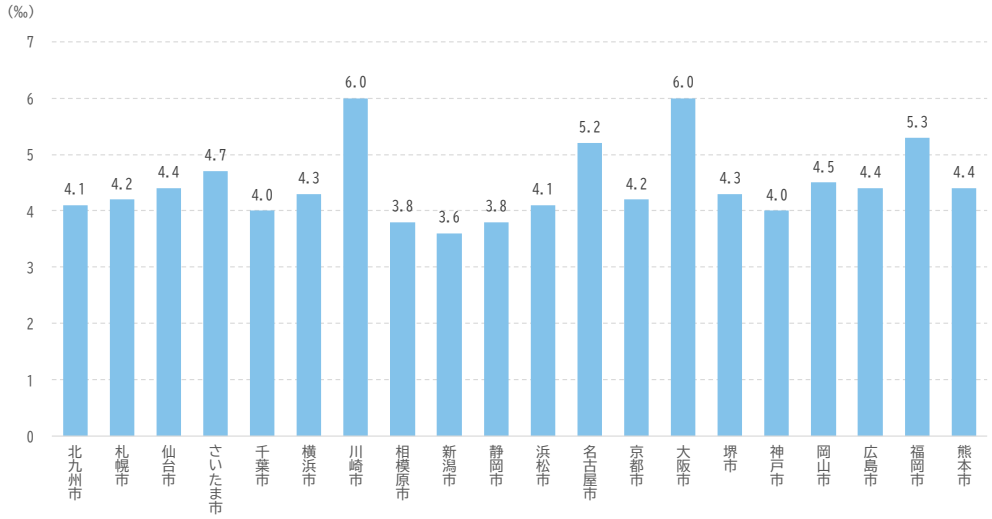


注：婚姻率：人口1,000人に対する婚姻件数の割合

注：厚生労働省「人口動態調査」

・令和4年と平成20年を比較すると、婚姻件数は約1,800件の減少、婚姻率は1.6ポイントの減少となっている。

婚姻率(R4年)　　(政令市比較)

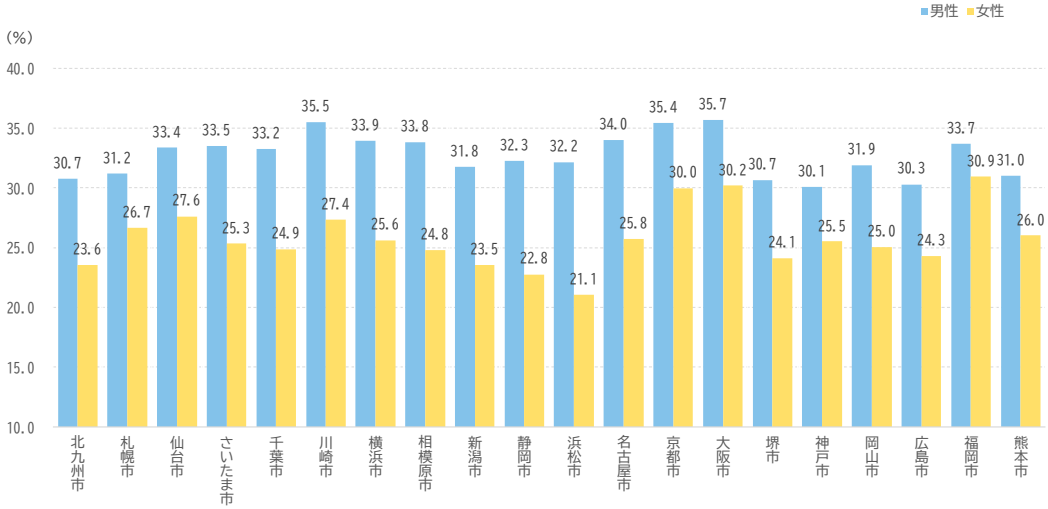


注：婚姻率：人口1,000人に対する婚姻件数の割合

厚生労働省「令和4年人口動態調査」

・婚姻率は、政令市の中で、高い順から14番目となっている。

未婚率(男性・女性)(R2年)　　(政令市比較)



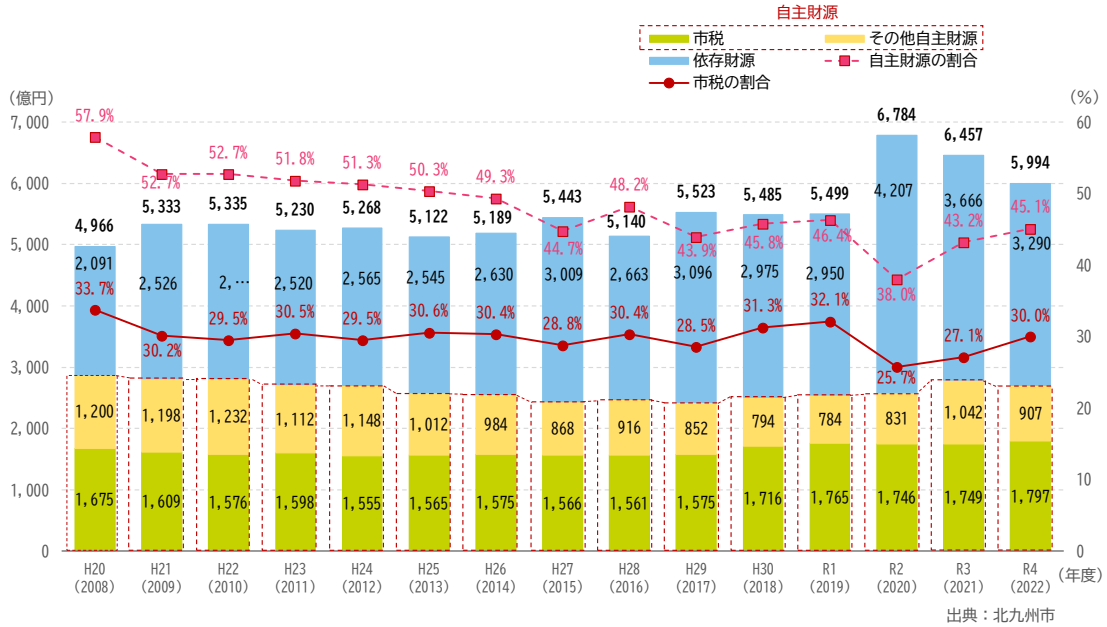
注：配偶関係「不詳」を含まない

出典：総務省「令和2年国勢調査」

・未婚率は、政令市の中では、男性が低い順から3番目、女性は低い順から4番目となっている。

5.　「財政」関連

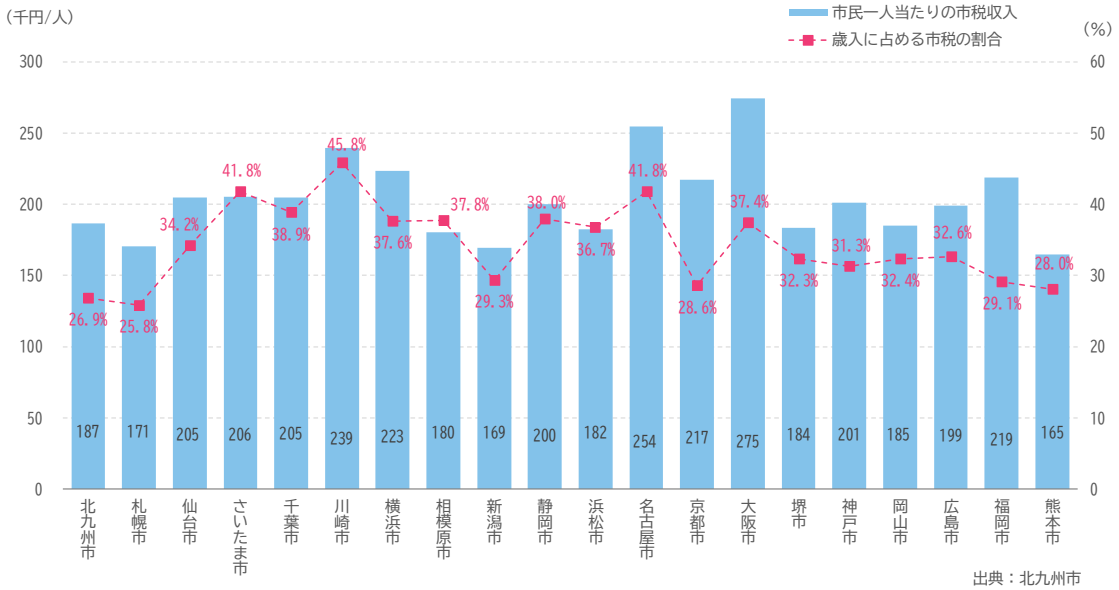
一般会計歳入決算額の推移



出典：北九州市

・一般会計の歳入決算における、自主財源の割合は40～50%程度、市税の割合は30%程度で推移している。

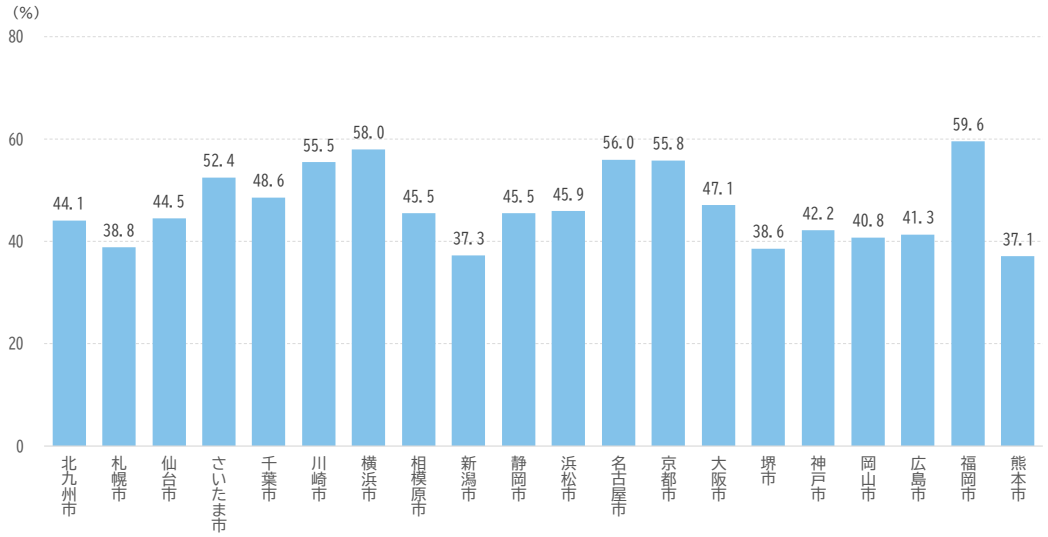
市民１人当たりの市税収入と歳入に占める市税の割合（普通会計決算-R3年度）



出典：北九州市

・市民１人当たりの市税収入は、令和3年度では18万7千円となっている。
・歳入に占める市税の割合は、政令市の中で19番目となっている。

自主財源比率　（政令市比較）

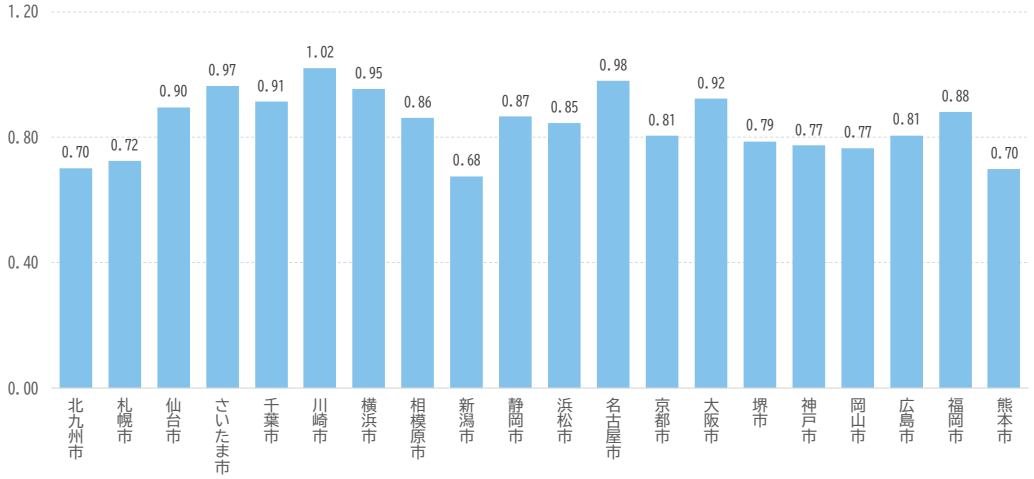


注：R3年度決算額に基づく数値

出典：「大都市比較統計年表／令和3年」

・自主財源比率は、政令市の中で13番目となっている。

財政力指数　（政令市比較）

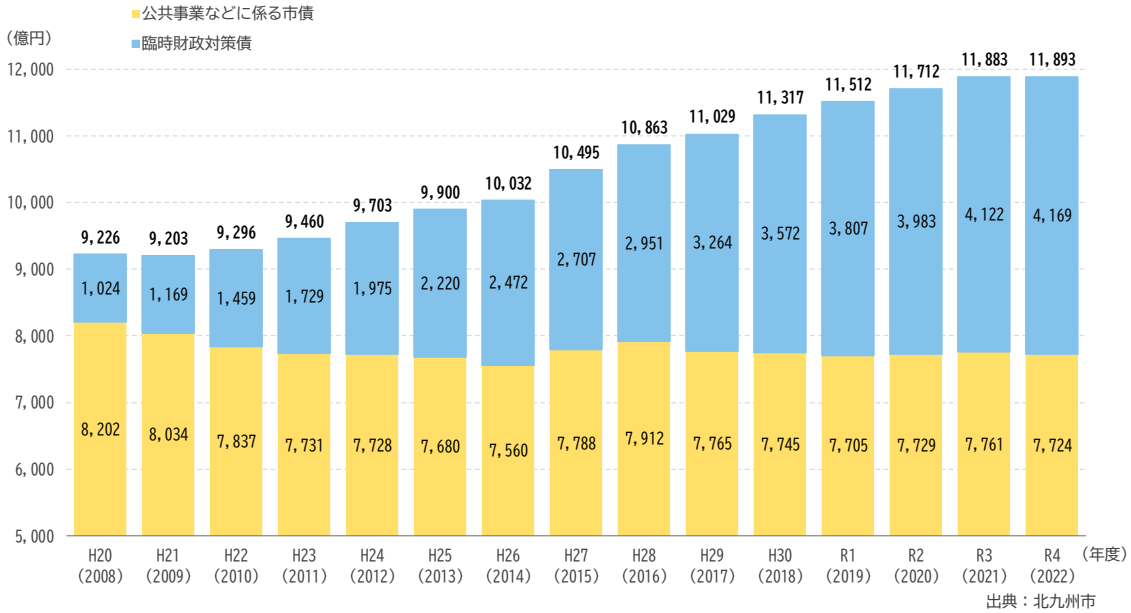


注：財政力指数とは、地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。
財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きく、財源に余裕があるといえる。

出典：「大都市比較統計年表／令和3年」

・財政力指数は0.70となっており、政令市の中で18番目となっている。

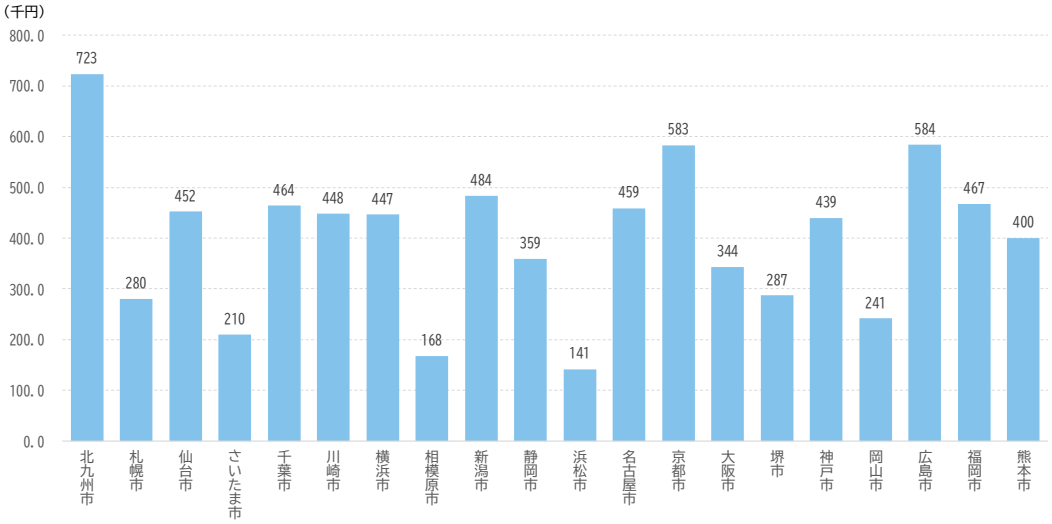
市債残高決算額の推移（一般会計）



出典：北九州市

・公共事業などに係る市債は7,724億円となっており、臨時財政対策債を加えると、1兆1,893億円となっている。

市民１人当たり市債残高（普通会計決算-R3年度）（政令市比較）

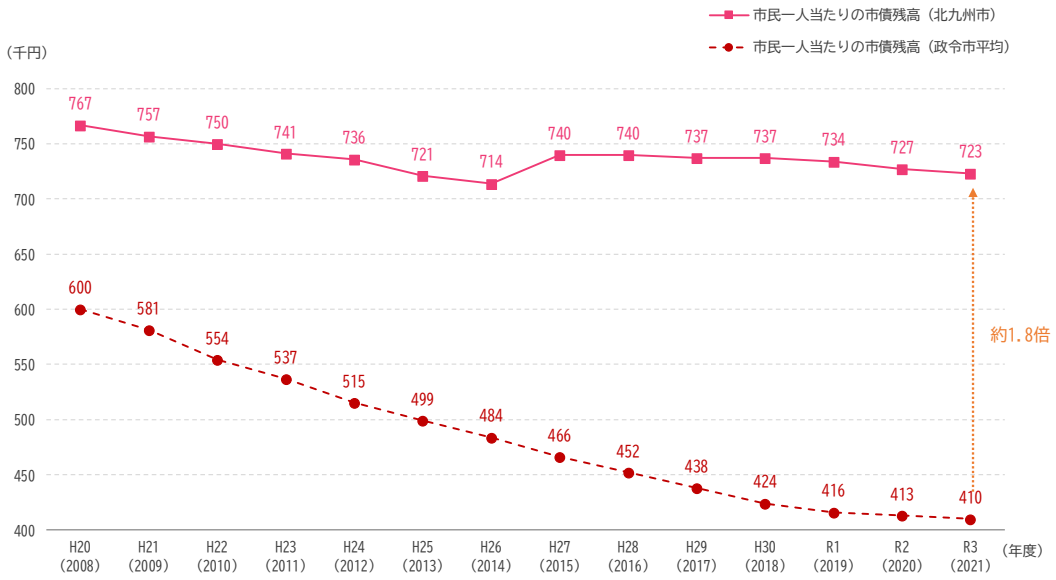


注：算出方法　R3年度市債残高÷人口（R3年10月1日現在）
　　市債残高は普通会計における数値であり、臨時財政対策債を除く

出典：北九州市

・臨時財政対策債を除く市民１人当たりの市債残高の額は、政令市の中で最も高くなっている。

市民１人当たり市債残高の推移（普通会計-臨時財政対策債を除く）

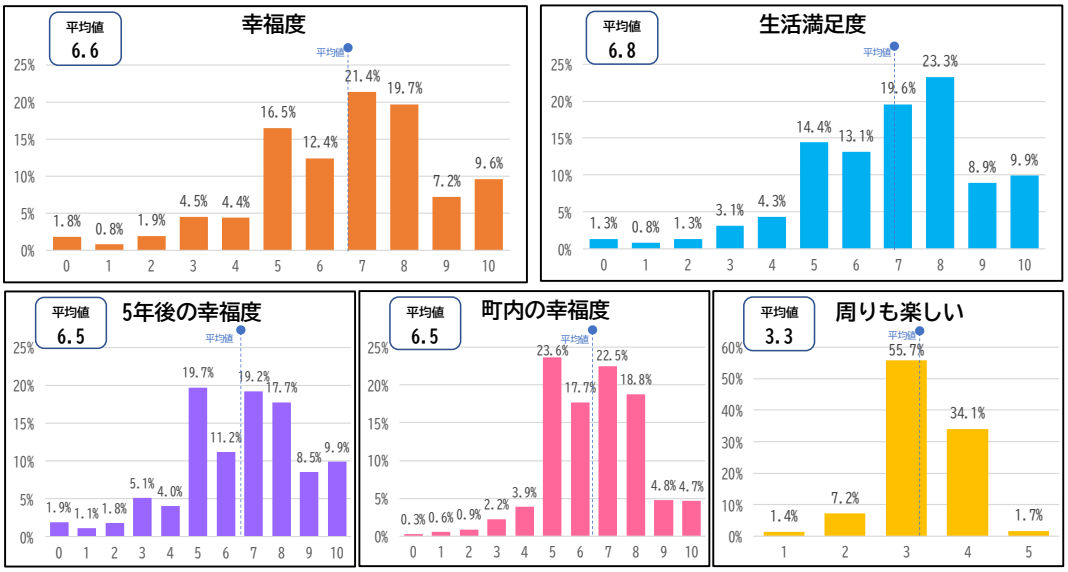


出典：北九州市

・臨時財政対策債を除く市民１人当たりの市債残高の額は、政令市平均の約1.8倍となっている。

6.　「ウェルビーイング」関連

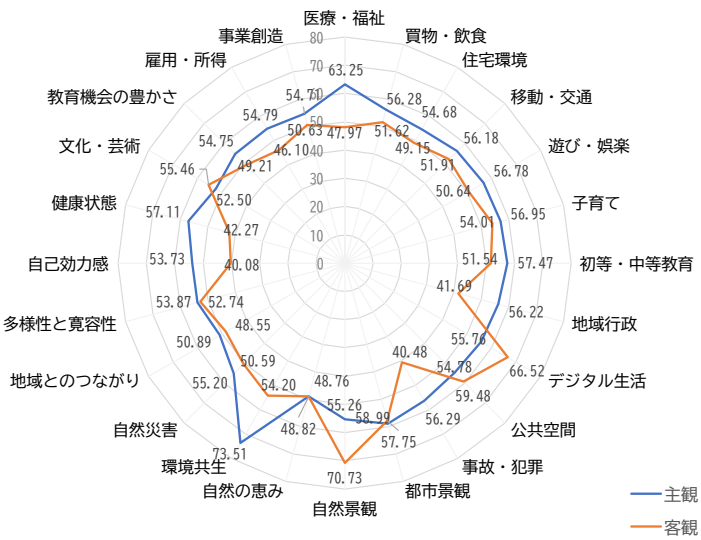
地域幸福度（Well-Being）指標



注）・地域幸福度(Well-Being)指標とは、客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したもの
（R6年2月末閲覧）

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」

地域幸福度（Well-Being）指標



因子群	因子	主観	客観
生活環境	医療・福祉	63.25	47.97
	買物・飲食	56.28	51.62
	住宅環境	54.68	49.15
	移動・交通	56.18	51.91
	遊び・娯楽	56.78	50.64
	子育て	56.95	54.01
	初等・中等教育	57.47	51.54
	地域行政	56.22	41.69
	デジタル生活	55.76	66.52
	公共空間	54.78	59.48
	事故・犯罪	56.29	40.48
	都市景観	58.99	57.75
	自然景観	55.26	70.73
	自然の恵み	48.82	48.76
	環境共生	73.51	54.20
	自然災害	55.20	50.59
地域の人間関係	地域とのつながり	50.89	48.55
	多様性と寛容性	53.87	52.74
自分らしい生き方	自己効力感	53.73	40.08
	健康状態	57.11	42.27
	文化・芸術	52.50	55.46
	教育機会の豊かさ	54.75	49.21
	雇用・所得	54.79	46.10
	事業創造	54.71	50.63

注）・地域幸福度(Well-Being)指標とは、客観指標と主観指標のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well-being）」を指標で数値化・可視化したもの
・また、地域幸福度（Well-Being）指標は、3つの因子群（“生活環境”、“地域の人間　関係”、“自分らしい生き方”）から構成され、因子群は合計24のカテゴリーに細分化される
（R6年2月末閲覧）

出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュート「地域幸福度（Well-Being）指標」

付属資料

１．策定経過
２．策定体制
３．北九州市新ビジョン検討会議
４．有識者インタビュー
５．北九州市アドバイザー意見交換会
６．市民参加の取組み
７．用語解説

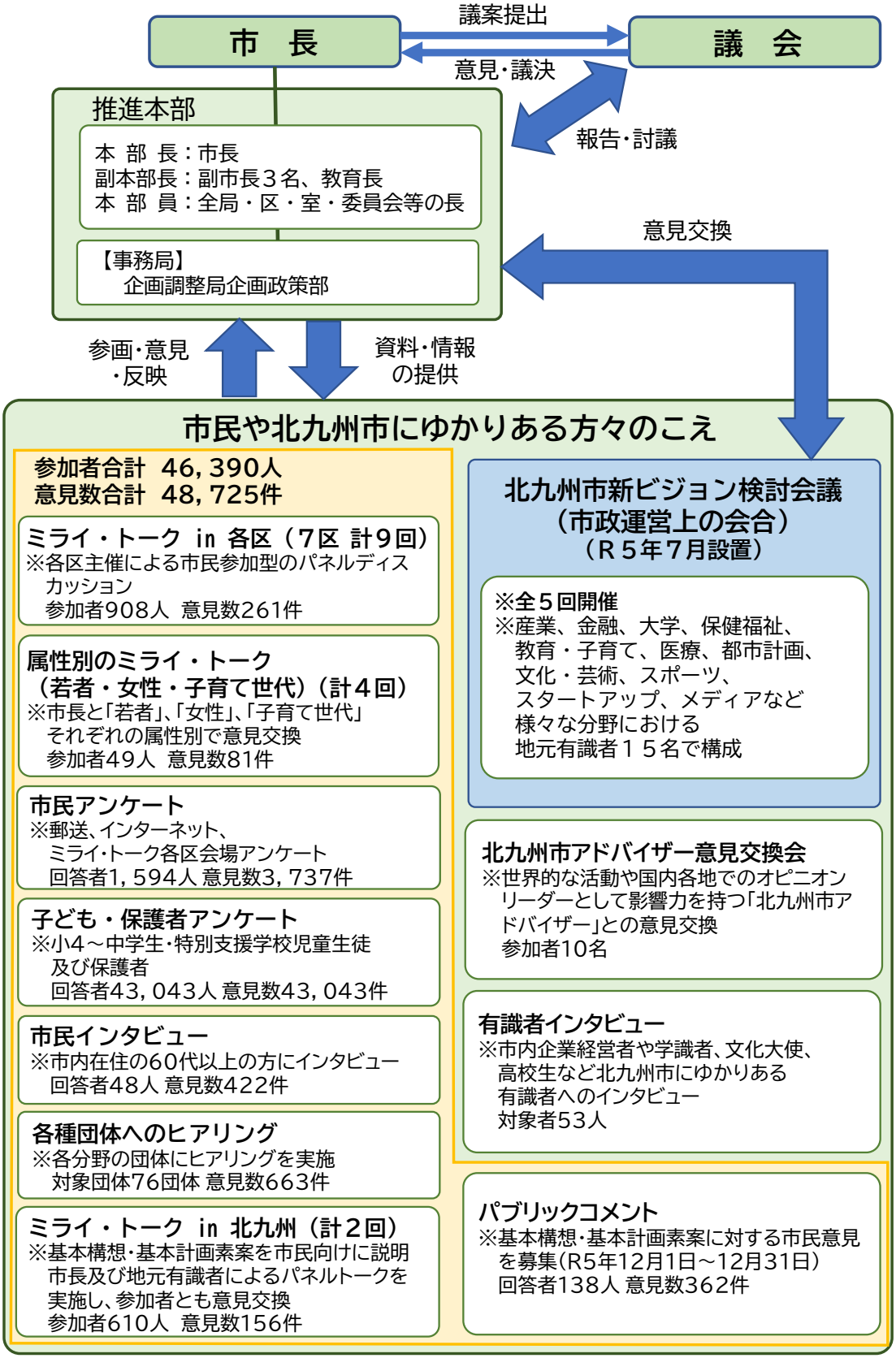
資　料

1．　策定経過

	市議会	新ビジョン検討会議	市民参加の取組み等
令和５年５月	常任委員会報告（5/17）		
6月	定例会（6/1～6/28）		
7月	常任委員会報告（7/26）	第１回北九州市新ビジョン検討会議（7/27）	・ミライ・トーク in 戸畑区（7/17） ・ミライ・トーク in 若松区①（7/22） ・ミライ・トーク in 小倉南区①（7/23） ・ミライ・トーク in 小倉南区②（7/29） ・ミライ・トーク in 小倉北区（7/30） ・市民アンケート（～11 月）
8月	常任委員会報告（8/23）	第２回北九州市新ビジョン検討会議（8/31）	・ミライ・トーク in 八幡東区（8/5） ・ミライ・トーク in 門司区（8/19） ・ミライ・トーク in 若松区②（8/20） ・働く女性とのミライ・トーク（8/24） ・ミライ・トーク in 八幡西区（8/26） ・子ども・保護者アンケート（～9 月）
9月	定例会（9/1～10/3）		・若者とのミライ・トーク（9/27,10/12）
10 月	常任委員会報告（10/18）	第３回北九州市新ビジョン検討会議（10/20）	・子育て世代とのミライ・トーク（10/10） ・市民インタビュー ・各種団体へのヒアリング（～12 月）
11 月		第４回北九州市新ビジョン検討会議（11/28）	
12 月	定例会（12/1～12/11） 常任委員会報告（12/8）		・パブリックコメント（12/1～12/31） ・ミライ・トーク in 北九州 九州国際大学 KIU ホール（12/16） 北九州国際会議場（12/17）
令和６年１月	常任委員会報告（1/24）	第５回北九州市新ビジョン検討会議（1/29）	
2月	定例会（2/20～3/25） ※2/20 議案提出		
3月	常任委員会議案審査（3/6） 常任委員会議案採決（3/7） 定例会（3/8 議案採決）		

2.　策定体制

北九州市基本構想・基本計画の策定体制



３．　北九州市新ビジョン検討会議

（１）北九州新ビジョン検討会議構成員名簿（五十音順、敬称略／令和５年７月現在）

五十音順

壹岐尾	恵美	株式会社コクーン　代表取締役
池尻	和佳子	RKB 毎日放送株式会社　アナウンサー
石田	真一	株式会社ギラヴァンツ北九州　代表取締役社長
伊藤	直子	西南女学院大学　副学長　保健福祉学部長　教授
内田	晃	北九州市立大学　副学長　地域戦略研究所　所長
津田	純嗣	北九州商工会議所　会頭
寺山	大右	日本銀行　北九州支店長
永田	昌子	産業医科大学医学部　准教授
平山	由夏	株式会社ネーブルグリーン　代表取締役
松永	裕己	北九州市立大学大学院　教授
松永	守央	公益財団法人北九州産業学術推進機構　理事長
松本	真理子	九州女子大学人間科学部　講師
三谷	康範	九州工業大学　学長
宮坂	春花	株式会社 Quore　代表取締役
柳井	雅人	北九州市立大学　学長

（２）会議経過

	開催日	議題
第１回	令和５年７月２７日（木）	１　開会 ２　構成員および事務局の紹介 ３　事務局説明 ４　意見交換（１） ５　市長挨拶 ６　意見交換（２） ７　事務局からの連絡 ８　閉会
第２回	令和５年８月３１日（木）	１　開会 ２　議題１ ～北九州市の新ビジョンを考える際の視点について～ ３　議題２ ～若者および女性の定着や活躍について～ ４　事務局からの連絡 ５　閉会
第３回	令和５年１０月２０日（金）	１　開会 ２　議題 ～新たなビジョンに係る意見の中間とりまとめ～ ３　事務局からの連絡 ４　閉会
第４回	令和５年１１月２８日（火）	１　開会 ２　議題 ～新たなビジョンの素案について～ ３　事務局からの連絡 ４　閉会
第５回	令和６年１月２９日（月）	１　開会 ２　市長挨拶 ３　議題 ～新たなビジョンの最終案について～ ４　事務局からの連絡 ５　閉会

・会議当日の資料及び会議録は、市ホームページに掲載。

４．　有識者インタビュー

期　　間　令和５年９月～令和６年１月

項　　目　【過去】将来も引き継ぐべき歴史や価値観

【現在】ポテンシャル

【未来】おおむね２０年先を見据えた目指すべき姿　など

実施人数　北九州市内在住及び北九州市にゆかりのある有識者　計５３名

※インタビュー内容は、市ホームページに掲載。

ご協力いただいた皆様（五十音順、所属・肩書きはインタビュー当時）

浅野	幸男	株式会社デンソー九州　代表取締役社長
朝比奈	一郎	青山社中株式会社　筆頭代表 CEO
麻生	渡	一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問・元福岡県知事
天野	功一	天寿し
飴野	仁子	関西大学商学部　教授
井上	羽菜	福岡県立小倉高等学校
岩元	美智彦	株式会社 JEPLAN　取締役執行役員会長
上野 中村	伶華 翔	北九州市立高等学校
遠藤	直人	株式会社 YE デジタル　代表取締役会長
大久保	大助	特定非営利活動法人 KID’s work　代表
大迫	順平	九州朝日放送株式会社　取締役
岡	秀樹	株式会社 HOA　代表取締役
小笠原	浩	株式会社安川電機　代表取締役会長
岡田	芳正	日鉄エンジニアリング株式会社　執行役員
岡野	武治	岡野バルブ製造株式会社　代表取締役社長
奥山	由布子	有限会社シロヤ　代表取締役社長／CEO
鎌田	實	諏訪中央病院　名誉院長
鎌田	恭幸	鎌倉投信株式会社　代表取締役社長
菊池	勇太	合同会社ポルト　代表
北橋	健治	前北九州市長
隈	研吾	建築家
栗栖	利蔵	ヤマトホールディングス株式会社　代表取締役副社長執行役員
佐久間	庸和	株式会社サンレー　代表取締役社長

佐々木	紀彦	PIVOT 株式会社　代表取締役社長 CEO
佐藤	崇史	株式会社資さん　代表取締役社長
柴野	雅人	北九州市立大学
嶋田	瑞生	株式会社 ATOMica　代表取締役 Co-CEO
下岡	純一郎	株式会社クアンド　代表取締役 CEO
下田	瑞葵	福岡県立東筑高等学校
末吉	興一	公益財団法人アジア成長研究所　名誉理事長・元北九州市長
髙木 佐々木	美奈 遥香	株式会社チャムズ（子育て応援サイト kids cham）　代表
高橋	理沙	LINE ヤフー株式会社
田中	亮一郎	第一交通産業株式会社　代表取締役社長
築城	則子	遊生染織工房　主宰
辻	正隆	株式会社 gaaboo　代表取締役社長/プロデューサー
辻野	晃一郎	アレックス株式会社　代表取締役社長兼 CEO
津田	純嗣	北九州商工会議所　会頭
鶴見	智	北九州工業高等専門学校　校長
葉月	けめこ	北九州市文化大使
林	良祐	TOTO 株式会社　取締役専務執行役員
古長	由里子	日本 IBM デジタルサービス株式会社　九州 DX センター長
町田	修	株式会社スターフライヤー　代表取締役社長執行役員
町田	そのこ	北九州市文化大使
松永	守央	公益財団法人北九州産業学術推進機構　理事長
三谷	康範	国立大学法人九州工業大学　学長
三井	康誠	株式会社三井ハイテック　代表取締役社長
棟安	正人	北九州ホテル協議会　会長
森田	隼人	シャボン玉石けん株式会社　代表取締役社長
柳井	雅人	北九州市立大学　学長
吉成	安恵	独立行政法人国際協力機構九州センター　所長
吉村	公登	日本製鉄株式会社　九州製鉄所総務部長

５．　北九州市アドバイザー意見交換会

開催日時　令和５年７月１３日（木）　１３：００～１４：００

開催場所　ザ・キャピトルホテル東急

内　　容　・世界や日本から見た北九州市のポテンシャル

　　・その可能性を引き出すためのアクション　など

参 加 者　北九州市アドバイザー10 名

五十音順

朝比奈	一郎		青山社中株式会社　筆頭代表 CEO
鎌田	實	＊	諏訪中央病院　名誉院長
鎌田	恭幸		鎌倉投信株式会社　代表取締役社長
木下	斉		一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス　代表理事
隈	研吾	＊	株式会社隈研吾建築都市設計事務所
佐々木	紀彦		PIVOT 株式会社　代表取締役 CEO
辻野	晃一郎		アレックス株式会社　代表取締役社長兼 CEO
林	英恵	＊	Down to Earth 株式会社　代表取締役
宮田	裕章		慶應義塾大学医学部　教授
山口	周		株式会社ライプニッツ　代表取締役

＊オンライン参加

※資料及び動画等は、市ホームページに掲載。

６．　市民参加の取組み

（1）ミライ・トーク in 各区

・まちづくり活動など各区で活躍されている方をパネリストとして、「区の将来像」をテーマとした市民参加型のパネルディスカッションを７区で開催。

・開催内容、日時及び参加人数等

開催内容	開催日時	参加人数	Youtube 視聴回数
ミライ・トーク in 戸畑区	令和５年７月 17 日（月祝） 10 時～12 時	104 人	3,322 回
ミライ・トーク in 若松区①	令和５年７月 22 日（土） 13 時～15 時	76 人	1,701 回
ミライ・トーク in 小倉南区①	令和５年７月 23 日（日） 10 時 30 分～12 時	83 人	2,138 回
ミライ・トーク in 小倉南区②	令和５年７月 29 日（土） 10 時 30 分～12 時	80 人	1,395 回
ミライ・トーク in 小倉北区	令和５年７月 30 日（日） 15 時～16 時 40 分	56 人	1,929 回
ミライ・トーク in 八幡東区	令和５年８月５日（土） 13 時 30 分～15 時 30 分	149 人	1,753 回
ミライ・トーク in 門司区	令和５年８月 19 日（土） 14 時～16 時	184 人	1,216 回
ミライ・トーク in 若松区②	令和５年８月 20 日（日） 13 時～15 時	52 人	1,231 回
ミライ・トーク in 八幡西区	令和５年８月 26 日（土） 13 時～15 時	124 人	1,121 回
合計		908 人	15,806 回

※Youtube（北九州市公式チャンネル）の視聴回数は令和６年３月１日現在

・意見数　261 件

※当日の会場での意見及び市の考え方は、市ホームページに掲載。

（２）属性別のミライ・トーク

・「働く女性」「若者」「子育て世代」の属性別に市長との意見交換を実施。
・開催内容、日時及び参加者

開催内容	開催日時	参加者
働く女性との 「ミライ・トーク」	令和５年８月 24 日（木）	市内で働く 20 代から 30 代の女性８名
若者との 「ミライ・トーク」	令和５年９月 27 日（水） 令和５年 10 月 12 日（木）	29 歳以下の 社会人・大学生延べ 37 名
子育て世代との 「ミライ・トーク」	令和５年 10 月 10 日（火）	子育てをしている 市内在住者４名

・意見数　81 件
※意見交換会での意見及び市の考え方は、市ホームページに掲載。

（３）市民アンケート

・ミライ・トーク in 各区での会場や、市ホームページ等でアンケートを実施。
・アンケート実施期間
令和５年７月～１１月
・アンケート実施方法及び回答者数

アンケート実施方法	回答者数（延べ）	意見数
ミライ・トーク in 各区の来場者に アンケートを配布	1,347 人	2,663 件
市ホームページでの Web アンケート または郵送によるアンケート	247 人	1,074 件

※アンケートでの意見及び市の考え方は、市ホームページに掲載。

（4）子ども・保護者アンケート

・子ども・保護者を対象とするアンケートを実施した。
・アンケート対象者及び実施方法

アンケート対象者		実施方法
子ども	北九州市立小学校・中学校・特別支援学校に通う 小学校４年生～中学校３年生	GIGA 端末を用いた Web アンケート または紙アンケート
保護者	北九州市立小学校・中学校・特別支援学校に通う 児童・生徒の保護者	Web アンケート （保護者連絡ツール tetoru 等で周知）

・アンケート実施期間
　令和５年８月～９月
・アンケート回答者数

児童生徒	34,089 人
保護者	8,954 人
計	43,043 人

・アンケート結果は、市ホームページに掲載。

（5）市民インタビュー

・市内に居住する 60 代以上の方を対象にインタビューを実施。
・実施時期及び実施人数・意見数
　実施時期　令和５年１０月　　実施人数　４８人　　意見数　４２２件
・インタビューでの意見と市の考え方は、市ホームページに掲載。

（6）各種団体へのヒアリング

・市内の各種団体にヒアリングを実施。
・実施時期及び実施団体数・意見数
　実施時期　令和５年１０月～１２月　実施団体数　７６団体　意見数　６６３件
・ヒアリングでの意見と市の考え方は、市ホームページに掲載。

（7）ミライ・トーク in 北九州

・新たなビジョン（素案）を市民向けに説明するイベントを開催。
・当日は、市長が新たなビジョン（素案）についてのプレゼンテーションを行ったほか、北九州市新ビジョン検討会議構成員とのパネルトークを実施。
・開催日時、場所、参加人数、意見数

開催日時	場所	参加人数	意見数
令和５年 12 月 16 日（土） 13 時～15 時	九州国際大学 KIU ホール	280 人	156 件
令和５年 12 月 17 日（日） 13 時～15 時	北九州国際会議場	330 人	

・当日の会場での意見と市の考え方は、市ホームページに掲載。

（8）北九州市の新たなビジョン（素案）に対する市民意見募集

・募集期間
令和５年 12 月１日（金）～令和５年 12 月 31 日（日）
・意見提出人数、意見数
意見提出人数 138 人　　意見数 362 件）
・提出方法

方法	電子申請	電子メール	郵送	持参
人数	91 人	30 人	８人	９人
件数	158 件	145 件	47 件	12 件

・提出された意見の内訳

項目			件数
1	基本構想・基本計画全体		22 件
2	構想	北九州市が目指す都市像	３件
3		第１章　北九州市の挑戦	28 件
4		第２章　目指す都市像の実現に向けた３つの重点戦略	34 件
5	計画	第１章　計画の策定にあたって	４件
6		第２章　「稼げるまち」の実現	78 件
7		第３章　「彩りあるまち」の実現	80 件
8		第４章　「安らぐまち」の実現	55 件
9		第５章　人口増に向けた道筋	11 件
10		第６章　主要な成果指標	17 件
11		第７章　７つの個性が輝くまちづくり	17 件
12	その他		13 件

・提出された意見と市の考え方は、市ホームページに掲載。

7.　用語解説

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
あ	アーバンスポーツ	ブレイキン、パルクール、3×3、BMX、スケートボードなどの都市型スポーツを指す。 音楽やファッションなど若者文化が融合したものとして、従来のスポーツの枠を超えた領域にあり、競技者もスポーツという側面にこだわらず、遊びやカルチャーの延長線上にとらえているという特徴を持つ。		P10
	アントレプレナーシップ教育	起業家精神（チャレンジ精神、創造性、探求心等）と起業家的資質・能力（情報収集・分析力、判断力、実行力、リーダーシップ、コミュニケーション力等）を有する人材を育成する教育のこと。		P5
い	イノベーション	技術革新にとどまらず、生活スタイルや社会システムを大きく変えるような「一大革新」や「新機軸」のこと。		P3
	インターナショナルスクール	法令上特段の規定はなく、一般的には英語により授業が行われ、主に外国人児童生徒を対象とする教育施設のこと。		P11
う	ウェルビーイング	身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。		P11
	ウォーカブル	「Walkable」は「walk（歩く）」と「able（できる）」を組み合わせた造語。 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出により、まちの魅力を高め、多様な人を呼び寄せる。		P9
か	カーボンニュートラルポート	次世代エネルギーとして期待される水素・アンモニアなどの受入環境の整備や、貨物を運ぶ船や機械、トラック、臨海部の工場や発電所などの産業の脱炭素化を通じて、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指す港のこと。		P5
	回遊性	観光客や市民などが様々な場所を歩き回る行動のこと。		P20
	環境配慮型製品	環境負荷ができるだけ小さい製品やサービス又は環境負荷の低減に役立つ製品やサービスのこと。	P6	
	関係人口	移住した「定住人口」でも、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々のこと。		P24
き	気候変動	産業活動などの人為的な行為により、自然界（平均気温の上昇や海面水位の変化）や社会生活（大雨の被害や農作物の品質低下）に大きな影響を及ぼすもの。	P6	

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
	北九州エコタウン	北九州市の長年にわたる「ものづくりのまち」としての産業基盤や技術力、公害克服の過程で培われた人材・技術・ノウハウ等を活かして資源循環型社会の構築を図るため、「環境保全政策」と「産業復興」を統合した独自の地域政策のこと。	P5	
	北九州学術研究都市	2001 年 4 月に「アジアに開かれた学術研究都市」として、「新たな産業の創出・技術の高度化」を目指して福岡県北九州市若松区にオープンした研究開発・産学連携拠点のこと。		P27
	北九州市産業振興未来戦略	経済社会環境の変化に対応するとともに、北九州市が持つポテンシャルを開花させることにより、「稼げるまち」の実現を目指す産業振興戦略（令和 6 年 3 月策定）のこと。		P2
	北九州市政変革推進プラン	次世代への投資を行いつつ、行財政運営のあり方を再構築する「市政変革」に取り組むにあたり、基本原則、見直しの視点、目標値、具体的な取組項目と工程表等を定めたもののこと。（令和 6 年 3 月策定）		P4
く	グランピング	グラマラス（魅惑的な）とキャンピングを掛け合わせた造語で、テント設営や食事準備などがあらかじめ用意されているもののこと。		P27
	グリーン産業	持続可能な方法で生産された投入物、再利用の原材料、水・エネルギー・鉱物の使用を抑えた有害物質のない生産プロセス、廃棄物の再利用とリサイクル、温室効果ガスと汚染物質の排出削減、耐久性が高く長寿命の製品といった特徴を持つ産業のこと。		P7
	グリーン成長	地球温暖化への対応を経済成長の機会と捉え、産業構造や社会構造を変革し、「経済と環境の好循環」を作っていく産業政策のこと。		P7
け	刑法犯認知件数	警察等捜査機関によって犯罪の発生が認知された件数のこと。	P5	
	健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。		P17
	健康リテラシー	健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力のこと。		P13
こ	高付加価値化	ある製品やサービスに手を加えることにより、その価値を高めようとすること。	P9	
	交流人口	買い物、通勤・通学、文化、スポーツ、レジャー、観光、ビジネスなどのさまざまな目的で、その地域を訪れた（交流した）人口のこと。		P24
	コートダジュール	世界中から観光客が訪れるフランス南部、地中海海岸の人気リゾート地のこと。		P26

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
	国勢調査	国内の人口や世帯の実態を明らかにするために5年ごとに行われる統計調査のこと。		P14
	国立社会保障・人口問題研究所	厚生労働省に所属する国立の研究機関であり、社会保障及び人口問題に関する調査及び研究を行うことを通じて、国民の福祉向上に貢献することを目的として設立された研究所のこと。		P38
	雇用者報酬	現金給与や現物給与のほか、健康保険や厚生年金など雇用する側が負担する社会保険料など、生産活動から発生した付加価値の雇用者への分配額のこと。	P9	
	コワーキングスペース	さまざまな年齢、職種、所属の人たちが空間を共有しながら仕事を行うスペースのこと。		P22
	コンパクトシティ	都市の中心部やその周辺の生活利便性の高い地域に社会基盤の集中投資を行い、行政・商業施設や住宅などさまざまな機能が集積した持続可能な都市構造のこと。		P12
	コンベンション	特定の目的のために国内外から参加者を集めて行われる国際会議や学会等のこと。		P22
	合計特殊出生率	15～49歳までの女性の年齢別出生率の合計のこと。		P17
さ	サーキュラーエコノミー	従来の3Rの取組に加え、資源投入量や消費量を抑えつつ、ストックを有効活用しながら、サービス化等を通じて付加価値を生み出す経済活動のこと。		P7
	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱といった自然エネルギーのこと。温室効果ガスを排出せず、国内で生産できることから、重要な低炭素の国産エネルギー源である。		P7
	サテライトオフィス	企業または団体の本拠から離れたところに設置されたオフィスのこと。		P22
	産学官民	産業界（民間企業）、学校などの教育・研究機関、官公庁、民間（地域住民・NPO）のこと。	P5	
し	シェアオフィス	複数の企業、団体、個人がひとつのオフィス機能をもつ空間を共有すること。		P22
	資源循環型社会	廃棄物の排出が抑制され、排出された廃棄物は、可能な限り資源として適正かつ有効に利用され、どうしても利用できなかったものは、適正に処分されることにより天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される社会のこと。	P6	
	自然動態	一定期間における出生・死亡に伴う人口の動きのこと。		P14

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
	支店経済都市	企業の支社・支店が集積する都市のこと。	P7	
	市内総生産	北九州市において、一定期間内（通常１年間）に市内各経済部門の生産活動によって、新たに生み出された価値（付加価値）の評価額のこと。	P9	
	死の海	1960年代、洞海湾の水質の汚濁が進み、溶存酸素量が著しく低く生物が生息しにくい環境となっていたことから洞海湾を「死の海」と称した。	P5	
	シビックプライド	まちに対する「愛着」や「誇り」のこと。	P8	
	社会動態	一定期間における転入、転出及びその他の増減に伴う人口の動きのこと。		P14
	集散地	農産物や日用品、食用品などを生産地から集め、消費地に送り出す場所のこと。	P4	
す	スタートアップ	新しいビジネスモデルを考え新たな市場を開拓し、社会に新しい価値を提供し、社会に貢献することによって、事業の価値を短期間で飛躍的に高め、株式上場や事業売却を目指す企業や組織のこと。	P7	
	ステークホルダー	事業実施の際に、直接または間接的に影響を受ける利害関係者のこと。		P7
	スマート技術	ロボット技術や情報通信技術などの先端技術のこと。スマート技術を利用した農業を「スマート農業」と呼ぶ。		P7
	3R	天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が低減される循環型社会を形成するための取組で、まずはごみの「発生抑制」（リデュース）を行い、次に出てきたごみは「再使用」（リユース）し、再使用できない場合でも資源として「再生利用」（リサイクル）すること。		P39
せ	政令指定都市	政令で指定を受けた人口 50 万人以上の都市のこと。	P4	
	ゼロカーボンシティ	2050 年までに脱炭素社会の実現（温室効果ガスの排出を全体としてゼロとすること）を目指すことを表明した地方公共団体のこと。	P6	
て	鉄冷え	鉄鋼業の業績が低迷すること。	P7	
と	都市型住宅	都市部における敷地の狭さや周囲の環境などの問題を考慮して建てられた住宅のこと。		P30
	特区制度	国が指定した地域において、特別に、規制・制度の特例、税制・財政・金融措置などの支援を行う制度。		P6

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
	トレイルランニング	林道、砂利道、登山道などの未舗装路を走るスポーツのこと。		P25
な	七色の煙	1960 年代、四大工業地帯の一つとして発展した北九州市で見られた、様々な色がついた煙が排出されていた状況を虹にたとえて「七色の煙」と称した。	P5	
に	2地域居住	都市部と地方部に2つの拠点をもち、定期的に地方部で仕事をしたり、趣味などゆとりある生活をしたりする新しいライフスタイルの1つのこと。		P24
は	バイオマス	生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもののこと。		P26
ひ	ビオトープ	本来、生物の生息空間を指す専門用語であるが、日本では一般的に、開発事業などによって環境の損なわれた土地や都市内の空き地、校庭などに新たに造成された生物の生息空間の意味で用いられる。		P27
ふ	付加価値	企業等の事業活動によって新たに生み出された価値のこと。		P16
へ	ヘルスケア	健康の維持や増進のための行為や健康管理のこと。		P13
ほ	包摂性	包み込むという意。北九州市基本構想・基本計画においては、「個性・特徴を認めあい、一緒に活動すること」（＝インクルージョン）として定義。	P4	
	貿易不均衡	外国との貿易の結果、輸入と輸出のバランスが取れず不均衡な状態になること。	P7	
	暴力追放運動	警察・弁護士の他、関係機関と連携をとりながら、官民一体となって、相談活動や暴力追放意識高揚のための啓発活動・暴力団等の排除活動などの取組のこと。	P5	
	ポップカルチャー	漫画・アニメ・ゲーム・映画などの大衆向け文化のこと。		P10
り	リスキリング	新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する、または、させること。		P6
A	AI	Artificial Intelligence の略。「人工知能」。人工的に作られた知能を持ち、自身が学び、従来人間にしかできなかったような高度に知的な作業や判断を行うことができるコンピュータシステムやソフトウェアのこと。	P9	

	用語	解説	掲載ページ	
			基本構想	基本計画
D	DX	Digital Transformation の略。最先端のデジタル技術を企業や行政などに広く浸透させることで、人々の暮らしをより便利で豊かなものへと変革すること。	P9	
E	EV	Electric Vehicle の略。電気を動力にして動く車両で、電動車両全般のこと。		P8
G	GX	Green Transformation の略。 カーボンニュートラルの実現と産業競争力の強化を同時に実現するために、経済社会システム全体を変革させること。		P8
J	JICA	Japan International Cooperation Agency の略。開発途上国への国際協力を行っている独立行政法人国際協力機構のこと。		P28
K	KPI（成果指標）	Key Performance Indicator の略。「重要業績評価指標」。目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標。		P2
M	MaaS	Mobility as a Service の略。地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのこと。		P28
	MICE	企業等会議（Meeting）、企業などの行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称のこと。		P10
N	NPO	Non-Profit Organization の略。民間非営利組織のこと。		P3
S	SDGs未来都市	SDGs の理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高いと国から選定された都市・地域のこと。	P5	
	Sea＆Air 輸送	航空輸送と海上輸送を組み合わせた輸送のこと。		P5

北九州市・新ビジョン
北九州市基本構想・基本計画

策　　定　令和６年３月
編集・発行　北九州市　政策局　政策部　政策課
〒803-8501　北九州市小倉北区城内１番１号
TEL　093-582-2302　FAX　093-582-2176

北九州市
CITY OF KITAKYUSHU

北九州市政策局

北九州市・新ビジョンは市ホームページでご覧いただけます。

https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/28500266.html